

徳島県立国府養護学校プール建設工事に伴う
高畑遺跡発掘調査概要報告書

1990

徳島県教育委員会

例 言

1. 本書は徳島県立国府養護学校プール建設工事に伴って、徳島県立あさひ学園内において実施された発掘調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は徳島県教育委員会総務課の依頼で、徳島県教育委員会文化課が実施した。
3. 発掘調査は昭和63年7月14日から、昭和63年10月31日まで行った。
4. 整理業務は平成元年4月1日から、平成元年7月31日まで行った。
5. 本書で用いた絶対高は海拔を表わす。方位はすべて磁北である。
6. 土色の判定に際しては、小山正忠・竹原秀雄編「新版標準土色帖」によった。
7. 挿図1の地形図は建設省国土地理院発行の2万5千分の1地形図（石井・徳島図幅）を転載したものである。
8. 発掘調査・整理業務は以下の組織で行った。

発掘調査	調査主体	徳島県教育委員会文化課	
	発掘担当	島巡賢二（事務主任 当時）	全期間
		嵯峨久明（研修生 当時）	全期間
		日浦 力（社会教育主事）	一部期間
		大森秀樹・熊沢浩己・佐藤誠二	
		村尾三枝（文化財調査員 当時）	全期間
		乾 雅信（文化財調査員）	一部期間
		久保脇美朗（文化財調査員 当時）	一部期間
整理業務	業務主体	徳島県教育委員会文化課	
	整理担当	日浦 力（社会教育主事）	
		福家清司（社会教育主事）	
		乾 雅信・坂東理恵（文化財調査員）	
		奈賀啓人・山本受子（文化財調査員）	

9. 本書の執筆は島巡賢二・日浦力が行き、遺構・遺物の実測図及び実測図のトレースは文化財調査員が行った他、内輪実・原田夏美・長澤和光・中谷正明の協力を得た。

遺物観察表の作成は日浦・福家・文化財調査員が分担して行った。接合と石膏復元は谷恵子・森前美佐子、遺物の写真撮影は中西和寿の協力を得た。挿図・図版の作成は日

浦及び文化財調査員が行った。本書の編集は日浦が行った。

10. 今回の発掘調査・整理業務を通じて、多くの方々にお世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

目 次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の経緯	1
第2節	調査の経過	2
第2章	遺跡の位置と環境	4
第1節	地形的環境	4
第2節	歴史的環境	4
①	鮎喰川下流域の遺跡	5
②	高畑遺跡周辺の遺跡	7
③	「阿波国府跡」確認調査に係わる遺跡	7
第3章	高畑遺跡の発掘調査	9
第1節	調査の概要	9
第2節	まとめ	12

挿図目次

第 1 図	高畑遺跡と鮎喰川左岸主要遺跡	16
第 2 図	鮎喰川右岸主要遺跡	17
第 3 図	第 1・2 調査区遺構平面図	18
第 4 図	第 1 調査区遺構平面図	19
第 5 図	第 1 調査区溝 B・C 土層断面図	20
第 6 図	第 1 調査区流路土層断面図	20
第 7 図	第 1 調査区溝 A 出土遺物	21
第 8 図	第 1 調査区溝 C 出土遺物	22
第 9 図	第 1 調査区溝 C 出土遺物	23
第 10 図	第 1 調査区溝 B 出土遺物	24
第 11 図	第 1 調査区流路出土遺物	25
第 12 図	第 1 調査区ビット出土遺物	25
第 13 図	第 1 調査区包含層出土遺物	26
第 14 図	第 1 調査区包含層出土遺物	27
第 15 図	第 1 調査区包含層出土遺物	28
第 16 図	第 1 調査区第 2 遺構面ビット出土遺物	29
第 17 図	第 1 調査区第 2 遺構面包含層出土遺物	29
第 18 図	第 2 調査区攪乱部 A - B 壁面図	30
第 19 図	第 2 調査区攪乱部 B - C 壁面図	30
第 20 図	第 2 調査区攪乱部 C - D 壁面図	30
第 21 図	第 2 調査区攪乱部 D - E 壁面図	31
第 22 図	第 2 調査区攪乱部 E - F 壁面図	31
第 23 図	第 2 調査区溝 D 出土遺物	32
第 24 図	第 2 調査区包含層出土遺物	33
第 25 図	第 2 調査区包含層出土遺物	34
第 26 図	第 2 調査区土器だまり平・断面図	34
第 27 図	第 2 調査区土器だまり出土遺物	35

第 28 図	第 2 調査区土器だまり出土遺物	36
第 29 図	第 2 調査区土器だまり出土遺物	37
第 30 図	第 2 調査区土器だまり出土遺物	38
第 31 図	第 2 調査区溝 E 出土土器	39
第 32 図	第 2 調査区溝 E 出土土器	40
第 33 図	第 2 調査区溝 E 出土土器	41
第 34 図	第 2 調査区溝 E 出土土器	42
第 35 図	第 2 調査区溝 E 出土土器	43
第 36 図	第 2 調査区溝 E 出土遺物	44
第 37 図	第 2 調査区溝 E 出土遺物	45
第 38 図	第 2 調査区溝 E 出土遺物	46
第 39 図	第 2 調査区溝 E 出土遺物	44
第 40 図	第 2 調査区ピット出土遺物	47
第 41 図	第 2 調査区包含層出土遺物	48
第 42 図	第 2 調査区包含層出土遺物	49
第 43 図	第 2 調査区包含層出土遺物	50
第 44 図	出土地点不明遺物	51

写真図版

- PL . 1 発掘調査地遠景
発掘調査地遠景
- PL . 2 発掘調査地近景
盛土堆積状況
- PL . 3 旧地表水田面
旧地表水田面
- PL . 4 旧水田面
旧水田面
- PL . 5 第1調査区建物遺構
土器出土状況
- PL . 6 第1調査区溝C検出状況
第1調査区溝C堆積状況
- PL . 7 第1調査区溝C堆積状況
第1調査区流路堆積状況
- PL . 8 第1調査区第2遺構面ビット5
第1調査区第2遺構面ビット5
- PL . 9 第1調査区第2遺構面ビット7
第1調査区第2遺構面ビット11
- PL . 10 第1調査区第2遺構面ビット32
第1調査区第2遺構面ビット42
- PL . 11 第2調査区溝D堆積状況
第2調査区溝D堆積状況
- PL . 12 土器だまり（検出前）
土器だまり検出状況
- PL . 13 第2調査区ビット1
第2調査区ビット2
- PL . 14 第2調査区ビット3

- 第2調査区ビット6
- PL . 15 第2調査区ビット7
 - 第2調査区ビット10
- PL . 16 第2調査区ビット11
 - 第2調査区ビット12
- PL . 17 第2調査区ビット13
 - 第2調査区ビット14
- PL . 18 第2調査区ビット14(完掘)
 - 第2調査区ビット15
- PL . 19 第2調査区ビット15・16
 - 第2調査区ビット16
- PL . 20 現地説明会風景1
 - 現地説明会風景2
- PL . 21 遺構保存作業状況1
 - 遺構保存作業状況2
- PL . 22 第1調査区溝A出土遺物
- PL . 23 上 第1調査区溝A出土遺物
 - 下 第1調査区溝C出土遺物
- PL . 24 第1調査区溝C出土遺物
- PL . 25 上 第1調査区溝C出土遺物
 - 下 第1調査区溝B出土遺物
- PL . 26 上 第1調査区溝B出土遺物
 - 中 第1調査区流路出土遺物
 - 下 第1調査区ビット出土遺物
- PL . 27 第1調査区包含層出土遺物
- PL . 28 第1調査区包含層出土遺物
- PL . 29 第1調査区包含層出土遺物
- PL . 30 上 第1調査区包含層出土遺物
 - 下 第1調査区第2遺構面ビット出土遺物
- PL . 31 上 第1調査区第2遺構面包含層出土遺物

- 下 第2調査区溝D出土遺物
- PL.32 上 第2調査区溝D出土遺物
- 下 第2調査区包含層出土遺物
- PL.33 上 第2調査区包含層出土遺物
- 下 第2調査区土器だまり出土遺物
- PL.34 第2調査区土器だまり出土遺物
- PL.35 第2調査区土器だまり出土遺物
- PL.36 第2調査区土器だまり出土遺物
- PL.37 第2調査区土器だまり出土遺物
- PL.38 第2調査区土器だまり出土遺物
- PL.39 第2調査区土器だまり出土遺物
- PL.40 第2調査区土器だまり出土遺物
- PL.41 左 第2調査区土器だまり出土遺物
- 右 第2調査区溝E出土遺物
- PL.42 第2調査区溝E出土遺物
- PL.43 第2調査区溝E出土遺物
- PL.44 第2調査区溝E出土遺物
- PL.45 第2調査区溝E出土遺物
- PL.46 第2調査区溝E出土遺物
- PL.47 第2調査区溝E出土遺物
- PL.48 第2調査区溝E出土遺物
- PL.49 上 第2調査区溝E出土遺物
- 下 第2調査区ピット出土遺物
- PL.50 上 第2調査区ピット出土遺物
- 下 第2調査区包含層出土遺物
- PL.51 第2調査区包含層出土遺物
- PL.52 上 第2調査区包含層出土遺物
- 下 出土地点不明出土遺物
- PL.53 出土地点不明遺物
- PL.54 出土地点不明遺物

第1章 はじめに

第1節 調査の経緯

昭和40年、徳島市国府町矢野字松木への県立国府養護学校の建設以来、約14年が経過するが、その間十分なプール施設もなく近年に至る状況となっていた。

そこで、本格的なプール施設の建設が計画され、昭和63年度の国庫補助金の交付決定により、プール建設が実現の運びとなった。

プール建設の場所は県立国府養護学校の敷地内が校舎や諸施設等によって手狭となり適地が確保できないため、隣接する県立あさひ学園内に求められることとなった。

県立国府養護学校、県立あさひ学園が設置されている地域は地名に「国府」がつくように、古代における阿波の国府が存在していたとされる場所でもある。

予定地の周辺や県立国府養護学校においては過去数回にわたり、諸施設の建設に伴って事前の発掘調査が実施され、遺跡の存在が確認されている。このような状況から、プール建設予定地も遺跡の存在が推測された。

昭和62年度に、徳島県教育委員会文化課は同総務課より、プール建設工事に先立っての埋蔵文化財発掘調査の実施について打診を受け、昭和63年度の当初から発掘調査に着手する予定で計画を立て、諸準備を進めてきた。

しかしながら、県教委総務課から周辺対策等の理由により、63年度当初からの発掘調査の着手が出来なくなった旨の申し出があり、当初計画の変更を余儀なくされた。

その後、周辺対策等の諸問題も解決されたため、新たに発掘調査体制を整え着手することになった。

当初計画では4月に着手し、8ヶ月間で発掘調査を終了する方針であったが、この計画のまま8月に発掘調査に着手した場合、終了が年度末ちかくとなり、プール建設工事の年度内完成が不可能であることが分かった。

国庫補助事業は当該年度内に工事完成ということもあり、文化課では発掘調査体制の変更によって期限に間に合わせることにした。

文化課が通常行っている発掘調査での担当者数に増員をし、発掘調査に臨むこととなり、

昭和63年7月の後半から現地での発掘調査準備作業にとりかかり、8月から本格的な発掘調査を開始し、10月末に終了した。

第2節 調査の経過

当初の着手予定が8月にずれ込んだことをうけ、調査期間を3ヶ月間に短縮するかわりに、担当者を増員して発掘調査を実施することとなった。

発掘調査地が県立あさひ学園の敷地内ということもあり、まず第一に子供達の安全の確保が優先されなければならず、発掘調査地点と学園施設とを区画する板場と、発掘調査地専用の出入口の設置がなされた。

今回の発掘調査地点は周知の遺跡として認識されていない場所であったため、遺跡存在の有無を把握するための試掘調査から着手した。

試掘調査の結果、遺跡の存在が明らかとなったため、予定地内の全面発掘調査を実施することにした。

鉤の手状の調査予定地を2分割し、西寄り部分から発掘調査に着手した。

昭和49年4月における現在地への移転の際、園舎建設のために盛り土による大規模な土地のかさあげが行われて現地形が形成されたもので、それ以前は周囲と同様な景観を呈する地形であった。

重機使用による発掘調査地内の盛り土の除去作業から開始し、暫時本格的な掘り下げに着手した。

以下、発掘調査の開始から終了に至る間の調査日誌抄を記する。

昭和63年7月14日	調査準備開始
昭和63年7月27日	プレハブ建設立ち合い
昭和63年8月4日	第1調査区盛り土、重機にて除去
昭和63年8月16日	第1調査区掘り下げ、遺構面検出作業
昭和63年8月24日	第1調査区遺構平板測量・写真撮影
昭和63年8月31日	第2調査区盛り土、重機にて除去
昭和63年9月19日	第2調査区掘り下げ、遺構面検出作業
昭和63年9月28日	第1調査区エレベーション作成
昭和63年10月1日	第2調査区写真撮影・エレベーション作成

昭和63年10月6日	第1調査区第2遺構面検出作業
昭和63年10月8日	第1調査区第2遺構面写真撮影・エレベーション作成
昭和63年10月29日	現地説明会
昭和63年10月31日	調査終了、現場撤収作業

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地形的環境

高畑遺跡は鮎喰川下流域左岸、徳島市国府町中字高畑に立地している。

名西郡神山町の山間部に源を発する鮎喰川は吉野川へ合流するまでの間、約49kmの流れを有する河川である。

鮎喰川は急峻な山間部では流路幅も狭かったが、平地部へと近づく徳島市入田町あたりから川幅を広げ、東進していた流れが眉山山塊の西端に行く手を遮られ、大きく北側へ向きをかえる徳島市国府町延命付近から流域も一段と広がり、沖積平地を形成しながら吉野川によって作られた沖積平地と一体化して行く。

本遺跡は東側に眉山山塊、西側に気延山塊の両山塊の間を流れる鮎喰川の堆積作用によって形成された沖積平地の中央部付近に位置している。

鮎喰川流路は河川改修工事等により、今日見られる単一な姿になっているが、古代においては眉山山塊の北麓近くを流れるなど、様々な様相を呈していたことが考えられ、日々土砂の堆積を繰り返しながら沖積平地を拡大していった。

今回の調査地点となった県立あさひ学園内の現地表面での標高は約9mを測る。

しかしながら、この数値は学園建設時に行われた盛り土によって人為的に形成されたものであって、本来の地表面の高さを示すものではない。

周囲の田畑において見られる土地の形状が従来からのものであり、標高約8mである。

第2節 歴史的環境

本遺跡周辺には鮎喰川と吉野川によって形成された低平で広大な沖積平地が広がり、古くから人々の営みの痕跡が随所において認められる。

鮎喰川流域の右岸では眉山山塊山麓付近一帯から沖積平地にかけて、左岸では気延山山塊山麓と沖積平地にかけてその広がりが濃密となる。

右岸において旧石器時代に属する遺跡等は検出されていないが、縄文時代の遺跡は何箇

所か確認され、定住に耐えうる土地の形成が進んだことが考えられる。弥生時代になると多くの遺跡が微高地上等に営まれ始め、以後連続として人々の営みが認められる。

左岸においても、右岸地域と同様に流れの堆積作用によって形成された沖積平地の微高地上に遺跡の立地が見られる。旧石器時代に属する遺跡や、縄文時代に属する明確な遺跡の立地はまだ確認されていない。弥生時代になると遺跡の立地がみられはじめ、引き続いて古墳の構築が行われ、国分寺・国分尼寺が造営され、さらには国府が設置される等、古代阿波の中心としての位置を占めることとなった。

① 鮎喰川下流域の遺跡

鮎喰川右岸地域

鮎喰川右岸に形成された沖積平地と、南側に連なる眉山山塊とにはさまれた地域にあたる。遺跡の立地は鮎喰川の沖積作用によって生じた微高地上から、眉山山麓にかけて点状して分布する状況を呈している。

旧石器時代 現在までのところ本地域においては、旧石器時代に属する遺構・遺物の存在は確認されていない。

縄文時代 当時の景観は現在、我々が目にするものとは異なり、海岸線に変化があったことが、城山貝塚の立地状況からもうかがえる。眉山山塊北麓には三谷遺跡あるいは南佐古浄水場遺跡と呼ばれている、徳島市水道三谷瀬過池遺跡。庄遺跡の徳島大学蔵本団地地区体育館地点、庄町3丁目地区、旧あさひ学園日赤血液センター地区。名東遺跡天理教国名大教会地区等の遺跡において、後期からの土器片が検出されている。しかしながらこれらのいずれもが遺物のみの出土で、明確な遺構の検出は見られていない。

弥生時代 縄文時代遺物の分布は微高地付近において、若干認められる程度であったが、弥生時代遺跡の分布は右岸に形成された微高地上に数多く、それも大規模な集落が長期に及んで形成された。庄遺跡・南庄遺跡・鮎喰遺跡・名東遺跡等が営まれ、前期から後期へかけての諸様相が明らかにされている。名東遺跡天理教国名大教会地区からは埋納墳に納められた扁平鈕式穴区袈裟文銅鐸が出土している。

古墳時代 沖積平地部に集落が、眉山山麓付近に古墳が営まれた。集落の立地は弥生時代と同様で、庄遺跡・南庄遺跡・鮎喰遺跡・名東遺跡等があり、拡散の傾向が見られる。古墳は眉山山塊の西端よりに数多く見られ、名東古墳群・節句山古墳をはじめとする群が形成され、多数の小規模古墳の点在とともに、積石による長大な前方後円墳の八人塚古墳、巨大横穴式石室をもつ穴不動古墳等も構築されている。

古代 左岸側に国分寺・国分尼寺、阿波国府が設置されるなど、その中心が移動したかのような感もあるが、古墳時代以降も右岸地域において人々の生活は継承されている。

庄遺跡徳島大学蔵本団地地区からは銅製の巡方・石帯、「賀専当」と銘記された墨書土器、大型掘立柱建物跡が、名東遺跡天理教国名大教会地区からも墨書土器、大型掘立柱建物跡等が検出されており、郡衙関連遺跡としての性格が認められるようであるが、郡衙の所在及び性格等に関しては、いまだ不明瞭な点が多い。大浦遺跡からは平安時代後期頃の密教法具製作跡が出土している。

鮎喰川左岸地域

鮎喰川左岸に形成された沖積平地と、西側に連なる気延山山塊とはさまれた地域にあたる。遺跡の立地は右岸地域と同様、微高地上や山麓部にかけて点在して分布する。右岸地域に比べて発掘調査例が少なく、資料検討の結果に若干の片寄りが存在する可能性もあり資料の増加が待たれる。

旧石器時代 鮎喰川右岸地区と同様に旧石器時代に属する遺構・遺物の存在は確認されていない。

縄文時代 本遺跡から数点の縄文土器片が出土しているが、明瞭な遺構に伴ったものではない。鮎喰川左岸から石井町へかけての一带の様相は十分に把握されておらず、今後の検討課題でもある。

弥生時代 現在までに知られている遺跡数等では右岸地域に及ばないまでも、多くの遺跡の存在が見られる。その代表例が矢野遺跡である。度重なる調査により国府変電所地区、よつまた地区、国府養護学校地区等に拡散して立地することが確認された、左岸地区を象徴する大規模弥生集落である。鮎喰川流域は青銅製品の出土地として知られているが沖積平地が形成されはじめる西矢野の丘陵上には銅剣1本、銅鐔3個が出土した源田遺跡がある。若干上流域にあたるが、3 km程さかのぼった右岸、入田町安都真遺跡からも銅鐔4個が出土している。

古墳時代 沖積平地の西側に連なる気延山山塊は県下でも最大の古墳群集地で、山塊東側を中心に、100基を上回る数の古墳が確認されている。大きくは気延山古墳群と呼称されているが、丘陵ごとのまとまりも認められ、尼寺古墳群、ひびき岩古墳群、日枝神社古墳群、奥谷古墳群、矢倉姫神社古墳群などとも呼ばれている。多くの古墳が小規模な円墳等であるが、巨大横穴式石室の矢野古墳、前方後方墳の奥谷1号墳、突出部を有する円墳の奥谷2号墳、三角縁神獣鏡が出土した前方後円墳の宮谷古墳など、特徴を有する古墳

の存在もみられる。

② 高畑遺跡周辺の遺跡

本遺跡の周囲には幾つかの遺跡が立地している。特筆すべきは結喰川左岸の弥生遺跡の象徴ともいえる矢野遺跡の存在である。

そのうちでも、特に本遺跡発掘調査の契機となったのは、約200m離れた国府養護学校地区で過去に実施された発掘調査によるところが大きい。

昭和57年度に高等部の校舎建設に伴って実施された調査では、弥生時代中期の住居跡・柱穴・土壇・溝等が出土している。

昭和62年度に管理棟等の増設に伴って実施された調査でも溝や住居跡等の弥生時代中・後期の遺構が出土している。

国府養護学校地区は発掘調査によって得られた資料から、矢野遺跡の東端部にあたるのではないかと考えられている。

矢野遺跡の中心付近をなすと考えられる国府変電所地区は、変電所の設備増設等に伴い幾度にもわたって発掘調査がされ、その様相が明らかにされつつある。弥生時代中・後期の住居跡・柱穴・土壇・溝等の遺構の存在を中心に、弥生時代前期から歴史時代へ至る時期的広がりをも有する複合遺跡でもあることが確認されている。

③ 「阿波国府跡」確認調査に係わる遺跡

徳島市教育委員会は地名等から、徳島市国府町に所在すると推定される「阿波国府跡」の解明にむけて取りくむことになり、昭和57年度から「重要遺跡確認調査」として国庫補助金の支出を受け、発掘調査に着手した。

従来、「阿波国府跡」は国府町府中宇田測の大御和神社付近を中心に営まれたとされているが、遺構・遺物等による具体的な裏づけは存在しなかった。大御和神社がかつて印籠大明神と呼ばれていたことに起因するところが大きい。印籠とは官印と官庁の倉庫のかぎを意味する言葉であり、国府の存在を考えるに十分なものである。

第1次調査 大御和神社の境内を約300㎡発掘調査。遺構としては掘立柱建物・柱列・井戸・石組等。遺物としては土師器・須恵器・瓦器・硯・瓦等が出土している。平安時代後期以降とされるものが主流で、国府跡等に係わるものではない。

第2次調査 大御和神社の東と北西側を約300㎡発掘調査。遺構としては掘立柱建物・柱列・溝・土壇等。遺物としては土師器・須恵器・石鍋・瓦等が出土している。平安時代後期以降とされるものが主流である。

第3次調査 大御和神社の西方約180m地点を約500m発掘調査。遺構としては溝・土壇・土壇墓・ピット類。遺物としては土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・鉄斧・瓦等が出土している。時期的には奈良時代前期から中世に至るものである。

第4次調査 大御和神社の北方約200mと南西約300mの地点を約500㎡発掘調査。遺構としては水田・土壇・ピット類。遺物としては陶磁器類が主で、土師器・須恵器・瓦器・瓦類は極少量。

第5次調査 大御和神社の南西約800mと西方約800mの地点を約500㎡と発掘調査。遺構としては掘立柱建物・溝・土壇・ピット類。遺物としては土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・瓦類が出土。平安時代後期以降に比定されるものが多い。

第6次調査 大御和神社の西方約600m地点を約500㎡発掘調査。遺構としては掘立柱建物・柱列・溝・井戸・ピット類。遺物としては土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・施釉陶器・硯・石帯・瓦埴類が出土。時期的には平安時代前～後期の様相が強く、阿波国府に関連するものと考えられる。

第7次調査 第6次調査地点の西方約50mと約250mの神明地区・かうげ地区において発掘調査を実施。第6次調査での遺構の広がりや予想されたが、旧河道と思われる状況等が見られ、国府跡に関連するような遺構の確認には至らなかった。

第8次調査 第6次調査地点の北西約200m地点において発掘調査を実施。遺構としては掘立柱建物・ピット類。遺物としては土師器・須恵器・瓦類が出土。第6次調査において確認されたと同様な時期が考えられる。

第3章 高畑遺跡の発掘調査

第1節 調査の概要

原始・古代の阿波においては、鮎喰川の下流域に形成された沖積平地が、人々の営みの場として供されていた。右岸側・左岸側ともに広大な沖積平地が存在するが、左岸側に国分寺・国分尼寺が造営されるなど、古代阿波の中核地域としての位置をしめるようになって行った。

高畑遺跡が立地する国府町はその地名がしめすように、古代阿波の国府が所在したと推定される地域である。

「国府」とは、わが国古代の地方都市の呼び名である。

太化の改新（645）以後、律令制の施行に伴って国司制度が実施され、全国各地に地方行政官庁の所在地が造られた。この地方行政官庁の所在地を国府、その主要な行政官庁の建物を国庁または国衙と称した。

現在も全国各地で国府・国庁跡の発掘調査が実施されているが、いまだなお十分に解明されているとはいえない状況である。

本県においても、徳島市教育委員会が昭和57年度から「重要遺跡確認調査」として、阿波国府跡の位置や規模の解明に取りくんている。

本遺跡の発掘調査に際しては、阿波国府跡関連の遺構の存在よりも、脇に立地する矢野遺跡国府養護学校地区で得られた調査成果等から、弥生時代を中心とした遺跡の存在が想定されていた。

県立あさひ学園が現在地に建設されたのは昭和49年で、それ以前の当該地の様子は周囲に所在する田畑と同様な光景が展開されていたようである。現在見られる地形は團舎建設時点に行われた敷地造成の盛土工事によるものである。

今回の発掘調査地となった県立あさひ学園内においては、本調査とは別個にポンプ施設建設に伴っての小規模な発掘調査が先行して実施されている。河川流路に関連すると考えられる土壌堆積や水田の跡が検出された程度で、明瞭な遺構等は検出されていない。

ポンプ施設地点でえられた発掘調査成果が、当初期待していた程の内容をもたなかった

ため、本地点においても全面発掘に取りくむ前に試掘調査を実施することにした。周囲の田畑との比高差によって盛土の厚さの概量は確認できたが、さらに掘り下げ時に排出される土壌の処理方法の検討をかねるものでもあった。旧水田面までの盛土は約1.5mの厚さを測った。この水田面は盛土が行われるまでの間、耕作が連続と繰り返えされていたようで、水田耕作土壌の最下部に3～5cm程度のぶ厚いマンガンの沈殿堆積層が認められた。

第1調査区ではこのマンガン層を撤去した面に遺構の存在が確認された。南北に長い調査区の北側寄りに点在するピットを主体とするもので、総数約40個をこえた。

これらのピットのうち、その規模と点在する間隔に規則性のみられるものが若干存在した。現況で確認できた規模は1間×2間の東西棟で、柱間の心々距離は南北方向の梁行で約1.8m、東西方向の桁行で約2mを測った。柱の根固め用と考えられる石をもつものや黒色土器のみられる柱穴もあった。黒色土器は内面黒色で外面も口縁部付近が黒色を呈する椀で、高台部分は貼り付けによる。

掘立柱建物を除去した面から溝状遺構が検出された。3条あり北側から溝A、溝B、溝Cとした。これらの溝状遺構は第1調査区を東西に貫ぬいて第2調査区方向へのびるが、第2調査区内では明瞭な継続部分を確認することはできなかった。近世の用水路が設けられており、溝A・Bに関してはとりこまれた可能性も考えられる。

溝Aからは土師器・須恵器・緑釉陶器・瓦等が出土している。溝Bからは古墳時代の土師器、平安時代の土師器・須恵器・土鍾等が出土している。

3条の溝状遺構のうちもっとも規模の大きいものが溝Cである。上面幅で約2.8cm・底部幅約0.7m前後を測る。溝A及び溝Bにおいては顕著ではなかったが、溝Cにおいては底部に砂礫の堆積が認められ、空溝的なものでなく水の流れがあったことが確認された。溝内の堆積土中から土師器・須恵器・黒色土器・瓦・土鍾等が出土している。若干の混在も認められるが、平安時代の範疇に納まると思われる。

溝Cの南側には幅約3m内外のほぼ平坦な面が見られたのち、南向きの傾斜面を形成して行く。これを断面で見ると台形断面の土手状の高まりを形作っている。これは自然地形などではなく、明らかに人の手によって形成されたものである。土手状遺構の南側堆積土は河川流路に関連するような状況がみられた。同じあさひ学園内のポンプ施設設置地点や、グラウンド内のゴミ焼却地点で確認されたのと同様な様相を呈するものであった。

第1調査区北寄りのピット遺構の下層からは多数の柱穴群が検出された。これらの柱穴群は約1m×0.8m内外の大きさで矩形の掘り方をなし、内部には柱径約20cmの柱穴痕が

認められた。約25ヶ所所在している。大型建物が数棟建つことが想定される。

第2調査区画においても第1調査区と同様な様相を有する多くの柱穴遺構が出土している。約16ヶ所見られるが攪乱を受けた部分もあり、総数としてはさらに多かったことも考えられる。こちらにも数棟の建物が建っていたことが考えられる。

第1調査区と第2調査区は便宜的に区分したものであって、遺構の性格等の違いによって分けたものではない。

大型の建物群は調査地の北側寄り部分で、調査地の東西方向にほぼいっばいに広がるような恰好で存在していた。調査区外の北側方向に建物の継続部分が存在すると考えられるが、内容・規模の全容をつかむことはできなかった。

土手状遺構等と建物遺構との間に若干の空間が存在することは、何らかの形で土手状遺構が意識の下にあったことをさすものかもしれない。

第2調査区の土器だまり遺構には土師器・須恵器・瓦等が点在していたが、これらの土器をとりあげた後の面から大型柱穴遺構が検出されたことで、その先後関係は明らかにされたといえるであろう。

溝Eの場合は大型柱穴検出時点においては確認できておらず、その後の掘り下げによって存在が明らかとなったもので、両者の先後関係を考えるうえでの資料となる。

第1調査区の掘立柱建物の南で出土した礫の黒石遺構は包含遺物がなく、時期の設定に苦慮するが、溝Aの上に一部分重なることから、溝Aより新しい時期とすることが可能である。掘り方の線が明瞭には確認できなかったが、周辺部の礫の盛り上がり状況等から、掘立柱建物と同様な年代も考えられる。

出土遺物としては土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器・瓦・土埴・縄文土器・弥生土器等が出土している。

最も量が多いのは土師器で、続いて須恵器である。この二種で遺物のほぼすべてを占めており、残りは若干の瓦類と微量の黒色土器、緑釉陶器、土埴等の割合である。

土師器には古墳時代まで溯るものも混在するが、大かたは平安時代に位置づけられるであろう。溝A、溝B、溝Eに若干古めのものも認められるようである。器種としては皿・坏が大半を占めている。

第2節 まとめ

高畑遺跡の発掘調査に際しては、矢野遺跡国府養護学校地区での調査で得られた成果等から、関連するあるいは比較検討できる遺跡の存在が予想された。

しかしながら、今回の調査で得られた資料には直接関連するものは認められなかった。

このことは矢野遺跡の東側への広がりを考えるうえでの資料、さらには弥生時代における地形を考察するうえでの参考となるものである。

本遺跡の所在する国府町は「国府」という地名が表わすように、古代の阿波国府の所在が推定され、過去何度と発掘調査が行われてきた地域である。

従来、大御和神社付近を中心として、国府域の所在が想定され説明が試みられていた。

近年の調査成果によれば、国庁域を大御和神社よりも西寄り、観音寺付近に位置すると考える見解もみられ始めている。

高畑遺跡の調査においても、平安時代の各種の遺構や遺物が検出された。

特に大型の柱穴を伴う建物遺構群、土手伏遺構、瓦類の出土等は、阿波国府跡の所在確認に資料を提供するものとなるであろう。

建物遺構であるが、この時期に径20cm程の柱を使用した建物の存在意義を考えてみた場合、とうてい一般民衆の民家であり得るはずはないし、当地に寺院が立地していたこともない。このような場合、国府に関連する何らかの建物ではなかったのかと考えることも行きすぎではないだろう。

瓦類にしてもそうであるが、民家の屋根を葺いていたものとは考えられず、同様に国府に関連する建物に使用されていたとも考えられる。

検出した大型建物遺構の正確な規模や種類については、今回の調査では全容を明らかにしえなかった。北側の未調査地部分に続いており、さらに何らかの遺構等の存在が大いに考えられる。

徳島市教育委員会が国府町神明地区で実施した調査で、高畑遺跡出土と同様な大型柱穴を多数伴う建物遺構が出土している。

神明地区でみられた遺構の規模・内容、遺物の量や内容は国府域の中心域を想定できるものであり、大御和神社付近でなく、観音寺付近に阿波国府の中樞部が存在していた可能性もでてきている。

本遺跡は神明地区から南東に約400m程離れており、国府城の中心部分に位置するとは考えられない。国府城の南辺付近にあたるのではないかと推測される。

航空写真に見られる地形の変化や、徳島市教育委員会による調査成果から、県立あさひ学園の東脇から大御和神社・千幡寺(大坊)脇を通る県道沿いから東側は、旧河川流路の左岸肩付近にあたる部分と推測される。

調査地区の南端寄りで検出された東西方向へ続くと考えられる土手状の高まりをもつ遺構の南側堆積土は、河川流路に関連したと考えられる土砂の堆積が見られた。

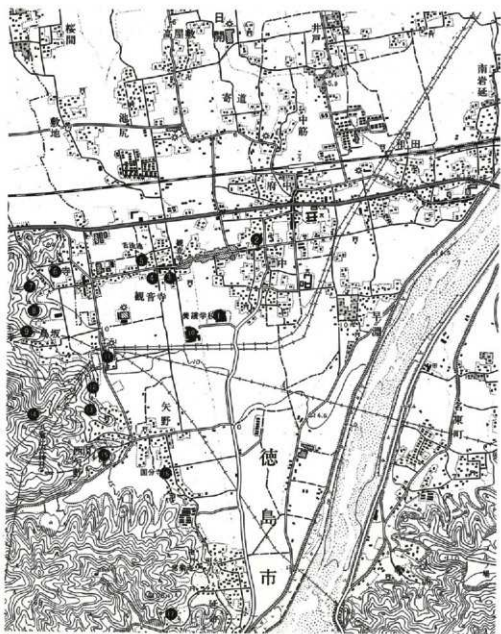
阿波国府跡確認のための発掘調査も、神明地区等の調査によって国庁関連の中枢部に近い場所での資料の蓄積は進みはじめたが、国府城の縁辺部での資料の不足が目立った。今回の県立あさひ学園内での発掘調査において得られた資料は、国府城の南辺側への広がり、位置、規模等について解明する手掛りとなり得るものと考えられる。

関連資料の少ない現時点においては、今後の詳細な比較検討のためにも遺構の保存をはかることが考慮され、遺構面の上に砂を敷き込むことによって工事の影響が直接及ばない方法がとられ、ブルが完成した今もその下に保存されている。将来に予想される建て替えの際においても、再度、遺跡の位置付けを検討することも可能となっている。

参考文献一覧

- 阿波国府跡第1次調査概要—現地説明会資料— 徳島市教育委員会 昭58
- 阿波国府跡第2次調査概報—1983年度— 徳島市教育委員会 昭59
- 阿波国府跡第3次調査概報—1984年度— 徳島市教育委員会 昭60
- 阿波国府跡第4次調査概要—1985年度— 徳島市教育委員会 昭61
- 阿波国府跡第5次調査概報—1986年度— 徳島市教育委員会 昭62
- 阿波国府跡第6次調査概報—1987年度— 徳島市教育委員会 昭63
- 阿波国府跡第7次調査概報—1988年度— 徳島市教育委員会 平元
- 第7回埋蔵文化財資料展 阿波を掘る—最近の発掘調査— 徳島市教育委員会 昭61
- 第8回埋蔵文化財資料展 阿波を掘る—最近の発掘調査— 徳島市教育委員会 昭62
- 第9回埋蔵文化財資料展 阿波を掘る—最近の発掘調査— 徳島市教育委員会 昭63
- 第10回埋蔵文化財資料展 阿波を掘る—最近の発掘調査— 徳島市教育委員会 平元
- 古墳時代の徳島市—埋蔵文化財資料展— 徳島市教育委員会 昭56
- 歴史時代の徳島市—阿波の古瓦— 徳島市教育委員会 昭57
- 弥生時代の徳島市—埋蔵文化財資料展— 徳島市教育委員会 昭58
- 埋蔵文化財ニュースNo.2 徳島市教育委員会 昭53
- 南庄遺跡発掘調査現地説明会資料 徳島市教育委員会 昭60
- 南庄遺跡現地説明会資料 徳島市教育委員会 昭63
- 徳島市埋蔵文化財発掘調査概要1 徳島市教育委員会 平元
- 第1回埋蔵文化財資料展 掘ったでよ阿波 徳島県教育委員会 昭62
- 埋蔵文化財資料展 掘ったでよ阿波 徳島県教育委員会 昭63
- 埋蔵文化財資料展 掘ったでよ阿波 徳島県教育委員会 平元
- 徳島県文化財調査概報 1976年度 徳島県教育委員会 昭53
- 徳島県文化財調査概報 昭和53年度 徳島県教育委員会 昭55
- 徳島県文化財調査概報 昭和54年度 徳島県教育委員会 昭56
- 庄・結喰遺跡 徳島県教育委員会 昭60
- 中島田遺跡・南島田遺跡 徳島県教育委員会 平元
- 新修国分寺の研究 第5巻上 昭62

- 国府・郡衙跡調査研究の歴史 仏教芸術124 昭54
- 阿波の国府と基附近の条理 徳島大学学芸学部紀要社会科学9 昭34
- 国司庁とその遺跡 名東郡誌 昭35
- 国司の庁 徳島県史第1巻 昭39
- 国府と条理との関係について 史林50-5 昭42
- 四国の国府 国府 昭44
- 阿讃地名考序説 阿波の歴史地理3 昭47
- 律令国家の成立と徳島地方 徳島市史第1巻 昭47
- 阿波の国府址について ふるさと阿波83 昭50
- 国の昇格と国府の変容 史林66-1 昭58



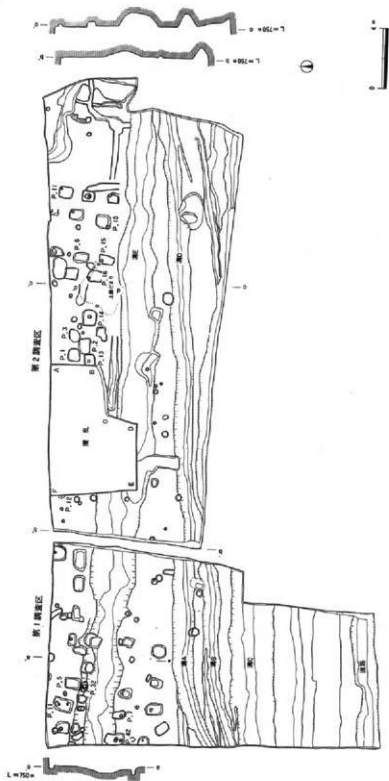
- ①高畑遺跡②阿波国府跡第1～4次調査地点③阿波国府跡第6次調査地点④阿波国府跡第7次調査地点⑤阿波国府跡第8次調査地点⑥圓分尼寺⑦ひびき岩古墳群⑧日枝神社古墳群⑨内谷古墳群⑩矢野遺跡国府養護学校地区⑪矢野遺跡国府実電所地区⑫矢野古墳⑬奥谷1号墳⑭奥谷2号墳⑮富谷古墳⑯圓分寺⑰源田遺跡

第1図 高畑遺跡と鮎喰川左岸主要遺跡

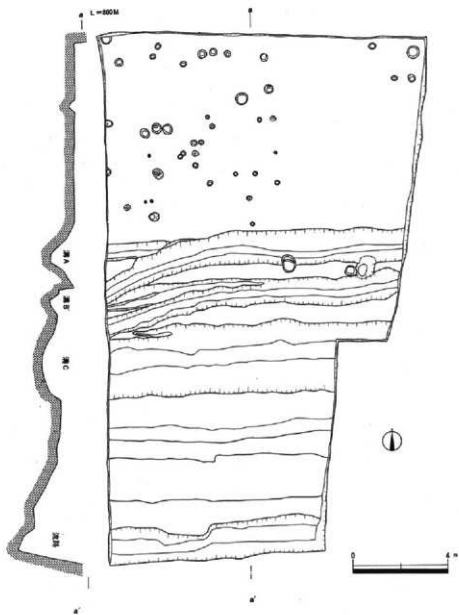


①中島田遺跡②南佐古浄水場遺跡（三谷遺跡）③庄遺跡（徳大軍本団地地区）④庄遺跡（日赤血源センター地区）⑤船塚遺跡⑥南庄遺跡（南庄南佐古権地区）⑦名東遺跡（天理教国名大教会地区）⑧節向山古墳群⑨穴不動古墳⑩八人塚古墳

第2図 船喰川右岸主要遺跡

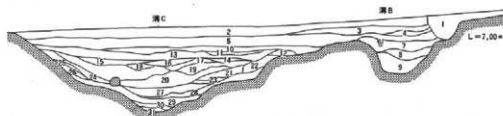


第3図 第1・2調査区遺構平面図



第4图 第1调查区遺構平面图

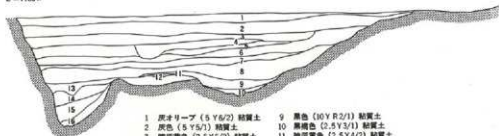
L=7.50m



- | | | |
|-------------------------|---------------------------|--------------------------|
| 1 灰オリーブ色 (5 Y6/2) 粘質土 | 11 黄褐色 (2.5 Y5/3) 粘質土 | 21 オリーブ灰 (10 Y5/2) 砂礫土 |
| 2 灰オリーブ色 (5 Y6/2) 粘質土 | 12 灰オリーブ色 (5 Y5/2) 粘質土 | 22 黄褐色 (2.5 Y5/3) 粘質土 |
| 3 灰黄色 (2.5 Y6/ 12) 粘質土 | 13 灰オリーブ色 (5 Y5/2) 粘質土 | 23 暗灰黄色 (2.5 Y5/2) 粘質土 |
| 4 黄褐色 (2.5 Y5/3) 粘質土 | 14 灰オリーブ色 (5 Y5/2) 粘質土 | 24 暗オリーブ色 (5 Y5/2) 砂質土 |
| 5 黄褐色 (2.5 Y5/3) 粘質土 | 15 灰オリーブ色 (5 Y5/3) 砂礫土 | 25 黄褐色 (2.5 Y5/3) 粘質土 |
| 6 灰黄色 (2.5 Y5/2) 粘質土 | 16 灰オリーブ色 (5 Y5/2) 砂礫土 | 26 暗オリーブ色 (5 Y5/2) 砂質土 |
| 7 比ふい黄 (2.5 Y6/3) 粘質土 | 17 オリーブ灰色 (10 Y5/2) 砂礫土 | 27 暗オリーブ色 (7.5 Y5/2) 砂礫土 |
| 8 比ふい黄 (2.5 Y6/3) 粘質土 | 18 オリーブ灰色 (10 Y5/2) 少礫砂質土 | 28 灰オリーブ色 (5 Y5/2) 粘質土 |
| 9 黄褐色 (2.5 Y5/3) 砂質粘質土 | 19 灰オリーブ色 (5 Y5/2) 粘質土 | 29 灰オリーブ色 (5 Y6/2) 砂礫土 |
| 10 黄褐色 (2.5 Y5/3) 砂質粘質土 | 20 オリーブ褐色 (2.5 Y4/3) 粘質土 | 30 灰オリーブ色 (7.5 Y5/2) 砂礫土 |
| | | 31 灰オリーブ色 (5 Y5/2) 微砂質土 |

第5図 第1調査区溝B・C土層断面図

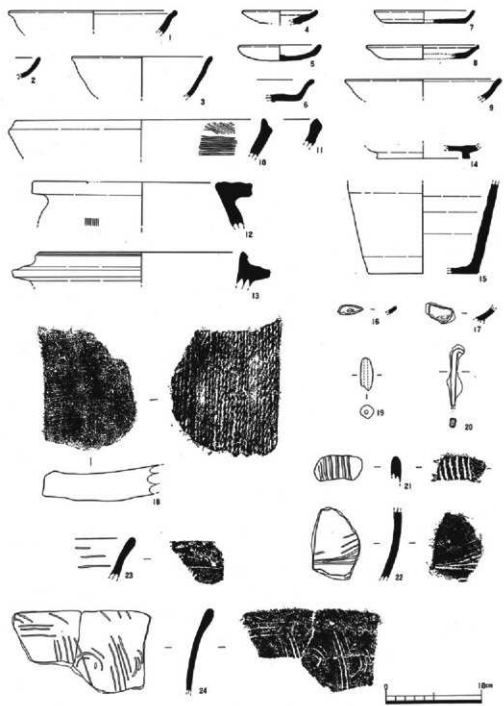
L=7.00m



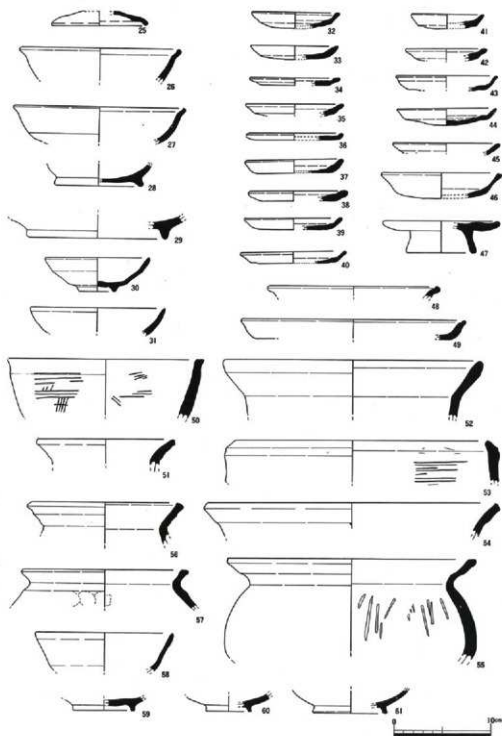
- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 灰オリーブ (5 Y6/2) 粘質土 | 9 黒色 (10 Y R2/1) 粘質土 |
| 2 灰色 (5 Y5/1) 粘質土 | 10 黒褐色 (2.5 Y3/1) 粘質土 |
| 3 暗灰黄色 (2.5 Y5/2) 粘質土 | 11 暗灰黄色 (2.5 Y4/2) 粘質土 |
| 4 暗灰黄色 (2.5 Y4/2) 粘質土 | 12 黄灰色 (2.5 Y6/1) 粘質土 |
| 5 灰黒褐色 (10 Y R4/2) 粘質土 | 13 灰色 (7.5 Y5/1) 粘質土 |
| 6 黄褐色 (2.5 Y4/1) 粘質土 | 14 灰褐色 (2 Y7/2) 粘質土 |
| 7 灰色 (5 Y4/1) 粘質土 | 15 灰褐色 (7.5 Y7/2) 粘質土 |
| 8 黒褐色 (10 Y R3/1) 粘質土 | 16 オリーブ黄色 (5 Y6/3) 粘質土 |

0 50m

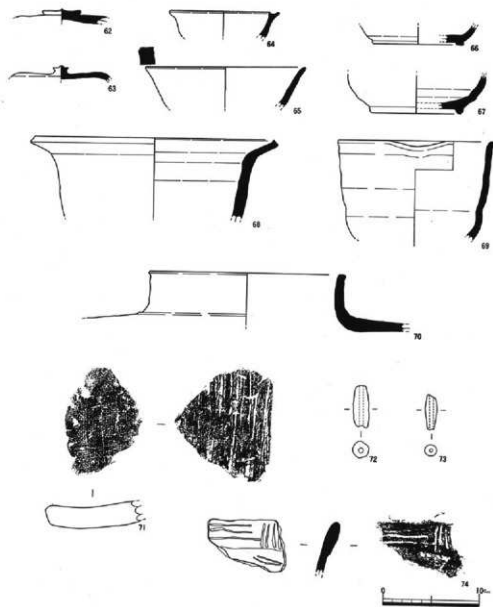
第6図 第1調査区流路土層断面図



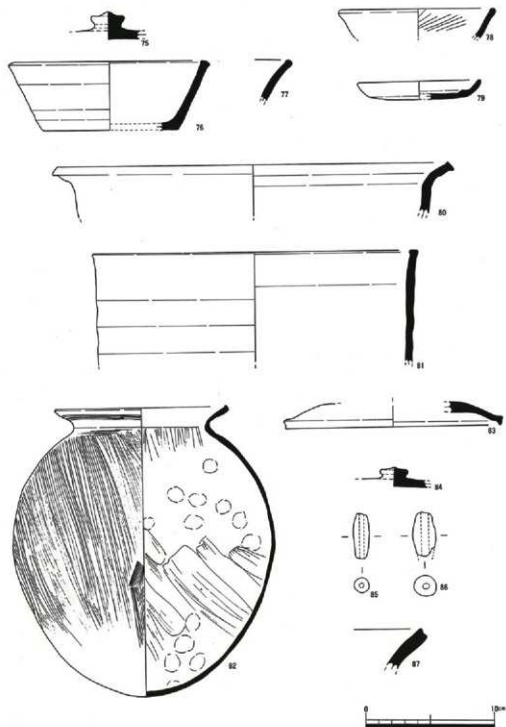
第7图 第1调查区溝A出土遺物



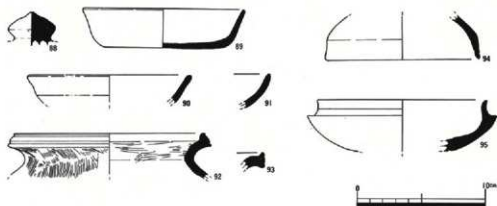
第8図 第1調査区溝C出土遺物



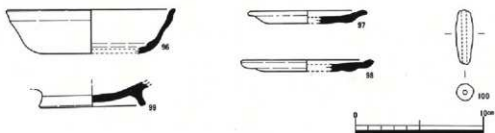
第9图 第1调查区溝C出土遺物



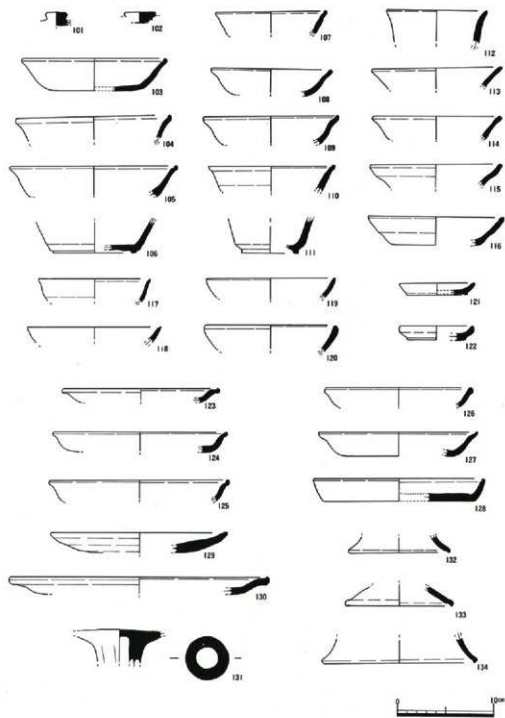
第10图 第1调查区溝B出土遺物



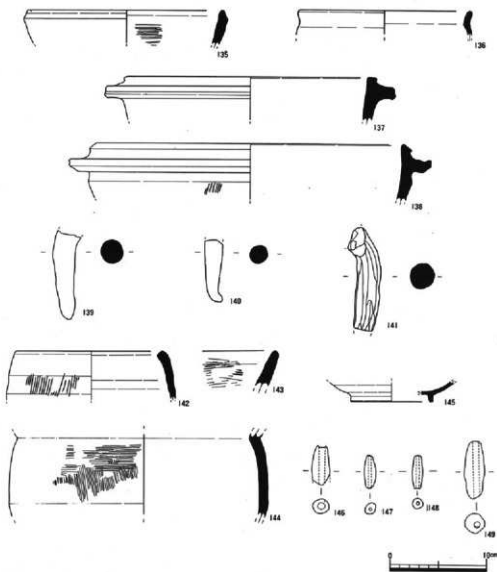
第11図 第1調査区流路出土遺物



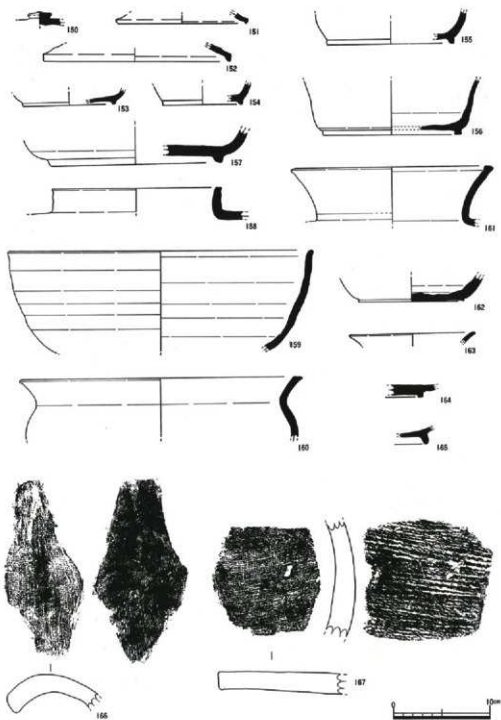
第12図 第1調査区ピット出土遺物



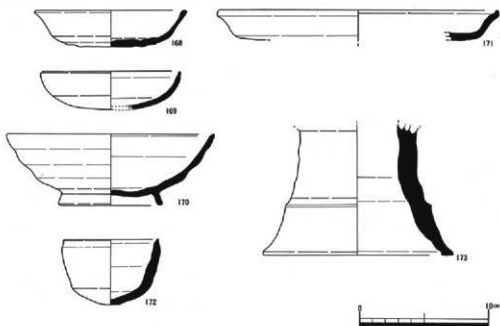
第13图 第1调查区包含层出土遗物



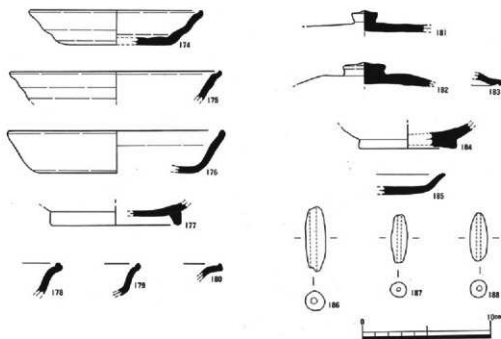
第14图 第1調査区包含層出土遺物



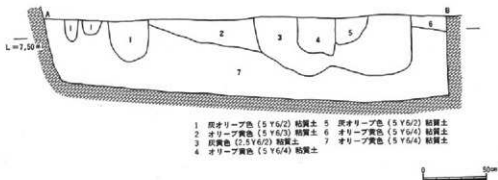
第15圖 第1調査区包含層出土遺物



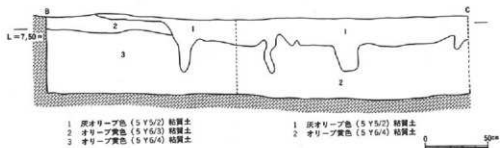
第16図 第1調査区第2遺構面ビット出土遺物



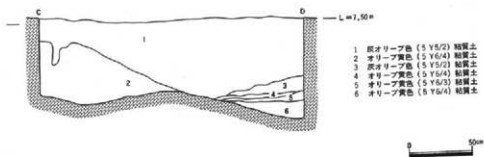
第17図 第1調査区第2遺構面包含層出土遺物



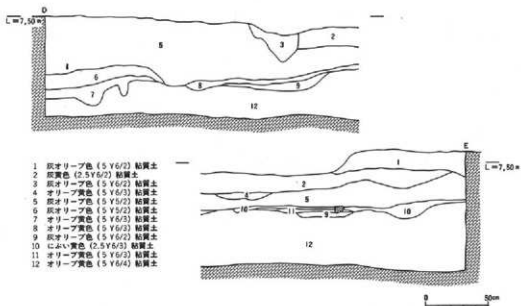
第18図 第2調査区攪乱部A-B壁面図



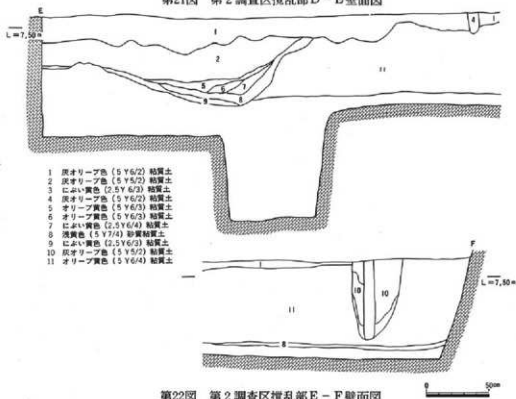
第19図 第2調査区攪乱部B-C壁面図



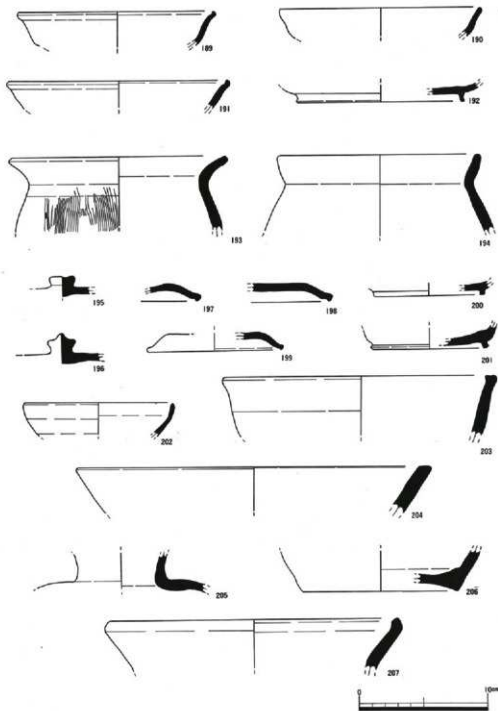
第20図 第2調査区攪乱部C-D壁面図



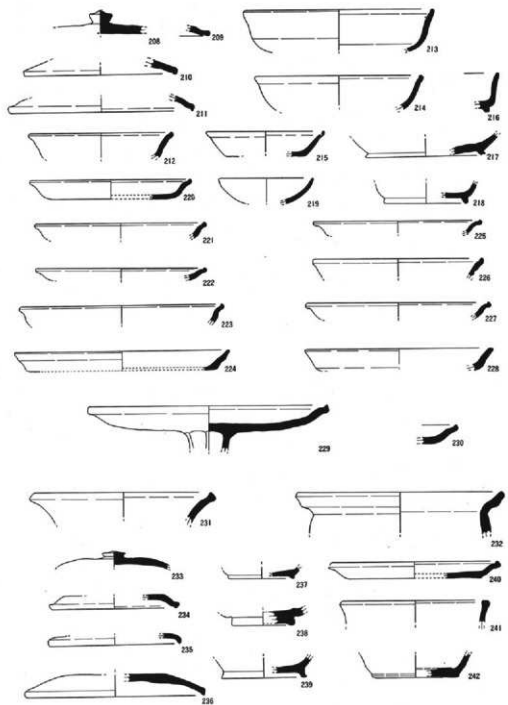
第21図 第2調査区攪乱部D-E壁面図



第22図 第2調査区攪乱部E-F壁面図

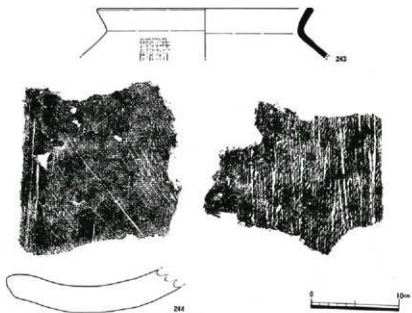


第23图 第2调查区溝D出土遺物

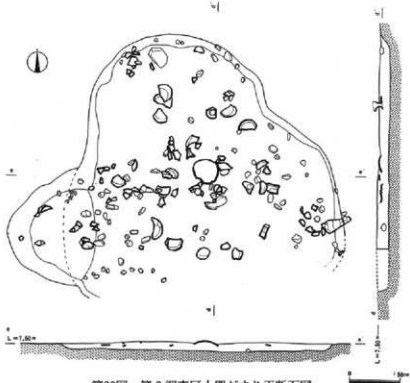


第24図 第2調査区包含層出土遺物

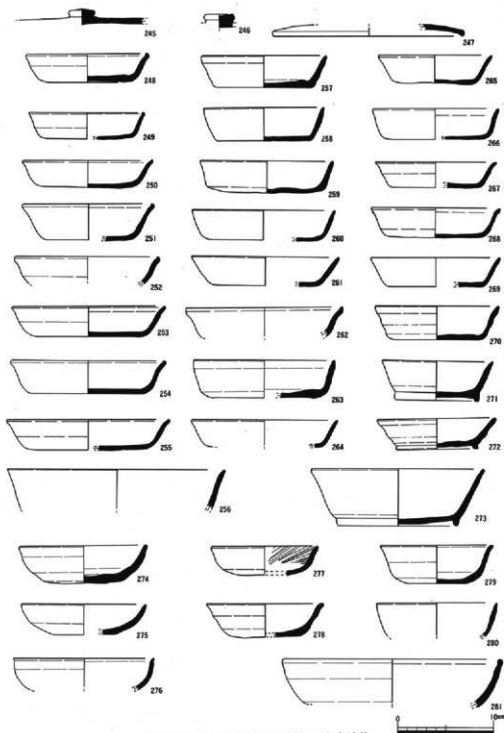
0 10cm



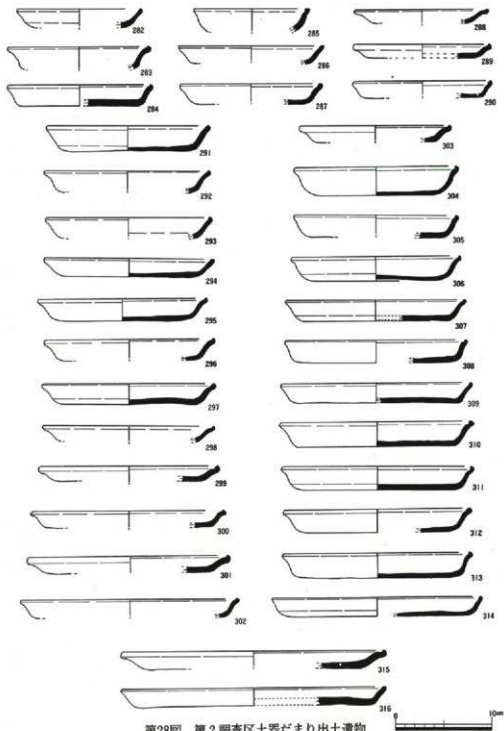
第25図 第2調査区包含層出土遺物



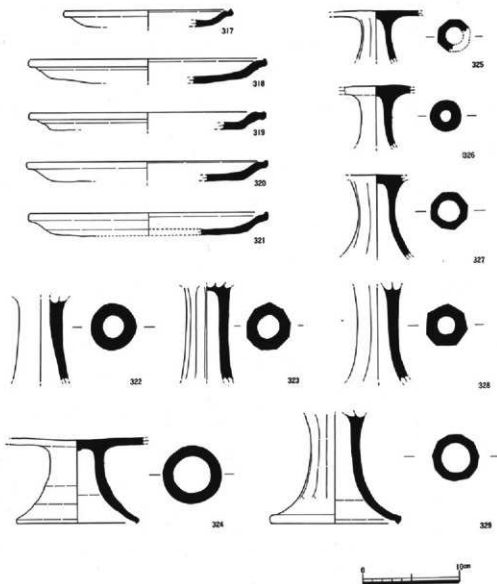
第26図 第2調査区土器だまり平面図



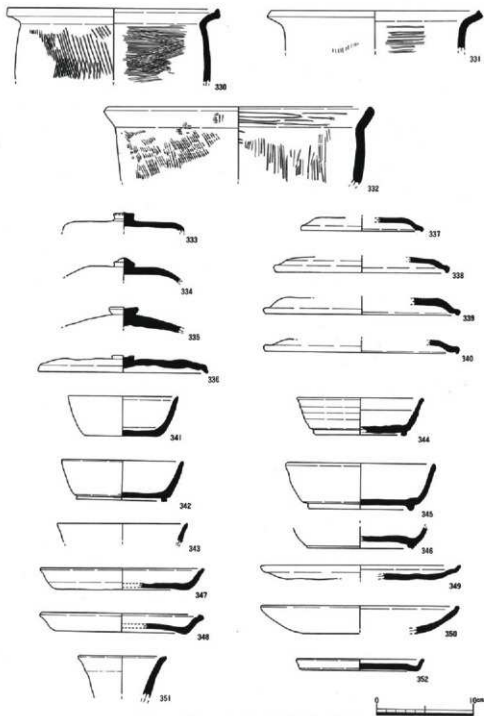
第27図 第2調査区土器だまり出土遺物



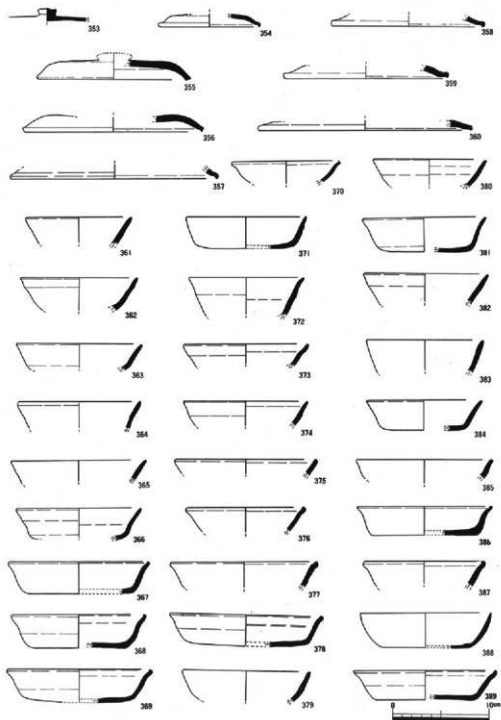
第28図 第2調査区土器だまり出土遺物



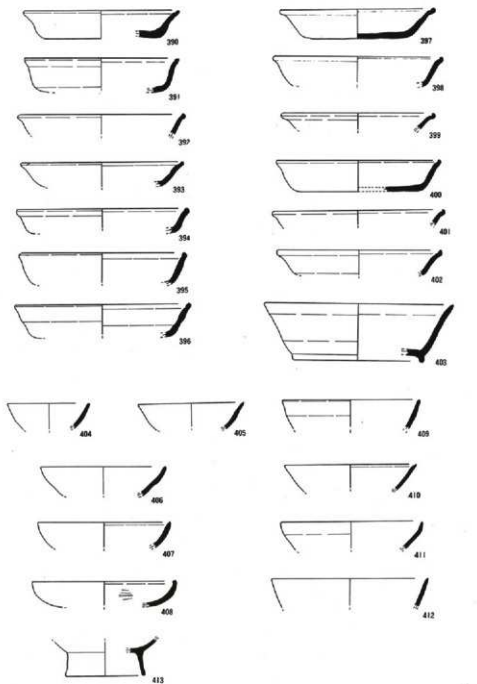
第29図 第2調査区土器だまり出土遺物



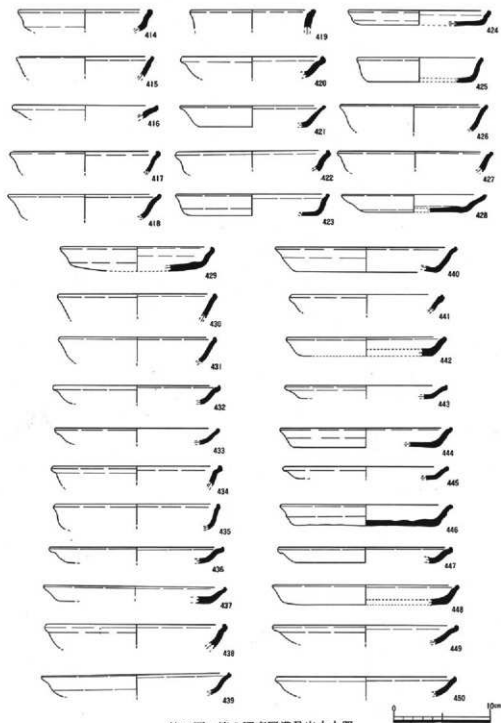
第30図 第2調査区土器だまり出土遺物



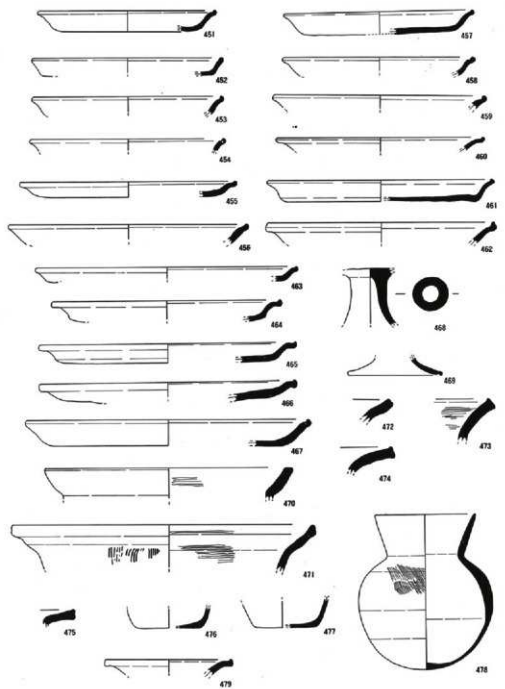
第31图 第2调查区沟E出土土器



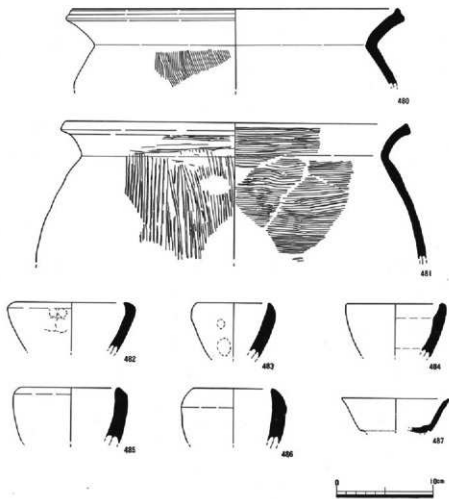
第32図 第2調査区溝E出土土器



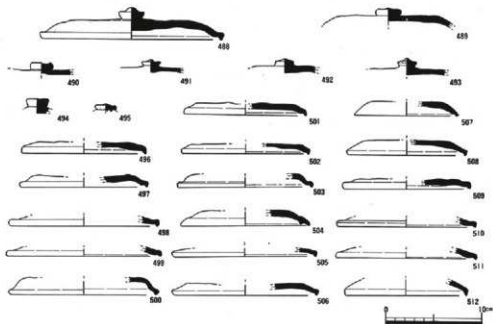
第33图 第2調査区溝E出土土器



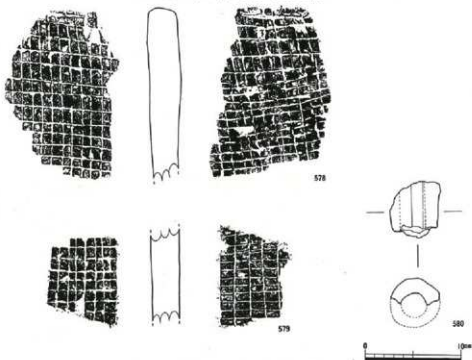
第34图 第2调查区清E出土土器



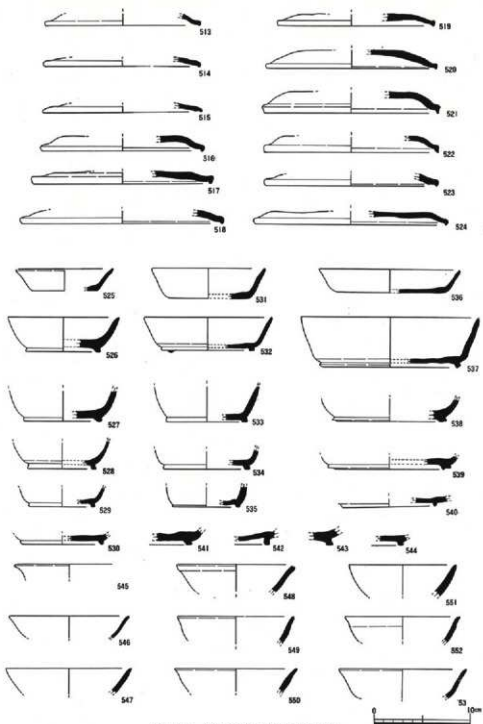
第35图 第2調査区溝E出土土器



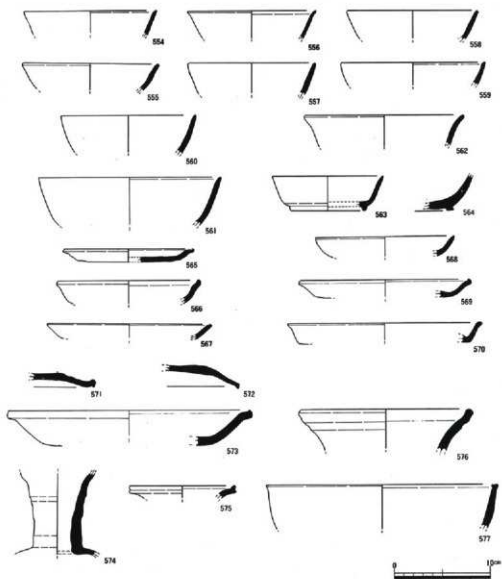
第36图 第2調査区溝E出土遺物



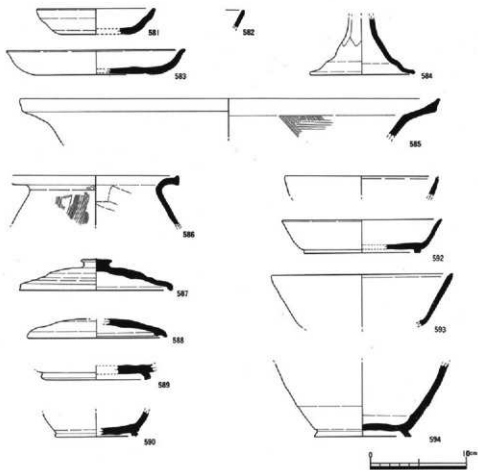
第39图 第2調査区溝E出土遺物



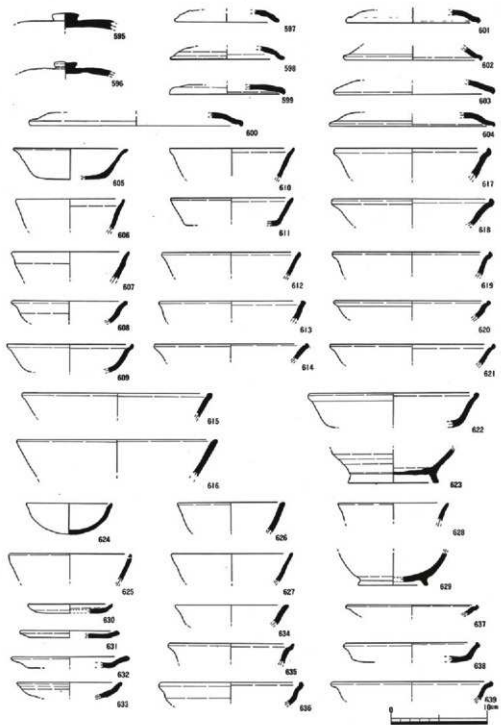
第37图 第2調査区溝E出土遺物



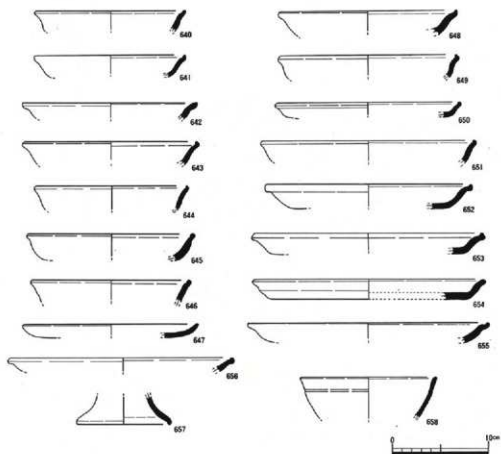
第38図 第2調査区溝E出土遺物



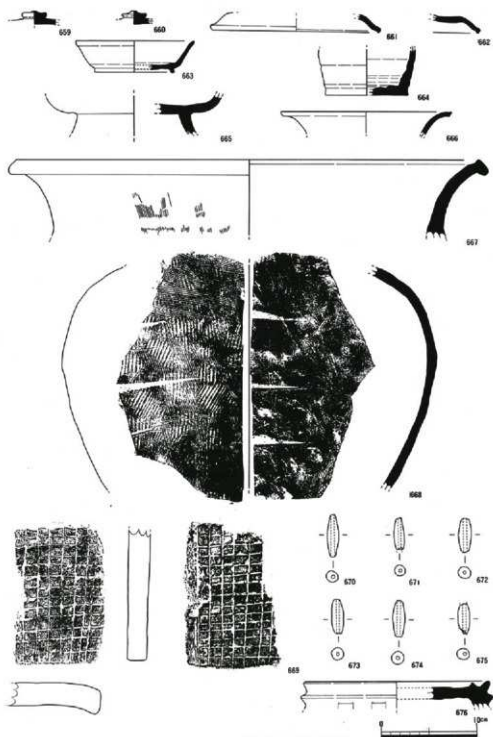
第40図 第2調査区ピット出土遺物



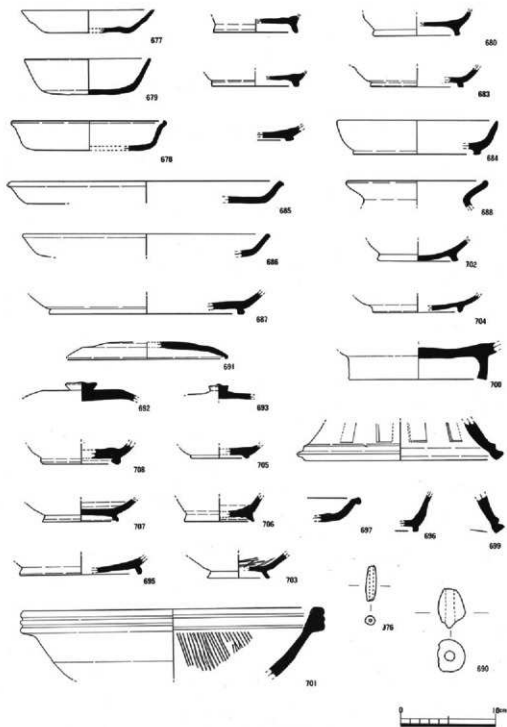
第41图 第2调查区包含层出土遗物



第42圖 第2調査区包含層出土遺物



第43图 第2調査区包含層出土遺物



第44图 出土地点不明遺物

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特 徴	手法の特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
1	土師器 杯	口径 (16.7)	口縁部ナナメ上に立ち上がり、 肩部付近でわずかに外反したの ち、少し巻き込む。	口縁部ヨコナナデ	赤褐色	赤砂粒を含む。	良好	
2	土師器 杯		体外外滴しながら立ち上がり、 肩部は丸く仕上げられる。	ヨコナナデ	褐色	精良。	良好	
3	土師器 椀	口径 (14.5)	体部は、やや内滴しながら立ち 上がり端部は外反する。端部は 丸く仕上げられる。体部は、凹凸あり。	口縁部ヨコナナデ	にぶい黄 褐色	砂粒を含む。 (3mm)	不良	
4	土師器 小皿	口径 (7.8) 器高 (1.2) 底径 (4.6)	口縁部短く道線的にナナメ上に 立ち上がり端部でこくわずかに 外反する。内面は凹凸あり。	口縁部ヨコナナデ	赤褐色	赤砂粒を含む。	不良	
5	土師器 皿	口径 (8.4) 器高 1.9 底径 (7.6)	口縁部短く立ち上がり端部は丸 く仕上げられる。体部は丸みをおび ている。底部内面の中央部がや やもり上がっている。	口縁部内外面ヨコナナデ 底部外面へう切りののちナ ナデか。 底部内面ユビオサエのもの 強いナナデ	褐色	赤砂粒を含む。	良好	
6	土師器 皿		底部平坦、口縁部やや急激に立 ち上がり、肩部付近で外反してい る。端部は丸い。	口縁部内外面ヨコナナデ。内 面丁髷。 底部へう切りののちナナデ 口縁部内面に沈積有り。	赤褐色	赤砂粒を含む。	良好	
7	土師器 皿	口径 (10.3) 器高 1.3 底径 (8.5)	口縁部短くナナメ上方に急激に 立ち上がり端部付近でわずかに外 反し、端部は丸く仕上げられる。	口縁部内外面ヨコナナデ 底部外面へう切りののちナ ナデ 底部内面ユビオサエ	赤褐色	赤砂粒を含む。	良好	
8	土師器 皿	口径 (11.4) 器高 1.5 底径 (8.6)	口縁部短くやや道線的にナナメ 上方に立ち上がる。端部付近で 外反し端部を内面に巻き込む。 底部平坦で器内厚い。	口縁部内外面ヨコナナデ 底部丁髷なナナデ	にぶい 褐色	赤砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
9	土師器 皿	口径 (15.4)	口縁部短く、わずかに内湾気味に立ち上がる。端部付近ごくわずかに外反したの少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	内褐色 外明褐色 灰色	微砂粒を含む。	やや良好	
10	土師器 鍋		口縁部ナメ上方に直線的に立ち上がる。端部付近では内反し、端部は、外むきに平坦。	ヨコナデ 体部内面にハケ目	におい 赤褐色	砂粒を多く含む。(1mm)	不良	
11	土師器 鍋		口縁部はほぼ直線的にナメ上方に立ち上がる。端部は外向きに平坦。	口縁部ヨコナデ	淡黄褐色	砂粒を含む。(3mm)	やや不良	
12	土師器 羽釜	口径 (22.5)	直角方向へ張り出した口縁端部は、平らに仕上げる。体部は内湾し、端部で水平なつばを付ける。	口縁部ヨコナデ 体部外面ハケ目	淡褐色	砂粒を多く含む。(1mm)	不良	
13	土師器 羽釜	口径 (21.2)	直立気味の短い口縁部に部厚いつばが付く。口縁端部はやや突起気味に仕上げる。	口縁部内外面、つば部ヨコナデか。	灰褐色	微砂粒を多く含む。	良好	
14	須恵器 杯	高台径 (9.6)	底部平坦で断面方形の高台が付く。高台端部はごくわずかに外反する。高台はふんばる。内底面は凹凸あり。	全体にロクロナデ	灰色	砂粒を含む。(3mm)	良好	
15	須恵器 鉢	底径 (11.4)	体部ナメ上方にほぼ直線的に立ち、底面は平坦。体部は凹凸あり。	全体にロクロナデ 内面にユヒオサエ	青灰色	砂粒を含む。(2mm)	良好	
16	緑釉陶器 不明		端部は丸く仕上げる。	調整不詳	灰色 (オリーブ の灰の釉)	微砂粒を含む。	やや不良	
17	緑釉陶器 高台付杯か		体部の一片。高台の痕跡がみられる。体部内湾しながら立ち上がる。	ヨコナデか。	灰色 (オリーブ の灰の釉)	微砂粒をやや含む。	やや不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
18	かわら	厚さ (8.0)	体部はアーチ型。平瓦。	凹面は布目。凸面は調目。端部ヘラケズリ	褐色	径5mm以下の砂礫を含む。	良好	
19	土師器 土埴	長さ 3.4 胴径 1.3 重さ(g) 3.9	管状土埴。	埴に粘土を塗きつけて成形する。外面ナデ調整。	灰色	微砂粒を含む。	不良	
20	鉄製品 釘	長さ (6.0) 厚さ (0.7×0.9)	先端部は細くなる。断面は方形。	頭部はつぶして折りまげる。				
21	土師器 陶か	口径 (15.4)	端部は肥厚し、丸く仕上げる。	外面クテミゾを施す。	黒色	砂粒を含む。	不良	
22	土師器		体部は内筒しながら立つ。	外面に灰を施す。	外面にぶい い褐色 内面黒色	砂粒を多く含む。	やや不良	
23	土師器 陶か		口縁部やや外反し、端部は丸く仕上げる。端部はやや肥厚している。	外面ヨコナデか。体部内面ハケ目	ぶい褐色	砂粒を多量に含む。	やや不良	
24	土師器 陶	口径 (34.8)	口縁部ややナメ上方に立ち上がる。端部は丸く仕上げる。体部の器内はやや薄く、端部は肥厚している。	外面に灰を施す。	灰白色 (一部灰)	砂粒を多量に含む。	やや不良	
25	土師器 杯蓋	口径 (9.6) 器高 (1.4)	口縁部の立ち上がりは外筒してナメ上方に張り出す。器部は短くナメ上方にわずかに立ち上がり丸く仕上げる。	口縁部ヨコナデ	明赤褐色	微砂粒を含む。	良好	
26	土師器 杯	口径 (18.4)	口縁部ナメ上方に立ち上がり、器部付近、わずかに外反したのち少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	浅黄色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	特徴	手法の特微	色調	胎土	完成	考
27	土師器 杯	口径 17.6 高台径 (9.4) 高台 (0.5)	口縁部がやや内高気味に立ち上がったのち、肩部付近で外反し、内側に巻き込む。	口縁部外面ヨコナデ 口縁部内面はユビオナエ	にぶい褐色	砂粒を少量含む。(2mm)	良好		
28	土師器 高台付 杯	高台径 (9.4) 高台 (0.5)	底面平坦、断面方形の高台が付く。体部ナナムエ方に立ち上がる。高台肩部は丸くおさまる。	ヨコナデ 高台は貼り付け 高台外面へう切りナデ	にぶい褐色	砂粒を含む。(2mm)	良好		
29	土師器 高台付 杯	高台径(14.6) 高台高 (1.0)	断面方形の高台が付く。高台肩部は丸い。	ヨコナデ 高台は貼り付け	褐色	微砂粒を含む。	良好		
30	土師器 高台付 椀	口径 (10.8) 器高 (3.5) 高台径 (3.8) 高台高 (0.5)	口縁部やや内高しながら立ち上がる。肩部は丸める。断面三角の高台が付く。体部は二度曲しながら立つ。	ヨコナデ 高台は貼り付け	淡褐色	砂粒を多く含む。(3mm)	やや不良		
31	土師器 椀	口径 (14)	体部内高気味に立ち上がる。口縁部は直線的で肩部はやや突起気味に仕上げる。やや器肉厚い。	口縁部強いヨコナデ	褐色	微砂粒を含む。	良好		
32	土師器 皿	口径 (9.3) 器高 1.6 底径 (7.5)	口縁部短く、大きく外方に開く。口縁肩部は丸く仕上げる。底部やや丸底状部か。	口縁部内外面、底部内面ヨコナデ 口縁部外面へう切りののちナデ	褐色	微砂粒を少量含む。	良好		
33	土師器 皿	口径 (9.3) 器高 1.5 底径 (7.5)	口縁部短く、ほぼ直線的にナナムエ外方へのび、肩部をやや突起気味に仕上げる。底部やや丸底状か。	口縁部外面ヨコナデ 口縁部外面へう切りののちナデ 内面全体磨耗により調整不詳	赤褐色	微砂粒を少量含む。	良好		
34	土師器 皿	口径 (8.4) 器高 (0.8) 底径 (7.2)	口縁部ごく短く、ナナムエ方に立ち上がり、肩部付近でわずかに外反する。	口縁部ヨコナデ	にぶい褐色	微砂粒を含む。	良好		

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
35	土師器 皿	口径 (9.4) 口径 (0.8) 器高 (9.1) 底径 (9.1)	口径ごく短くナナメ上方に立ち上がり、端部付近でわずかに外反する。	口径部ヨコナナデ	にぶい藍色	微粒を含む。 (1mm)	良好	
36	土師器 皿	口径 (10.2) 器高 (0.8) 底径 (9.1)	口径部短く、水平方向に引き出す。口径端部は丸く仕上げられる。底部平坦。	口径部ヨコナナデか。 底部内面ナナデ 肩外面へう切りののちナナデ	褐色	微粒を少量含む。	やや不良	
37	土師器 皿	口径 (10) 器高 (1.5) 底径 (8.2)	口径部短く、ナナメ上方に立ち上がり、端部は丸く仕上げられる。底径はかなり器肉薄。	口径部ヨコナナデ 底部へう切りののちナナデ 口径部と底部の境界内面に ユビオサエ	褐色	微粒を含む。 (6mm)		
38	土師器 皿	口径 (10.0) 器高 (1.1) 底径 (6.6)	口径部ごく短く、ナナメ上方に立ち上がり、端部付近でわずかに外反する。器肉は厚い。	口径部ヨコナナデ	灰白色	微粒を含む。	良好	
39	土師器 皿	口径 (9.9) 器高 (1.2) 底径 (7.4)	口径部ごく短く、ほぼ直線上に立ち上がる。底部平坦。内面に凹凸あり。	口径部ヨコナナデ	赤褐色	微粒を含む。	良好	
40	土師器 皿	口径 (10.8) 器高 (1.2) 底径 (9)	口径部短く、ナナメに立ち上がり、端部付近外反し丸く仕上げられる。底部はかなり器肉薄。	口径部内外ヨコナナデ 底部へう切りののちナナデ	淡黄褐色	微粒を含む。 (3mm)	良好	
41	土師器 皿	口径 (7.7) 器高 (1.5) 底径 (6.3)	口径部短く、ほぼ直線的にナナメ上方に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。	口径部内外面ヨコナナデ 底部へう切りか。	淡赤褐色	微粒を多く含む。	やや不良	
42	土師器 皿	口径 (7.4)	口径部ごく短く、ナナメ上方に立ち上がり、端部付近で内反したのち、少し巻き込む。	口径部ヨコナナデ	にぶい藍色	微粒を含む。	良好	
43	土師器 皿	口径 (10.2) 器高 (1.5) 底径 (8.2)	口径部ごく短く、ほぼ直線上にナナメ上方に立ち上がる。端部はごくわずかに外反する。	口径部ヨコナナデ	にぶい藍色	微粒を含む。 (1mm)	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特 徴	手法の特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
44	土師器 皿	口径 10.3 器高 1.7 底径 9.7	口径部短く、ほぼ直線的にナナメに立ち上りの、端部を丸く仕上げた。底面はやや丸底状。底部内面には成形による凹凸が顕著。	口径部短く、ナナメ上方に立ち上がり、端部付近でわずかに内反する。端部内面は凹凸がある。	口縁部ヨコナデ 底部外面へラ切りののちナデ	黄褐色 微砂粒を多く含む。	やや不良	
45	土師器 皿	口径 (10.8)	口径部ごく短く、ナナメ上方に立ち上がる。	口径部短く、ナナメ上方に立ち上がり、端部付近で外反。口径部は丸い。	口縁部ヨコナデ	緑色 微砂粒。	良好	
46	土師器	口径 (12.2) 器高 2.7 底径 (9.3)	口径部短く、ナナメ上方に立ち上がり、端部付近で外反。口径部は丸い。	口径部短く、ナナメ上方に立ち上がり、端部付近でわずかに内反する。体部内面は凹凸がある。	淡黄褐色	砂粒を少量含む。(1.3mm)	良好	
47	土師器 高台付 杯	口径 (11.5) 器高 (3.3) 高台径 (7.2) 高台高 (2.4)	口径部はほぼ水平に直線上にのびる。端部付近でわずかに内反する。体部内面は凹凸がある。	口径部短く、ナナメ上方に立ち上がり、端部付近でわずかに外反したのち、少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ 高台は貼り付け	緑色 砂粒を含む。(7mm)	良好	
48	土師器 皿	口径 (17.2)	口径部短く、ナナメ上方に立ち上がり、端部付近でわずかに外反したのち、少し巻き込む。	口径部短く、ナナメ上方に立ち上がり、端部付近でわずかに外反したのち、少し巻き込む。底面は丸みをおびる。	口縁部ヨコナデ	にぶい黄褐色	良好	
49	土師器 皿	口径 (23.2) 器高 (2.1) 底径 (20.4)	口径部短く、ナナメ上方に立ち上がり、端部付近でわずかに外反したのち、少し巻き込む。底面は丸みをおびる。	口径部短く、ナナメ上方に立ち上がり、端部付近でわずかに外反したのち、少し巻き込む。底面は丸みをおびる。	口縁部ヨコナデ	淡黄褐色 砂粒を含む。(2.5mm)	良好	
50	土師器 土属	口径 (19.0)	口径部ゆるやかに外高し、端部はやや外反する。端部は平坦に仕上げる。	口径部ヨコナデ 内外面ハケ目	褐色	砂粒を含む。(3mm)	良好	
51	土師器 碗	口径 (14.2)	口径部大きく外反し、端部は平ら。	口径部ヨコナデ 外面に凹凸がある。	にぶい褐色	砂粒を多く含む。(1mm)	良好	
52	土師器 碗	口径 (26.2)	頸部からゆるやかに外方に開き、端部は丸くつく。	外面はヨコナデ、内面上部は斜ナデか。	外にぶい黄褐色 内褐色	砂粒を含む。(1mm)	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
53	土師器 土鍋	口径(25.7)	口縁部やや直線的に立ち上がり、口縁端は内側上方に拡張する。	口縁部ヨコナデ 内面体部ハケ目	緑色	砂粒を含む。 (4mm)	不良	
54	土師器 鍋	口径(30.4)	口縁部大きく外反し、端部は平ら。	口縁部ヨコナデ	淡黄褐色	砂粒を含む。 (1mm)	やや不良	
55	土師器 釜	口径(22.1)	胴部の形態はほぼ丸体に近い。口縁部は「く」の字状に外反。頸部から口縁部にかけての器内はやや薄め。	口縁部と体部の外面にはヨコナデを施す。 内面の体部には、タチ方向の溝を施す。	淡褐色	砂粒を多く含む。(3mm)	やや不良	
56	土師器 釜	口径(15.2)	口縁部大きく外反し、端部平坦。	口縁部ヨコナデ 外面に凹凸がある。	外にぶい 褐色 内淡灰色	砂粒を含む。 (1mm)	やや不良	
57	土師器 甕	口径(17.2)	口縁部は外に開き端部は平坦。内面はヘラケズリ。	口縁部内外面はヨコナデ 体部外面はユビオサエ	内にぶい 赤褐色 外にぶい 褐色	砂粒を多く含む。(3mm)	やや不良	
58	黒色土器 杯	口径(14.2)	口縁部、やナメメ上方に立ち上がり、端部はごくわずかに内反する。	ナデ 内面下部に暗文	黒色	微砂粒を含む。	良好	
59	黒色土器 高台付杯	高台径(6.5) 高台高(0.5)	端部やや平らで、断面方形の高台が付く。高台端部はごくわずかに外反する。	全体にナデ 高台は貼り付け	暗灰黄色	微砂粒を含む。	不良	
60	黒色土器 高台付碗	高台径(4.2) 高台高(0.7)	体部ナメメ上方に内湾気味に立ち上がる。断面三角の高台が付く。高台端部は外反する。	ナデ 高台は貼り付け	黒色外面 灰色	微砂粒を含む。	不良	
61	黒色土器 碗	高台径(7.0) 高台高(0.7)	体部ナメメ上方に内湾気味に立ち上がる。断面方形の高台が付く。高台はふんばる。	ナデ 高台は張り付け 内面暗文	黒色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
62	須臾器 杯蓋	幅み径 (4.0) 側み径 (0.5)	天井部平坦。天井部で中央に扁平な擴みが付く。	天井部で中央に扁平な擴みが付く。	全体にロクロナデ。擴み貼り付け。	灰白色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
63	須臾器 杯蓋	幅み径 (1.1) 幅み高 (1.4)	天井部平坦。中央部に縦立珠形の擴みが付く。	天井部に縦立珠形の擴みが付く。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。(5mm)	良好	
64	須臾器 杯	口径 (10.0)	口縁部の立ち上がりは内側にナメ上方へ張り出し、断面が鋭い三角形を呈する。内面の口縁部と体部の境界部分に凹のくぼみがある。	口縁部の立ち上がりは内側にナメ上方へ張り出し、断面が鋭い三角形を呈する。内面の口縁部と体部の境界部分に凹のくぼみがある。	ロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
65	須臾器 杯	口径 (16.4)	口縁部やや環状的にナメ上方に立ち上がり、端部付近わずかに外反する。	口縁部やや環状的にナメ上方に立ち上がり、端部付近わずかに外反する。	全体にロクロナデ	灰色	砂粒を含む。(1mm)	良好	
66	須臾器 高台付杯	高台径 (9.0) 高台高 (0.3)	体部内湾気味に立ち上がる。断面方形の極めて低い高台が付く。	体部内湾気味に立ち上がる。断面方形の極めて低い高台が付く。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
67	須臾器 高台付杯	高台径 (9.5) 高台高 (0.5)	体部わずかに内湾気味に立ち上がる。底部平坦で断面半円形の低い高台が付く。高台先端部(裏付)は丸く仕上げる。	体部わずかに内湾気味に立ち上がる。底部平坦で断面半円形の低い高台が付く。高台先端部(裏付)は丸く仕上げる。	体部外面高台ロクロナデ。 内面やや粗雑なロクロナデ。底部外面ナデか。	灰白色	微砂粒を多く含む。	やや不良	
68	須臾器 碗	口径 (25.0)	口縁部大きく外反し、端部は鋭曲し、外面を有する。	口縁部大きく外反し、端部は鋭曲し、外面を有する。	口縁部ロクロナデ。体部内面へラズリのち粗いナデ。	灰色	微砂粒を含む。	良好	
69	須臾器 釜	口径 (15.5)	口縁部やや内湾気味に直線的に立ち上がる。端部付近わずかに外反する。端部に片口らしいものを施す。端部は丸める。	口縁部やや内湾気味に直線的に立ち上がる。端部付近わずかに外反する。端部に片口らしいものを施す。端部は丸める。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。(3mm)	良好	
70	須臾器 釜	口径 (19.1)	ほぼ真横に張っている肩から口縁部がほぼ垂直に立ち上がる。端部は平坦で外側に少し巻き込む。肩部に二本の條線。	ほぼ真横に張っている肩から口縁部がほぼ垂直に立ち上がる。端部は平坦で外側に少し巻き込む。肩部に二本の條線。	口縁部内外面ヨコナデ。肩部外面ロクロナデ。肩部外面には縦線と田印のような形を施した叩き目。内面にも叩き目。	灰色	砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
71	瓦	厚み (2.2)	体部はややアノ型にそる。	凹面は布目。凸面は織目 端部ヘラケズリ	にぶい橙	砂粒を含む。	やや不良	
72	土師器 土罐	長さ 4.4 胴径 1.6 重さ(g) 1.6	管状土罐。	棒に粘土を巻きつけて成形 外面ナデ調整	にぶい黄 橙	微砂粒を含む。 (3mm)	やや不良	
73	土師器 土罐	長さ 3.25 胴径 1.3 重さ(g) 4.3	管状土罐。	棒に粘土を巻きつけて成形 外面ナデ調整	暗赤色	微砂粒を含む。	不良	
74	土師器 編か	口径 (45)	端部はやや肥厚し、丸く仕上げ る。口縁部はややナメ上方に産卵 的に立ち上がる。	外面に文を施す。	外面にぶ い赤褐色 内面黒色	砂粒を多く含 む。	やや不良	
75	土師器 杯蓋	飲み径 (2.5) 飲み高 (1.2)	天井平坦。中央部に縦菱形の 柄みがつく。	ナデ。柄みは貼り付け。	淡赤褐 色	微砂粒多く含 む。	良好	
76	土師器 杯	口径 (14.0) 底径 (10.6) 器高 (5.4)	口縁部産卵的にナナメ上方に立 ち上がり、端部はやや平坦。底部 も平坦。器内は厚い。	口縁部ヨコナデ	褐色	微砂粒を含む。	良好	
77	土師器 杯		体部やや外湾気味に立ち上がり、 端部付近でわずかに外反のち、 少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	良好	
78	土師器 皿	口径 (11.7)	口縁部短く、やや直線上にナナ メ上方に立ち上がり、端部付近 で外反のち、少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ 内面斜放射暗文	赤褐色	精良	良好	
79	土師(質土)器 皿	口径 (6.2) 器高 1.4 底径 7.3	口縁部短く、内湾気味に立ち上 がり、端部を丸く仕上げる。底 部平坦。	口縁部内外面ロクロコナデ。 底部内面ナデ。内外面糸切 りのちも調整。	灰白色	微砂粒を少量 含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
80	土師器 罎	口径 (30.6)	体部ナナメ上方に直線的に立ち上がり、口縁部大きく外反する。端部平坦。	口縁部ヨコナデ	淡褐色	砂粒を多く含む。(2mm)	やや不良	
81	土師器 鉢	口径(24.4)	口縁部直線的に立ち上がる。端部はやや外反し、平坦に仕上げる。	口縁部ヨコナデ	褐色	砂粒を含む。(8mm)	良好	
82	土師器 壺	口径 (13.2) 器高 (22.7)	口縁部大きく外反する。体部は内湾気味に立ち上がる。	口縁部ヨコナデ。体部外面へケ目。体部内面へラミガキ、ユビオサエ。	灰白色	砂粒を含む。(2mm)	やや不良	
83	須恵器 杯蓋	口径 (16.6)	口縁部をわずかに屈曲させ、端部を削み出し、先端部を尖り気味に上げる。	全体にロクロコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
84	須恵器 杯蓋	幅み径 (2.1) 幅み高 (0.9)	天井平坦。中央に擬宝珠形の横溝を削み出し、先端部を尖り気味に上げる。	ロクロコナデ。溝みは貼り付け。	灰白色	微砂粒を含む。	不良	
85	土師器 土罐	長さ 3.6 胴径 1.2 重さ(g) 5.05	管状土罐。	埴に粘土を巻きつけて成形。外面はナデ調整	赤褐色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
86	土師器 土罐	長さ 1.8 胴径 1.3 重さ(g) 8.75	管状土罐。	埴に粘土を巻きつけて成形。外面ナデ	明褐色	砂粒を多く含む。	やや不良	
87	土師器 網か	口径	口縁部大きく外反する。端部は外向きにやや平坦。	外面ヨコナデか。	外面淡褐色 内面灰色	砂粒を多く含む。	やや不良	
88	土師器 蓋の横み部	径 3.7 高 2.4	宝珠形。	全体にナデ	褐色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
89	土師器 杯	口径 (12.6) 器高 3.1 底径 9.0	口縁部直線的にナナメ上方に急激に立ち上がり、端部をやや尖り気味に仕上げる。底部平坦。	磨耗により調整不詳	赤褐色	微砂粒を少量含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
90	土師器 樽	口径 (12.8)	口縁部ややナメ上方に環状的に立ち上がり、端部は丸く仕上げられる。	口縁部ヨコナデ	浅黄褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
91	土師器 樽		体部やや内湾気味に立ち上がる。	口縁部ヨコナデ	浅黄色	砂粒を含む。 (1mm)	やや不良	
92	土師器 甕	口径 (15.0)	口縁部大きく外反し、端部を上下に緊張し、わずかに上方に揃み上げる。端部には二条の沈線が施される。	口縁部内面、端部ヨコナデ。 口縁部内面拂方向のやや粗いハケ目。口縁部外面、側部外面、縦方向の細いハケ目。内面ヘラズリ。	にぶい褐色	微砂粒を多く含む。	良好	
93	土師器 甕		口縁部大きく外反し、端部は二条線が入る。	口縁部ナデ	にぶい褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
94	須恵器 杯臺	口径 (12.0)	口縁部大きく内湾し、端部ややみり気味に仕上げられる。	口縁部内外面口クロナデ	灰色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
95	須恵器 杯	口径 (13.4) 受部径 (15.0)	口縁部立ち上がりは、ほぼ直立気味。受け部は突起状に水平気味に張り出す。体部は内湾気味。体部の器内厚目。	口縁部受け部口クロナデ 体部外面ヘラケズリ。内面ヘラケナズリか。	灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
96	土師器 杯	口径 (13.4) 器高 3.5 底径 (7.8)	口縁部ナメ上方に、ほぼ直線的に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げられる。底部内面縁部に沈線がめぐらる。	口縁部内外面ともヨコナデ	淡赤褐色	微砂粒を多く含む。	良好	
97	土師器 皿	口径 (9.0) 器高 1.0 底径 (6.4)	口縁部短く、水平方向に引き出す。口縁端部は丸く仕上げられる。底部平坦。	口縁部内外面ヨコナデ	淡赤褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
98	土師器 皿	口径 (10.4) 器高 0.9 底径 (6.9)	口縁部短く、水平方向に引き出す。口縁端部は丸く仕上げられる。底部平坦か。	不詳	赤褐色	精良。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
99	土師器 埴 (黒色土器)	高台径 (8.0) 高台高 (0.8)	底部やや丸みをおび、断面方形の高台。	高台部分ヨコナデ 底部外面ヘラケズリのみ ナデ	内灰黒色 外褐色	砂粒を多く含む。	やや不良	
100	土師器 土埴	長さ 4.3 胴径 1.4 重さ (g) 5.9	管状土埴。	埴に粘土を巻き付け成形 外面はナデ	にぶい褐色	砂粒を多く含む。	やや不良	
101	土師器 杯蓋の狭み部	径 (2.2) 狭み高 (0.7)	天井平坦。中央部に靨宝珠形の狭みが付く。	側面ヨコナデ。狭みは貼り付け。	灰白色 淡黄褐色	やや微砂粒を含む。	やや不良	
102	土師器 蓋の狭み	径 3.2 狭み高 0.4	上部が平坦な形。靨宝珠形の狭みが中央に付く。	ヨコナデか。 狭みは貼り付け	褐色	微砂粒を含む。	良好	
103	土師器 杯	口径 (10.8) 器高 3.4 底径 (9.8)	口径部直線的にナメ上方に立ち上がり、肩部付近をわずかに外反させ、肩部を巻き込む。底部平坦。	口径部内外面ヨコナデ 底部内面丁寧なナデ 回外面ヘラ切りのちナデ	赤褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
104	土師器 杯	口径 (15.8)	口径部短く、やや直線的に立ち上がり、肩部付近でやや外反のち少し巻き込む。	口径部ヨコナデ	にぶい黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
105	土師器 杯	口径 (17.2)	口径部直線的にナメ上方に立ち上がる。肩部付近で外反し、内側に巻き込む。肩部はやや尖り気味に仕上げられる。底部と口径部の境界の器肉厚い。	口径部外面強いヨコナデ 口径部内面ナデ	淡黄褐色 (黒褐色)	微砂粒を多く含む。	やや不良	
106	土師器 高台付杯	高台径 (9.0) 高台高 (0.3) 底径 (9.4)	口径部はほぼ直線的に急激に立ち上がる。底部平坦で、断面方形の低い広大がややふんばっている。高台は貼り付け。	口径部内外面ヨコナデ。 底部内面ナデ。底部外面ヘラ切りのちナデか。高台は貼り付け。	褐色	砂粒を多量に含む。(2mm)	やや不良	
107	土師器	口径 (11.4)	口径部はほぼ直線的にナメ上方に立ち上がり、肩部付近でわずかに外反し、内側に巻き込む。	口径部内外面ヨコナデ	にぶい褐色	微砂粒を少量含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
108	土師器 杯	口径 (12.3)	口縁部ほぼ直線的にナメ上方に立ち上がり、肩部付近でやや外反し、肩部は丸く仕上げる。	不詳	褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
109	土師器 杯	口径 (14.0)	口縁部やや長めで内湾気味に立ち上がり、肩部付近で外反し、内側に巻き込む。肩部やや尖り気味。	口縁部外面ヨコナデ 口縁部内面ナデ	にがい靑色	砂粒を含む。 (2mm)	良好	
110	土師器 杯	口径 (12.7)	口縁部やや急激に立ち上がり、外反する。肩部内側に巻き込み、やや尖り気味に仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ	淡黄褐色	砂粒を少量含む。(2mm)	やや不良	
111	土師器 高台付杯	高台径 (6.0) 高台高 (0.4)	口縁部直線的に急激に立ち上がり、断面方形の低い高台が付く。	胴部ヨコナデ 内面丁草なナデ 高台は貼り付け	淡黄褐色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
112	土師器 杯	口径 (10.4)	口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、肩部付近でやや外反する。	口縁部ヨコナデ	褐色	微砂粒を含む。	良好	
113	土師器 杯	口径 (13.8)	口縁部が直線的にナメ上方に立ち上がり、肩部はやや尖り気味に仕上げる。	口縁部ヨコナデか。	にがい靑色	微砂粒を含む。	やや不良	
114	土師器 杯	口径 (14.8)	体部はやや内湾気味に立ち上がり、肩部はやや尖り気味に立ち上がる。	口縁部ヨコナデ	淡褐色	微砂粒を含む。	良好	
115	土師器 杯か	口径 (13.7)	口縁部直線的にナメ上方に立ち上がるが、肩部付近でやや内側に折れる。肩部は丸く仕上げる。	口縁部ヨコナデ	淡赤褐色	微砂粒を含む。	良好	
116	土師器 杯	口径 (13.4)	口縁部直線的にナメ上方に立ち上がり、肩部付近でごくわずかに内反する。体部に凹凸あり。	口縁部ヨコナデ	褐色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
117	土師器 碗	口径 (11.6)	口縁部ナメ上方に直線的に立ち上がり、肩部付近でわずかに外反する。肩部付近は器内が薄い。	口縁部ヨコナデ	橙色	微砂粒を含む。	やや不良	
118	土師器 碗	口径 (13.6)	口縁部ナメ上方に立ち上がる。	口縁部ヨコナデ	外或黄褐色 内にぶい	微砂粒を含む。	良好	
119	土師器 碗	口径 (13.3)	体部内湾気味に立ち上がり、肩部はごくわずかに内反し、丸く仕上げる。	口縁部ヨコナデ	赤褐色	微砂粒を含む。	良好	
120	土師器 碗	口径 (13.4)	口縁部やや内湾気味に立ち上がり、肩部付近で肥厚し、丸く仕上げる。	口縁部ヨコナデ	橙色	砂粒を含む。 (1mm)	良好	
121	土師器 皿	口径 (7.8) 器高 1.3	口縁部短く、内湾気味に立ち上がり、肩部を丸く仕上げる。底部平坦。	底部外面以外クロコナデ 底部外面糸切りののち来調 整	橙色	微砂粒を少量 含む。	良好	
122	土師器 皿	口径 (7.6) 器高 (1.5) 器径 (6.2)	口縁部ごく短く内湾しながら立ち上がる。底部平坦。	口縁部ヨコナデ	橙色	微砂粒を含む。	良好	
123	土師器 皿	口径 16.2	口縁部はほぼ直線的に立ち上がり、肩部付近で外反し、内側に巻き込む。先端部は、やや尖り気味に仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ	にぶい橙	微砂粒を多く 含む。	良好	
124	土師器 皿	口径 (17.8) 器高 (15.0) 器径 (2.1)	口縁部短く、ナメ上方に立ち上がり、肩部付近でわずかに外反したのち、少し巻込む。	口縁部ヨコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
125	土師器 皿	口径 (18.7)	口縁部ゆるやかに湾曲しながら立ち上がり、肩部付近で外反する。肩部は内側に巻き込む。外面に凹凸あり。	口縁部内外面ヨコナデ	にぶい橙	微砂粒を多く 含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
126	土師器 皿	口径 (15.1)	口縁部短く、内湾しながら立ち上がり。端部付近で外反し、端部は丸く仕上げられる。	口縁部内外面ヨコナデか。端部内面に1本の沈線あり。	にぶい褐色	微砂粒を含む。	良好	
127	土師器 皿	口径 (16.8)	口縁部やや内湾気味に立ち上がり、端部付近で外反する。端部はやや尖り気味に仕上げる。	口縁部外面ヨコナデ	灰白色。	微砂粒を少量含む。	やや不良	
128	土師器 皿	口径 (17.7) 器高 (2.4) 底径 (16.0)	口縁部は短く、直線的に立ち上がり、端部はやや内側に巻き込んでいる。底部平坦。	口縁部外面ヨコナデ 口縁部底面内面ナデ 器部外面へう切りものちナデ	灰白色	微砂粒を多量に含む。	やや不良	
129	土師器 高杯	口径 (18.3) 底径 (4.8)	杯部深く口縁部直線的にゆるやかに立ち上がる。端部はやや尖り気味に仕上げる。	杯部全体にヨコナデ	淡褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
130	土師器 高杯の杯部	口径 (27.1)	底部はやや平坦で、口縁部をナメ上方に引き出す。口縁部は内側に屈曲し外面に面を有する。	口縁部内外面ヨコナデ 底部内外面ナデ	にぶい褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
131	土師器 高杯の脚		底部平坦。脚上部はやや広がりながら立ち上がる。	ヨコナデ	淡褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
132	土師器 高杯の脚	すそ径 (10.5)	口縁部短くナメ下方に広がる。端部は巻き込む。	口縁部ヨコナデ	にぶい褐色	微砂粒を含む。	良好	
133	土師器 高杯の脚	すそ径 (12.2)	口縁部短くナメ下方に広がる。端部付近でわずかに外反し、ごくわずかに巻き込む。	口縁部ヨコナデ	赤色	微砂粒を含む。	良好	
134	土師器 高杯の脚	すそ径 (15.8)	すそはなだらかに傾斜する。端部は、やや内反し平らに仕上げる。	口縁部ヨコナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
135	土師器 鍋	口径 (20.0)	口縁部ナメ上方に立ち上がり、端部付近でごく内反する。端部は平坦に仕上げる。	口縁部ヨコナデ 内面ハケ目	外にぶい褐色 内側色	砂粒を含む。 (1mm)	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
136	土師器 罎	口径 (17.6)	口縁部やや大きく外反し、肩部は丸く仕上げる。	口縁部ヨコナデ	外灰白色 内赤黒色	砂粒を含む。 (1mm)	良好	
137	土師器 羽釜	口径 (24.6)	口縁部ややナメ上方に直線的に立ち上がる。肩は横へ短く張り出す。肩部は平坦。	口縁部ヨコナデ 肩は貼り付け	にがい橙 色	砂粒を含む。 (6mm)	やや不良	
138	土師(質土)器 羽釜	口径 (32.2)	短い口縁部に垂直断面方形の肩が付く。口縁部は尖り気味に仕上げる。	口縁部内外面、肩部ヨコナデ 体部外面縦方向の粗いハケ目。向内面横方向のナデ。	外面灰褐色 内面黒色	砂粒を多く含む。	やや不良	
139	土師器 罎		先端部は尖る。断面はほぼ同形。	全体にナデ	明黄褐色	砂粒を含む。 (1mm)	やや不良	
140	土師器 罎		先端部は細くなり少し外反する。「L」の字形をする。	全体にナデ	明黄褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
141	土師器 罎		体部やや内湾しながら立ち上がる。断面はほぼ円形。	全体にナデ 体部はヘラケズリ	橙色	微砂粒を含む。	やや不良	
142	土師器 甕か	口径 (15.3)	口縁部やや内湾し、肩部は平坦に仕上げる。体部上半はほぼ直立。	口縁部内外面ヨコナデ 体部外面ユビオサエのち、縦方向のハケ目同内面ナデ。	黄褐色	微砂粒を多く含む。	やや不良	
143	土師器 甕		口縁部はほぼ直線的にナメ上方に立ち上がる。	ヨコナデ 内面はハケ目が横に入る。	外にぶい 橙色 内黒色	砂粒。	やや不良	
144	土師器 甕		口縁部外反する。体部はやや内湾しながら立ち上がる。	ヨコナデ 外面にハケ目が縦横に入る。	外橙色 内ぶい 橙色	砂粒を含む。 (1mm)	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
145	高台付 椀 (黒色土器)	高台径 (8.6) 高台高 (0.7)	体部ゆるやかに内筒しながら立ち上がり、やや高めの断面方形の高台が付く。	ヨコナデ 高台は貼り付け	外壁色 内面灰色	微砂粒を含む。	やや不良	
146	土師器 土罐	長さ 4.0 胴径 1.9 重さ (g) 13.3	管状土罐。	棒に粘土を巻き付けて成形 外面ナデ	にがい黄 褐色	砂粒を少量含む。(3mm)	やや不良	
147	土師器 土罐	長さ 3.5 胴径 1.2 重さ (g) 4.55	管状土罐。	棒に粘土を巻き付けて成形 外面ナデ調整	褐色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
148	土師器 土罐	長さ 3.6 胴径 1.1 重さ (g) 3.63	管状土罐。	棒に粘土を巻き付けて成形 外面ナデ	褐色	微砂粒を多く含む。	やや不良	
149	土師器 土罐	口径 0.6 長さ 6.1 胴径 2.1 重さ (g) 24.8	管状土罐。	棒に粘土を巻き付けて成形 外面ナデ	灰色 一部黒色	やや微砂粒を含む。	不良	
150	須恵器 杯蓋	筒み径 (2.4) 筒み高 (0.7)	天井は平壇で中央部に平らかな溝みが付く。天井部に凹凸あり。	全体にロクロコナデ 筒みは貼り付け	灰白色	微砂粒を含む。異汗	良好	
151	須恵器 杯蓋	口径 (13.4)	口縁部はなだらかに傾斜する。端部はわずかに内反のち、平壇。	口縁部ヨココナデ	灰白色	微砂粒を含む。	やや不良	
152	須恵器 杯蓋	口径 (19.8)	口縁部なだらかに傾斜し、内反のち、平壇。外面に凹凸あり。	全体にロクロコナデ 内面は丁寧なナデ	灰色	微砂粒を含む。異汗	良好	
153	須恵器 高台付 杯	高台径 (9.0) 高台高 (0.4)	底部平壇、断面方形の高台が付く。	全体にロクロコナデ 高台は貼り付け	にがい黄 褐色	砂粒を含む。 (2mm)	やや不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
154	須恵器 高台付杯	高台径(8.4) 高台高(0.3)	口縁部はやや直線的にナナメ上方に立ち上がっている。底部平坦。形の低い高台がふんばっている。	口縁部外面ヨコナデか。高台は貼り付け	灰白色	微砂粒を少量含む。	不良	
155	須恵器 高台付杯	高台径(13.4) 高台高(0.5)	口縁部やや直線的でナナメ上方に立ち上がっている。底部平坦で逆台形の低い高台がふんばっている。	外面全体的にヨコナデ 口縁部内面ヨコナデ 高台は貼り付け	灰白色	微砂粒を少量含む。	良好	
156	須恵器 高台付杯	高台径(14.6) 高台高(0.4)	口縁部や内湾気味に急激に立ち上がったのち、わずかに外反する。底部平坦で、断面方形の低い高台が付く。	全体にロクロコナデ 底部外面の調整はやや粗い。	灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
157	須恵器 高台付杯	高台径(18.7) 高台高(0.7)	口縁部、内湾気味に立ち上がる。底部平坦、断面方形の低い高台が付く。	全体的にナデ 高台は貼り付け	内面淡緑色 外面灰色	微砂粒を含む。	不良	
158	須恵器 壺	口径(16.6)	口縁部はほぼ直線的に三方に立ち上がり、体部で急に外反する。	全体にロクロコナデ	灰白色	砂粒を含む。 (2mm)	良好	
159	須恵器 鉢	口径(32)	口縁部やや内湾気味に立ち上がり、肩部はやや外反し、丸く仕上げられる。	全体にロクロコナデ 内面は外面より丁寧	灰色	微砂粒を含む。 (3.2mm)	良好	
160	須恵器 壺	口径(28.0)	口縁部大きく外反し、肩部付近でわずかに外反する。底部平坦。	全体にロクロコナデ	灰色	微砂粒を含む。	良好	
161	須恵器 壺	口径(20.3)	口縁部大きく外反する。底部平坦。	口縁部ロクロコナデ	灰色	砂粒を含む。 (2mm)	良好	
162	須恵器 壺小	高台径(11.1) 高台高(0.2)	体部下腹やや内湾気味に立ち上がる。底部平坦。	底部内面以外ロクロコナデ 底部内面未調整	灰白色	微砂粒を少量含む。	良好	
163	須恵器 壺	口径(9.8)	口縁部はほぼ直線的にナナメに立ち上がる。	口縁部内外面丁寧なヨコナデか。	灰白色 (オリーブ 灰の施)	精良。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
164	高台付杯か (縁輪陶器)		断面方形の低い高台が付く。底部平坦。	ロクロナデか。	灰白色	微砂粒をやや含む。	やや不良	
165	高台付杯か (縁輪陶器)		断面長方形の高台が、ややふんばっている。底部ならかに内湾気味にのびる。	ロクロナデか。	灰白	微砂粒をやや含む。	良好	
166	瓦		「U」字型の軒丸瓦。	凹面は布目 凸面は機目。端部へう切り。	灰白色	砂粒を含む。	やや不良	
167	瓦		わずかに了一子型になる平瓦。	凹面は布目 凸面は機目。端部へう切り。	灰白色	砂をやや含む。	良好	
168	土師器	口径 (11.7) 器高 (2.9) 底径	口縁部ナメメ上方にはほぼ連続的にのびたのち、端部付近でわずかに外反。口縁端部肥厚し丸く仕上げる。底部内外面でやや凹凸あり、底部やや丸底状。	口縁部の内外面、底部内面、肩縁部ヨコナデ 底部内面ナデ。回外面へう切りののち未調整板目。	灰赤色 (内面黒色)	微砂粒を少し含む。	良好	
169	土師器 杯か	口径 (11.0) 器高	口縁部大きく内湾、口縁端部の器内湾く尖り気味に仕上げる。底部丸底状で底部と口縁部の境界不明瞭。	全体をユビオサエのちナデ	黄褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
170	土師器 高台付碗	口径 (18.3) 器高 (5.7) 高台径 (7.8) 高台高 (0.8)	口縁部連続的にナメメ上方へのび、端部は尖り気味に仕上げる。器内湾。断面方形の細高い高台が外方にふんばる。	口縁部内外ヨコナデ。体部内面全体ナデか。回外面ナデか。底部外面ナデ。高台は貼り付け。	赤褐色	微砂粒を多く含む。	良好	
171	土師器 皿	口径 (21.8) 器高 (5.7) 底径 (19.1)	口縁部短く、ナメメ上方に立ち上がり、端部付近でわずかに外反し、少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	淡褐色	精良。	良好	
172	土師器 軋土器	口径 7.4 器高 5.1	全体に器壁の凹凸顯著。口縁部やや内湾し端部は尖る。体部内湾し、器内厚目。底部はや丸底。	手づくねにより成形。内面全体やや丁寧なナデ。外面ユビオサエのち粗いナデ。	淡赤褐色	微砂粒を少量含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (m)	形態の特徴	手法の特徴	色調	新土	焼成	備考
173	須臾器 高杯の脚部か	脚底径 (15.0) 脚高 (10.4)	脚部大きく外方に開き、脚端部は平坦に仕上げる。脚部中央やや下位に段が付く。内面焼成によるとみられる。凹凸顕著。	外面全体に丁寧なロクロナデ 内面やや粗いロクロナデ	青灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
174	土師器 杯	口径 (13.4) 器高 2.7 底径 (7.4)	口縁部わずかに内湾気味にナナメメ上方に立ち上がり、端部を小さく巻き込む。底部平坦。	口縁部内外面ヨココナデ 底部内面丁寧なナデ 向外面へラ切りのちナデ	淡褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
175	土師器 杯	口径 (16.4)	口縁部短く直線的に立ち上がり、端部付近わずかに外反したのち、少し巻き込む。外面に凹凸あり。	全体にナデ	にぶい褐色 色 (丹塗り)	微砂粒を含む。	良好	
176	土師器 杯	口径 (16.7) 器高 4.4 底径 (12.2)	口縁部がナナメ上方に直線的に立ち上がり、端部付近でやや外反したのち、少し巻き込む。底部は平坦。	口縁部内外面ともヨココナデ 底部丁寧なナデ	にぶい褐色 色 (丹塗り)	砂粒を多く含む。 (3mm)	やや不良	
177	土師器 高台付 杯	高台径 (9.0) 高台高 (0.7)	底部やや平坦で断面方形のやや高い高台が付く。	全体にヨココナデ 高台は貼り付け 底部内面丁寧なナデ	端部褐色	砂粒を少量含む。 (2mm)	やや不良	
178	土師器 皿		口縁部短く、ナナメ上方に立ち上がり、端部付近で十分に外反したのち少し巻き込む。	口縁部にヨココナデ	褐色	砂粒を含む。 (2mm)	良好	
179	土師器 皿		口縁部短く直線的にナナメ上方に立ち上がり、端部で外反し、内面に巻き込む。	口縁部内面ヨココナデ 口縁部外面下部ナデ	褐色。	微砂粒を少量含む。	やや不良	
180	土師器 皿		口縁部で大きく外反し内側に巻き込む。	不詳	淡黄褐色	やや微砂粒を含む。	やや不良	
181	須臾器 杯蓋	横み径 2.0 横み高 0.9	天井部平坦。中央にやや小さい握みが付く。	全体的にロクロナデ	緑灰色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特 徴	手法の特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
182	須恵器 杯蓋	横み径 (3.4) 横み高 (0.8)	天井部平坦で口縁部に向けて、ゆるやかに傾斜。天井中央に天井部平らな宝珠形の横みが付く。器肉は薄い。	全体にロクロナデ 横みは貼り付け	灰白色	砂粒を含む。 (4mm)	やや不良	
183	土師器 杯蓋		口縁部は端部に向かってゆるやかに傾斜。端部は横に張り出し下方に巻き込む。	口縁部にヨコナデ	にぶい褐色	微砂粒を含む。	良好	
184	埴輪陶器 輪か	高台径(87.1)	体部は外方に大きく開く。輪高台が付く。	全体に丁寧なロクロナデ 高台は削り出し	素地暗示 灰色	精良。	やや不良	
185	磁器 皿		底部平坦で、口縁部は短く立ち上がり、端部はやや外反する。	内外面丁寧なナデ	オリーブ 軸 黄	精良。	良好	
186	土師器 土壺	長さ 5.1 胴径 1.6 重さ(g)11.7	頸状土壺。	埴に粘土を巻き付けて成形 外面はナデ	褐色	砂粒を含む。	やや不良	
187	土師器 土壺	長さ 3.8 胴径 1.3 重さ(g) 5.55	頸状土壺。	埴に粘土を巻き付けて成形 外面ナデ調整	赤褐色	微砂粒を少量 含む。	やや不良	
188	土師器 土壺	長さ 3.7 胴径 1.4 胴径 0.4 重さ(g) 5.55	頸状土壺。	埴に粘土を巻き付けて成形 外面はナデ	にぶい赤 褐色	微砂粒を少量 含む。	やや不良	
189	土師器 杯	口径 (15.2)	口縁部やや短く、直線的にナナメ上方に立ち上がったのち、端部付近で外反する。端部は巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ	にぶい褐色	微砂粒を少量 含む。	やや不良	
190	土師器 杯	口径 (15.6)	口縁部直線的に立ち上がったのち、端部付近でごくわずかに外反する。端部は丸く仕上げる。	口縁部内外ヨコナデ	赤褐色	砂粒をやや含む。 (1.5mm)	やや不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
191	土師器 杯	口径 (17.2)	口縁部直線的にナナメ上方に立ち上がり、肩部付近でわずかに外反する。肩部は内側に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ	赤褐色	微砂粒を多く含む。	やや不良	
192	土師器 高台付 杯	高台径 (12.8) 高台高 (0.6)	底部平坦で断面方形のやや高い高台が付く。高台肩部はやや外反する。高台は貼り付け。	ヨコナデ	褐色	微砂粒を含む。	良好	
193	土師器 壺	口径 (16.7)	口縁部大きく外反する。	口縁部ヨコナデ。口縁部外面タナ方向のハケ目。体部内面エビオサエ。	褐色	砂粒を多く含む。	やや不良	
194	土師器 壺	口径 (15.0)	口縁部は大きく外反し、肩部は丸い。	口縁部ヨコナデ。体部上部ナデ。体部内面へう削り。	灰灰白色 内褐色	砂粒を多く含む。	やや不良	
195	須恵器 杯蓋	積み径 (2.0) 積み高 (0.7)	天井部平坦で、天井部中央に縦玉珠形の積みが付く。	全体にロクロコナデ 積みは貼り付け	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
196	須恵器 杯蓋	積み径 2.2 積み高 1.5	天井平坦。積みは宝珠形。	積み側面ロクロコナデ 積みは貼り付け	暗緑灰色 (自然釉が見られる)	微砂粒を多量に含む。	やや不良	
197	須恵器 杯蓋	口径 (19.5)	口縁部、わずかに屈曲させ、肩部を積み出し、先肩部を尖り気味に仕上げ。肩部は平坦。	全体にロクロコナデ	灰色	微砂粒を含む。	良好	
198	須恵器 杯蓋		口縁部やや屈曲し、肩部を積み出し、先肩部尖り気味に仕上げ。	全体にロクロコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
199	須恵器 杯蓋か	口径 (10.6)	天井部平坦で、口縁部に向って傾斜する。	不詳	灰白色	微砂粒を多く含む。	良好	
200	須恵器 高台付 杯		口縁部直線的にナナメ上方に立ち上がる。底部平坦で、断面方形の低い高台が付く。	ロクロコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	やや不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
201	須恵器 高台付 杯	高台径 (8.9) 高台高 (0.4)	底筋ややわずかに丸みをおび、断面方形の高台。	全体にロクロナデ	赭灰色	微砂粒を含む。	やや不良	
202	須恵器 碗	口径 (11.6)	口縁部やナナメ上方に直線的に立ち上がったのち、肩部付近で上方に屈曲する。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。 (3mm)	良好	
203	須恵器 碗	口径 (18.6)	口縁部ごくわずかにナナメ上方に直線的に立ち上がる。肩部平坦。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。 (1mm)	良好	
204	須恵器 鉢	口径 (26.0)	口縁部ナナメ上方に直線的に立ち上がり、肩部は平坦。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	やや不良	
205	須恵器 壺		体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部は急に上方に直線的に立ち上がる。	口縁部ロクロナデ	灰白色 表面自然 釉	砂粒を含む。 (5mm)	良好	
206	須恵器 壺	底径 (12.3)	体部やナナメ上方に直線的に立ち上がる。底部平坦。	全体ロクロナデ 表面粗雑	灰色	砂粒を含む。 (4mm)	やや不良	
207	須恵器 不明	口径 (22.0)	口縁部やナナメ上方に直線的に立ち上がり、肩部付近でわずかに内反する。	全体にロクロナデ	内灰白色 外縁黒色 自然釉 (外)	微砂粒を含む。	良好	
208	土師器 杯蓋		天井平坦。天井部中央に宝珠形の瘤みが付く。	不詳	黄褐色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
209	土師器 杯蓋		口縁部ゆるやかに傾斜し、肩部を瘤み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。肩部平坦。	口縁部内外面ともヨコナデ	褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
210	土師器	口径 (15.2)	口縁部ならだかに傾斜する。肩部と瘤み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。肩部平坦。	口縁部ヨコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	やや不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
211	土師器 杯蓋	口径 (19.0)	口縁部ごくわずかに屈曲させ、 端部を筒み出し、先端部を尖り 突状に仕上げ。肩部平坦。	口縁部ヨコナデ	淡橙色	微砂粒を含む。	良好		
212	土師器 杯	口径 (14.8)	口縁部やや直線的に立ち上がり、 端部付近で外反する。肩部は内側 に巻き込む。体部外面凹凸あり。	口縁部ヨコナデ	明褐色	微砂粒を多く 含む。	良好		
213	土師器 杯	口径 (19.4)	口縁部やや短く、ややナメ上 方に立ち上がり、端部付近で外 反ののち、少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ 内面斜放射線文	明赤褐色	砂粒を含む。 (2mm)	良好		
214	土師器 杯	口径 (18.8)	口縁部やや短く、やや内尚気味 に立ち上がる。端部付近わずか に外反ののち、少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好		
215	土師器 杯	口径 (12.2) 底径 (8.2) 器高 (2.6)	底面平坦。口縁部ほぼ直線的に 立ち上がる。端部付近わずか に外反ののち、少し巻き込む。 内が薄い。	口縁部ヨコナデ	にぶい黄 褐色	微砂粒を含む。	良好		
216	土師器 高台付 杯	口径 (20.0) 高台径 (27.2) 高台高 (0.5) 器高 (4.1) 底径 (27.7)	口縁部やや直線的にナメ上方 に立ち上がり、端部付近で、や や外反する。断面方形の高台。	口縁部ヨコナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好		
217	土師器 高台付 杯	高台径 (12.4) 高台高 (0.5)	断面方形の低い高台が付く。体 部ナメ上方にのびる。底面両 面凹凸あり。	底面内面ナメナデ 底面外面へら切りののちナ デ。高台は貼り付け。	淡赤褐色	微砂粒を少量 含む。	良好		
218	土師器 高台付 杯	高台径 (8.4) 高台高 (0.6)	底面平坦で、断面方形の高台が 付く。体部ナメ上方にのびる。 底面平坦。	ヨコナデ 高台は貼り付け	褐色	砂粒を含む。 (2mm)	良好		

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
219	土師器 罎	口径 (9.8)	口縁部ゆるやかにナメ上方に内湾気味に立ち上がり、肩部付近でくわすかに外反する。器内は肩部に近づくにたれ薄くなる。	口縁部内外面ヨコナデ	赤褐色	微砂粒を含む。	良好	
220	土師器 皿	口径 (16.7) 器高 2.0 底径 (13.5)	口縁部短く、ナメ上方に直線的に立ち上がったのち、肩部付近で外反。肩部を巻き込む。底部平坦。	口縁部内外面ヨコナデ 底部内面丁寧なナデ 底部外面へう切りのちナデ	淡赤褐色	精良。	良好	
221	土師器 皿	口径 (17.5)	口縁部やや内湾気味に立ち上がり、肩部付近で外反し、内側にやや巻き込む。	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を多く含む。	良好	
222	土師器 皿	口径 (17.5)	器高は低く、口縁部を引き出す。肩部を掴み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。底部平坦。	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 色	砂粒を少量含む。(2mm)	やや不良	
223	土師器 皿		口縁部短く、ナメ上方に立ち上がり、肩部付近は急に外反したのち、少し巻き込む。	全体にナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	やや不良	
224	黒色土器 皿	口径 (22.2) 器高 2.1 底径 (19.4)	口縁部やや内湾気味にナメ上方に立ち上がり、肩部丸く仕上げる。口縁部は凹凸あり。	口縁部内外面ヨコナデ	黒灰色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
225	土師器 皿	口径 (17.4)	口縁部ゆるやかに立ち上がり、肩部付近で十分外反し、やや内側に巻き込む。	口縁部ヨコナデ	淡褐色	微砂粒を多く含む。	良好	
226	土師器 皿	口径 (17.5)	口縁部直線的にナメ上方に立ち上がり、肩部をやや尖り気味に仕上げる、少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	良好	
227	土師器 皿	口径 (19.1)	口縁部内湾気味に立ち上がり、肩部付近で外反する。底部は上方に屈曲し外表に面を有する。	口縁部ヨコナデ	にぶい黄 褐色	砂粒を少量含む。(2mm)	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
228	土師器 皿	口径 (19.0)	口縁部短く、やや直線的に立ち上がり、端部付近で、ごくわずかに外反する。	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	にぶい黄褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
229	土師器 高杯	口径 (25.0)	口縁部ゆるやかに立ち上がり、端部は横に張り出し、上方に巻き込んでいる。底部中央に7角形の脚を貼り付けている。底部平坦。	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 林底部ナデ	にぶい褐色	微砂粒を含む。	良好	
230	土師器 高杯の杯部		口縁部やや内湾気味に立ち上がり、端部付近で外反する。端部は上方に屈曲し外面に面を有する。	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ナデ	にぶい褐色	微砂粒を多く含む。	良好	
231	土師器 甕	口径 (18.2)	口縁部に大きく外反し、端部付近わずかに外反のち、平坦に仕上げられる。	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
232	土師器 甕	口径 (21.4)	口縁部大きく外反。端部は平坦に仕上げられる。	口縁部内外面ヨコナデ	口縁部内外面ヨコナデ	外面淡褐色 内面灰褐色	砂粒を多く含む。	やや不良	
233	須恵器 杯蓋		天井部から口縁部にかけて、なだらかな傾斜をもつ。天井部中央に扁平な握みが付く。	天井部、口縁部外面ロクロナデ	天井部、口縁部外面ロクロナデ 縦横のナデ。	青灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
234	須恵器 杯蓋	口径 (13.0)	天井部平坦。口縁部をわずかに屈曲させ、端部を握み出し、先端部をそり気味に上げる。	天井部ロクロナデ	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	不良	
235	須恵器 杯蓋	口径 (18.5)	天井部、口縁部にかけて平坦。端部は握み出し、やや平坦にする。	全体的にロクロナデ	全体的にロクロナデ	オリーブ灰の自然釉	微砂粒を少量含む。	良好	
236	須恵器	口径 (18.4)	口縁部なだらかに傾斜する。端部を握み出し、先端部をそり気味に仕上げられる。端部は平坦。	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
237	須恵器 高台付 杯	高台径 (8.8) 高台高 (0.3)	底部平らで、断面三角形の高台が付く。高台端部は厚目の高台が付く。高台は貼り付け減して丸い。	高台外面ロクロナデ 高台は貼り付け	灰白色	微砂粒を含む。	やや不良	
238	青磁 碗	高台径 (6.4)	底部の器内厚く削り出しの浅い輪高台状の高台が付く。	全体に丁寧なロクロケズリ	茶褐色	精良。	良好	
239	須恵器 高台付 杯	高台径 (8.4) 高台高 (0.5)	底部平坦で、断面三角形の高台が付く。	底部外面へら切りのちナデか。 高台貼り付け	灰黄色	微砂粒を少量含む。	不良	
240	須恵器 重 甕	口径 (17.3) 器高 1.7 底径 (14.0)	口縁部鐘形的に外方に大きく開いたのち、端部付近で外反し、端部を巻き込む。底部平坦。	不詳	灰黄色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
241	須恵器 甕	口径 (14.2)	口縁部ほぼ直線上に立ち上がり、端部は平坦。	全体にロクロナデ	外灰赤色 内褐灰色	微砂粒を含む。		
242	須恵器 甕	底径 (8.2)	体部ゆるやかに内湾しながら立ち上がる。底部は平坦で、端部外周の器内は厚い。	全体にロクロナデ	灰色	微砂粒を含む。	やや良好	
243	須恵器 甕	口径 (23.4)	体部内湾気味に立ち上がり、口縁部大きく外反する。端部平坦。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	やや不良	
244	瓦	厚み (2.9)	体部はわずかにアーチ型の平瓦。	凹面は布目、凸面は罫目。 端部へラケズリ	にぶい藍色	砂粒を多く含む。	やや不良	
245	土師器 杯蓋	口径 器高	天井部平坦。天井部中央に扁平な構みが付く。	調整不明	淡褐色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
246	土師器 覆の構み	構み径 3.1 構み高 0.9	上部がややよくぼんだ形をしている。構みの天井部平坦。	ココナデか。 構みは貼り付け	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
247	土師器 杯蓋	口径 (20.0)	口縁部ゆるやかな、傾きをもつ。端部を構み出し、先端部をわずかに上げる。	口縁部ココナデ	灰白色	砂粒を含む。 (1mm)	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
248	土師器 杯	口径 12.3 器高 3.0 底径 7.7	口径部短く、ナナメ上方に立ち上がり、肩部付近わずかに外反したのち、少し巻き込む。底部平坦。底部と口径部の境界付近は丸味をもつ。	口径部内外面ともヨコナデ 底部内面丁寧なナデ 底部外面へう切りののち丁寧なナデ	褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
249	土師器 杯	口径 (12.0) 器高 2.8 底径 (9.0)	口径部短く、ナナメ上方に立ち上がり、肩部をわずかに外反したのち、少し巻き込む。器内は溝い。	口径部ヨコナデ 底部内面丁寧なナデ 底部外面へうケズリののちナデ	淡褐色	微砂粒を含む。	良好	
250	土師器 杯	口径 (14.5) 器高 2.8 底径 10.0	底部平坦で、体部はやや内湾気味に立ち上がり、口径部はナナメ上方に立ち上がる。肩部付近で外反し、肩部はやや内側に巻き込む。	口径部内外面ヨコナデか。 底部へう切りののちナデか。	黄灰色	微砂粒を含む。	やや不良	
251	土師器 杯	口径 (13.0) 器高 (8.8) 底径 (8.8)	口径部ほぼ直線的にナナメ上方に立ち上がり、肩部付近やや外反ののち少し巻き込む。	口径部ヨコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
252	土師器 杯	口径 (14.7)	口径部やや急激に立ち上がり、肩部付近で外反し、肩部はやや巻き込む。	口径部内外面ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	良好	
253	土師器 杯	口径 (16.0) 器高 3.1 底径 (12.0)	底部平坦で、口径部はやや直線的に立ち上がり、肩部付近でわずかに外反する。	口径部ヨコナデ 底部内面ナデ 底部外面へう切りののちナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	やや不良	
254	土師器 杯	口径 5.7 器高 3.5 底径 1.5	口径部ナナメ上方にやや急激に立ち上がる。口径端部を外反させ、丸く仕上げる。肩部内面に巻き込みみによる波線が付く。底部と口径部の境界付近は丸く仕上げる。	口径部内外面ともヨコナデ 底部内面丁寧なナデ 底部外面へう切りののちやや粗いナデ	淡褐色	微砂粒を少量含む。	やや不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
255	土師器 杯	口径 (17.0) 器高 3.2 底径 (12.0)	底部平坦で、口縁部はほぼ直線的に立ち上がり、肩部付近で外反し、肩部はやや垂き込む。	口縁部外面ヨココナデ	淡黄褐色	やや砂粒を含む。(2mm)	良好	
256	土師器 杯	口径 (22.4)	口縁部直線的に急激に立ち上がる。肩部は尖り気味に仕上げる。器内は薄い。	不詳	淡褐色	砂粒を多く含む。	やや不良	
257	土師器 杯	口径 (12.6) 器高 3.4 底径 9.7	口縁部直線的にナナメ上方に立ち上がり、肩部をやや尖り気味に仕上げる。底部は平坦。	口縁部内外面ともヨココナデ 底部内面丁寧なナデ 底部外面へう切りののち丁寧なナデ	黄褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
258	土師器 杯	口径 12.6 器高 3.5 底径 9.7	口縁部はほぼ直線的にナナメ上方へ急激に立ち上がる。口縁部肩部付近の器内薄く、肩部は尖り気味に仕上げる。底部平坦。底部内面に「X」のへら掻きあり。	口縁部内外面ともヨココナデ 底部内面ナデ 底部へう切りののち丁寧なナデ	褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
259	土師器 杯	口径 (13.6) 器高 3.4 底径 12.3	口縁部わずかに外反気味に立ち上がり、肩部を丸く仕上げる。底部は平底であるが、わずかに凹凸あり。底部と口縁部と境、明瞭な線となる。	口縁部内外面ともヨココナデ 底部内面ナデ 底部外面へう切りののちナデ	淡褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
260	土師器 杯	口径 (14.8) 器高 (3.2) 底径 (12.4)	口縁部近く、やや直線的にナナメ上方に立ち上がり、底部平坦。体部と底部の境は丸い。器内は薄い。	口縁部ヨココナデ	茶褐色	微砂粒を含む。	良好	
261	土師器 杯	口径 (15.2) 器高 (3.0) 底径 (12.4)	体部はほぼ直線的にナナメ上方に立ち上がり、底部平坦。	口縁部ヨココナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
262	土師器 杯	口径 (16.4)	口縁部直線的にやや急激に立ち上がる。肩部付近でやや外反し、やや内側に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ	外面赤灰色 内面灰白色	微砂粒を含む。 (4mm)	やや不良	
263	土師器	口径 (14.4) 器高 (3.9) 底径 (11.0)	口縁部ほぼ直線的にナナメ上方に立ち上がる。底部平坦。両面に凹凸あり。	口縁部ヨコナデ	淡褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
264	土師器 杯	口径 (15.1)	口縁部ほぼ直線的にやや急激に立ち上がり、肩部はやや尖り気味に仕上げる。底部平坦。	口縁部両面ヨコナデ	淡赤褐色	微砂粒を含む。	良好	
265	土師器 杯	口径 (12) 器高 3 底径 (8)	底部やや平坦。体部は内湾気味に立ちがる。口縁部は直線的にナナメ上方に立ち上がり、肩部は丸く仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ 底部外面には、らせん状の削りあとが付いている。	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
266	土師器 杯	口径 (13.2) 器高 3.25 底径 (11)	底部平坦。口縁部は、やや短く直線的に急激に立ち上がる。肩部はやや丸く仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ 底部内面ヨコナデ 底部外面回転跡あり。	淡褐色	微砂粒を含む。	良好	
267	土師器 杯	口径 (12.8) 器高 (2.7) 底径 (9.8)	体部直線的にナナメ上方に立ちあがり、肩部付近でわずかに外反する。肩部付近の器肉は薄い。底部平坦。	口縁部ヨコナデ	褐灰色	微砂粒を含む。	やや不良	
268	土師器 杯	口径 13.6 器高 3.12 底径 10	底部やや平坦。体部は内湾気味に立ち上がる。口縁部は直線的にナナメ上方に立ち上がり、肩部付近は尖り気味に仕上げる。	口縁部ヨコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
269	土師器 杯	口径 (13.4) 器高 3.0 底径 10.2	体部ほぼ直線的にナナメ上方に立ち上がり、肩部付近でやや外反する。底部平坦。	口縁部ヨコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
270	土師器 杯	口径 (12.8) 器高 3.5 器底径 9.0	口縁部ほぼ直線的にナナメ上方に急激に立ち上がり、肩部をやや尖り気味に仕上げる。底部平坦。外面凹凸あり。	口縁部内外面ともヨコナデ 口縁部内面丁単なナデ 同外面へう切りのちりナデ	暗赤褐色	微砂粒を多く含む。	良好	
271	土師器 高台付 杯	口径 11.5 器高 3.8 高台径 7.8	口縁部、体部ともナナメ上方にやや急激に立ち上がり、肩部を尖り気味に仕上げる。底部は平坦に仕上げ、断面方形の低い高台が付く。	口縁部内外面とも丁単なヨココナデ 口縁部内外面とも丁単なナデ 高台は貼り付け	赤褐色	精良。	良好	
272	土師器 高台付 杯	口径 (12.2) 器高 3.2 高台径 (8.4)	口縁部わずかに外反し、口縁端部を丸く仕上げる。体部直線的にナナメ上方に立ち上がる。底部は平坦で、断面方形の低い高台が付く。	体部口縁部内外面ヨココナデ 底部内面丁単なナデ 底部外面へう切りのちり丁単なナデ 高台は貼り付け	赤色	精良。	良好	
273	土師器 高台付 杯	口径 17.9 器高 (6.0) 高台径 (12.6)	口縁部直線的にナナメ上方に立ち上がったのち、肩部付近でわずかに外反。口縁部端部は尖り気味に仕上げる。底部平坦。外面直線的に高台の痕跡がわずかに残る。	口縁部内外面ともヨココナデ 底部外面へう切りのちり丁単なナデ	淡褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
274	土師器 杯	口径 (13.1) 器高 4.0 器底径 8.2	口縁部ゆるやかに内高しながら立ち上がり、わずかに外反する肩部に続く。肩部付近の器肉薄い。底部内面凹凸顕著。底部と口縁部の境界不明瞭。全体に器肉厚い。	口縁部内外面ともヨココナデ 口縁部端部強いヨココナデ、底部内面ナデ。底部外面へう切りのちりナデ。 底部と口縁部の境界付近へうで削りか。	赤褐色	微砂粒を多く含む。	良好	
275	土師器 椀	口径 (12.8) 器高 (3.2) 器底径 (6.4)	体部、内湾気味に立ち上がり、底部平坦。	口縁部ヨココナデ 体部下部下たいて調整	にぶい褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
276	土師器	口径 (14.4)	体部が内湾気味に立ち上がり、肩部付近で外反し、肩部は尖り気味に仕上げる。	体部内外面ヨココナデ	褐色	微砂粒を多量に含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
277	土師器 罎	口径 (11.0) 器高 (3.0) 底径 (6.0)	口縁部ほぼ直線的に立ち上がり、 肩部付近でわずかに外反。肩部 はやや尖り気味に仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ 内面に斜紋附母文を施す。	褐色	微砂粒を多量 に含む。	良好	
278	土師器 杯	口径 (12.0) 器高 3.5 底径 (7.0)	口縁部ナメ上方に直線的に立 ち上がり、肩部付近でわずかに外 反。肩部は丸く仕上げる。底部は 平坦で、口縁部との境界不明瞭。	口縁部内外面ヨコナデ 底部内面ヨコナデ 底部外面ナデ 底部と体部の境界付近へラ で削りか。	灰白色	砂粒を多く含 む。	やや不良	
279	土師器 杯	口径 (11.7) 器高 4.0 底径 6.0	口縁部ナメ上方に急激に立ち 上がり、肩部付近わずかに外反。 肩部は丸く仕上げる。底部は平 坦であるが、口縁部との境界付 近は丸味をもつ。底部内面わず かに凹凸あり。	口縁部内外面ともヨコナデ 底部内面ナデ 底部外面ナデ 底部外面へラ切りののちナ デ 板目が付く。	淡褐色	精良。	良好 軟質	
280	土師器 杯	口径 (12.5)	口縁部ほぼ直線的に急激に立ち 上がる。肩部はやや尖り気味に 仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	やや不良	
281	土師器 高台付 罎か	口径 (23.0)	口縁部やや急激に立ち上がり、 肩部付近でわずかに外反。肩部 はやや内側に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ	内面淡赤 褐色 外面にぶ い褐色	砂粒を含む。	良好	
282	土師器 罎	口径 (3.0)	口縁部内湾気味に立ち上がり外 反する。肩部わずかに巻き込む。	口縁部外面ヨコナデ	淡赤褐色	砂粒を少量含 む。(3mm)	良好	
283	土師器 罎	口径 (14.1)	口縁やや内湾気味に立ち上がり、 肩部付近で外反する。肩部はや や巻き込む。	口縁内外面ヨコナデ	褐色	砂粒を少量含 む。(3mm)	良好	
284	土師器 罎	口径 (14.8) 器高 (2.2) 底径 (12.6)	口縁部短く、ナメ上方に立ち 上がり、肩部付近で外反ののち、 少し巻き込む。底部平坦。	口縁部ヨコナデ	灰黄色	微砂粒を含む。	不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
285	土師器 皿	口径 (12.0)	口径部やや内湾気味に立ち上がり、端部付近でやや外反する。	口径部内外面ヨコナナデ	淡赤褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
288	土師器 皿	口径 (14.9)	口径部ほぼ直線的に立ち上がり、端部はやや内側に巻き込む。	口径部内側面ヨコナナデ	灰白色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
287	土師器 皿	口径 (14.4) 器高 (2.2) 底径 (11.6)	口径短く、ナナメ上方に直線的に立ち上がり、端部付近外反のち少し巻き込む。	口径部ヨコナナデ	淡褐色	砂粒を含む。 (1mm)	良好	
288	土師器 皿	口径 (13.8)	口径部ゆるやかに立ち上がり、端部付近で外反する。端部わずかに巻き込む。	口径部内外面ヨコナナデ	淡褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
289	土師器 皿	口径 (11.8) 器高 1.9 底径 (9.2)	口径部短く、立ち上がったのち、端部付近で外反する。端部はやや巻き込む。	口径部内外面ナナデか。	淡褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
290	土師器 皿	口径 (14.2) 器高 (1.8) 底径 (12.8)	口径部短く、やや直線的にナナメ上方に立ち上がり、端部付近でわずかに外反のち、少し巻き込む。	口径部ヨコナナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
291	土師器 皿	口径 (17.0) 器高 2.6 底径 4.0	底部平坦。口径部は短く直線的に立ち上がり、端部付近で外反する。端部はやや内側に巻き込む。	口径部外面ヨコナナデ 底部内外面ナナデ	にぶい褐色	砂粒を含む。	良好	
292	土師器 皿	口径 (17.0)	口径部やや内湾気味に立ち上がり、端部付近でわずかに外反する。端部はやや内側に巻き込む。底部は平坦。	口径部内外面ヨコナナデ	淡褐色	砂粒を少量含む。 (3mm)	良好	
293	土師器 皿	口径 (16.9)	口径部短く立ち上がり、端部付近でわずかに外反する。端部はわずかに巻き込む。	口径部内外面ヨコナナデか。	淡褐色	微砂粒を含む。		

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
294	土師器 皿	口径 (17.2) 器高 (2.0) 底径 (13.0)	口径部短くナナメ上方に直線的に立ち上がり、端部付近でごくわずかに外反のち、少し巻き込む。底部平坦。	口径部ヨコナデ		微砂粒を含む。	良好	
295	土師器 皿	口径 (17.4) 器高 (2.3) 底径 (14.8)	口径部短く、やや直線的にナナメ上方に立ち上がり、端部付近で外反のち少し巻き込む。底部平坦。	口径部ヨコナデ	にぶい黄褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
296	土師器 皿	口径 (17.6)	口径部短く立ち上がり。端部付近で外反。端部はやや巻き込む。底部は平坦で、器肉がやや薄い。	口径部内外面ヨコナデ 底部ナデか。	にぶい褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
297	土師器 皿	口径 (17.9) 器高 2.2 底径 (14.0)	口径部短く、外反気味に立ち上がり、端部を小さく巻き込む。底部平坦で、口径部との境界は不明瞭。	口径部内外面ともヨコナデ 底部内面丁字切りののちナデ	黄褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
298	土師器 皿	口径 (17.8)	口径部短く、立ち上がり、端部付近で外反する。端部はやや巻き込む。	口径部内外面ナデか。	淡褐色	微砂粒を含む。	良好	
299	土師器 皿	口径 (18.2) 器高 (1.6) 底径 (15.2)	口径部短くやや直線的にナナメ上方に立ち上がり、端部付近でやや巻き込む。器肉がやや厚い。底部平坦。	口径部ヨコナデ	内にぶい褐色 外明褐色	砂粒を含む。 (3mm)	良好	
300	土師器 皿	口径 (19.9)	底部平坦。口径部短く立ち上がったのち、端部付近で外反。端部はやや巻き込む。	口径部内外面ヨコナデ 底部ナデか。	淡赤褐色	微砂粒を多く含む。	やや不良	
301	土師器 高杯	口径 (20.2) 器高 (1.7) 底径 (16.8)	口径部直線的にナナメ上方に立ち上がり、端部をやや尖り気味に仕上げる。底部平坦。	口径部ヨコナデ	外にぶい褐色 内にぶい	砂粒を含む。 (1mm)	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
302	土師器 皿	口径 (22.5)	口縁部短くやや急激に立ち上がり、肩部付近で外反。肩部はわずかに巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ	にぶい藍色	砂粒を含む。	良好	
303	土師器 皿	口径 (15.6) 器高 (1.7) 底径 (12.8)	口縁部短く、やや直線的にナメ上方に立ち上がり、肩部付近メ上方に立ち上がり、肩部付近外反のち、少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	にぶい藍色	微砂粒を含む。	良好	
304	土師器 皿	口径 (16.8) 器高 (3.0) 底径 (12.8)	口縁部短く、ゆるやかにナメ上方に立ち上がり、肩部付近出わずかに外反のち少し巻き込む。底部平坦。	口縁部ヨコナデ	にぶい藍色	微砂粒を含む。	不良	
305	土師器 皿	口径 (17.0) 器高 (2.3) 底径 (14.2)	口縁部短くやや直線的にナメ上方に立ち上がり、肩部付近で外反のち、少し巻き込む。体部と底部の境は丸い。底部平坦。	口縁部ヨコナデ	淡褐色	微砂粒を含む。	良好	
306	土師器 皿	口径 (17.4) 器高 (2.5) 底径 (13.3)	口縁部ゆるやかにナメ上方に立ち上がり、肩部付近を外反させたのち、小さく巻き込む。底部中央やや盛り上がる。	口縁部内外面ヨコナデ 底部内面丁寧ナデ 底部外面ヘラ切りののちナデ	淡褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
307	土師器 皿	口径 (18.5) 器高 (2.4) 底径 (15.3)	口縁部短く、直線的にナメ上方に立ち上がり、肩部付近を大きく外反させ、肩部を内側に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ 底部内面丁寧ナデ 底部外面ヘラ切りののちナデ	淡褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
308	土師器 皿	口径 (18.4) 器高 (2.4) 底径 (16.8)	口縁部短く、ほぼ直線的にナメ上方に立ち上がり、肩部付近で外反のち、少し巻き込む。底部平坦。	口縁部ヨコナデ	淡褐色	微砂粒を含む。	良好	
309	土師器 皿	口径 (20.0) 器高 (2.1) 底径 (16.5)	口縁部短く立ち上がったのち、肩部付近で外反。肩部はやや巻き込む。底部平坦。	口縁部内外面ヨコナデ 底部ナデか。	淡黄褐色	砂粒を含む。 (2mm)	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
310	土師器 皿	口径 (20.0) 器高 2.6 底径 (16.6)	底部は平坦。口径部は短く、やや急激に立ち上がり肩部付近で外反。肩部はやや巻き込む。	口径部ヨコナデ 底部ナデ	淡褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
311	土師器 皿	口径 (19.6) 器高 2.5 底径 (15.8)	口径部直線的にナナメ上方に立ち上がったのち、大きく外反。口径縁部大きく巻き込み、先端部をやや尖り気味に仕上げる。底部平坦。	口径部内外面ヨコナデ 底部内外面とも丁寧なナデ	淡褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
312	土師器 皿	口径 (19.0) 器高 (2.4) 底径 (16.0)	口径部短く、やや直線的にナナメ上方に立ち上がり、肩部付近でわずかに外反のち、少し巻き込む。底部平坦。	口径部ヨコナデ	にぶい緑色	微砂粒を含む。	良好	
313	土師器 皿	口径 (19.2) 器高 (2.6) 底径 (17.6)	口径部短く、やや直線的にナナメ上方に立ち上がり、肩部付近でやや外反のち、少し巻き込む。底部平坦。	口径部ヨコナデ	にぶい緑色	微砂粒を含む。	良好	
314	土師器 皿	口径 (22.0) 器高 2.0 底径 (19.0)	口径部短く、ナナメ上方に立ち上がり、肩部をわずかに外反したのち、少し巻き込む。底部平坦。	口径部ヨコナデ 底部内面丁寧なナデ 底部外面ヘラケズリのちナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
315	土師器 皿	口径 (27.2) 器高 (1.9) 底径 (22.4)	口径部直線的にナナメ上方に立ち上がり、肩部をやや尖り気味に仕上げる。底部平坦。	口径部ヨコナデ	にぶい緑色	微砂粒を含む。	不良	
316	土師器 皿	口径 (27.4) 器高 1.9 底径 (24.4)	口径部わずかに外反し、肩部を丸く仕上げる。肩部内面に弱い沈線を施す。底部平坦。	口径部内外面ヨコナデか。 底部内面丁寧なナデ 底部外面やや粗いナデ	淡褐色	精良。	良好	
317	土師器 高杯	口径 (17.2) 器高 (1.7) 底径 (13.6)	口径部直線的にナナメ上方に立ち上がり、肩部をやや尖り気味に仕上げる。底部平坦。	口径部ヨコナデ	明褐色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
318	土師器 高杯	口径 (24.2) 器高 (2.5) 底径 (20.2)	口縁部直線的にナナメ上方に立ち上がり、肩部をやや尖り気味に仕上げる。底部平坦。器内は厚い。	口縁部ヨコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
319	土師器 高杯	口径 (24.2) 器高 (1.8) 底径 (20.2)	口縁部直線的にナナメ上方に立ち上がり、肩部をそり気味に仕上げる。底部平坦。器内は厚い。	口縁部ヨコナデ	明褐色	砂粒を含む。 (1mm)	不良	
320	土師器 高杯	口径 (24.6) 器高 (2.1) 底径 (19.4)	口縁部直線的にナナメ上方に立ち上がり、肩部をやや尖り気味に仕上げる。底部平坦。器内はやや厚め。	口縁部ヨコナデ	明褐色	微砂粒を含む。	良好	
321	土師器 高杯杯部	口径 (24.8)	口縁部外方に大きく開く。肩部付近は、ほぼ水平に引き出したのち、わずかに上方に巻き込む。底部は平坦か。口縁部の形態から高杯の杯部とみられる。	口縁部内外面ヨコナデ 底部内面丁字ナデ 底部外面やや粗いナデ	淡赤褐色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
322	土師器 高杯の脚		ほぼ直線的に立ち上がる。下部付近は、なだらかに傾斜。断面は円筒形。底部平坦。	ヨコナデ	淡黄褐色	砂粒を含む。 (1mm)	不良	
323	土師器 高杯の脚		脚部柱状部は九角形に面取る。体部は直線的に立ち、踵はなだらかに傾斜。	脚部は縦方向にヘラケズリで上から下方向に削る。 下部分らは半分削り方が不明。	淡黄褐色	砂粒を含む。 (2mm)	やや不良	
324	土師器 高杯		踵はなだらかに広がる。底部平坦。	ヨコナデ	淡褐色	砂粒を含む。 (1mm)	良好	
325	土師器 高杯		踵に向い、なだらかに傾斜し、脚上部は直線的に立ち上がる。断面八角形。底部平坦。	ヨコナデ 外面ヘラケズリ	褐色	砂粒を含む。 (3mm)	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特 徴	手法の特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
326	土師器 高杯の脚		ほぼ直線的に立ち上がる。断面円筒形。襷はなだらかに広がる。底部平坦。	ヨコナデ 内面不十分なナデ	にぶい橙 色	砂粒を含む。 (3mm)	良好	
327	土師器 高杯の脚		襷はなだらかに広がる。脚上部もなだらかに広がる。断面八角形。底部平坦。	ヨコナデ 外面ヘラケズリ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	やや不良	
328	土師器 高杯の脚		脚上部に向い、ほぼ直線的に立ち上がる。襷は、なだらかに広がる。断面八角形。	ヨコナデ 外面ヘラケズリ	淡赤褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
329	土師器 高杯の脚		脚部状態は十一角形に面取る。襷はなだらかに広がり、端部を積み出し、先端部をわずかに上げる。	脚部襷の内面はナデ 外面ヘラケズリ	にぶい橙 色	砂粒を含む。 (1mm)	やや不良	
330	土師器 罌	口径 (21.8)	口縁部大きく外反し、端部を上方に積み出し、尖り気味に仕上げる。体部はわずかに内湾。	口縁部外面ヨコナデ。 口縁部内面磨耗により不明瞭であるが、横方向のハケ目か。体部外面縦方向の粗いハケ目。体部内面横方向のハケ目。	黄褐色	砂粒を多く含む。	良好	
331	土師器 罌	口径 (21.6)	口縁部大きく外反し、端部は平らに仕上げる。	口縁部ヨコナデ 体部内外面ハケ目	褐灰色 内は黒褐色	砂粒を含む。 (1mm)	良好	
332	土師器 罌	口径 (26.4)	口縁部「く」の字状に屈曲してナメ上方に直線的に立ち上がる。 口縁部端部は、やや丸味をもつ。 体部は、わずかに内湾気味に立ち上がる。全体に器内厚目。	口縁部内面縦方向の粗いハケ目 口縁部外面縦方向のハケ目か。 体部外面縦方向のハケ目 体部内面縦方向の粗いハケ目	赤褐色	微砂粒を含む。	良好	
333	須恵器 杯量		天井部平坦。天井部中央に扁平ご小さな溝みが付く。	調整不明	黄褐色	微砂粒を少量含む。	不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
334	須恵器 杯蓋		天井平坦で口縁部に向けてゆるやかに傾斜する。天井部中央に凹化した宝珠形の小さな横み付く。	天井平坦で口縁部に向けてゆるやかに傾斜する。天井部中央に凹化した宝珠形の小さな横み付く。	全体にロクロロナデ	灰白色	微砂粒を少量含む。	良好	
335	須恵器 杯蓋		天井部、口縁部に向かってゆるやかに傾斜。中央に中くぼみの扁平な横みが付く。天井部内面に溝巻状の痕跡が認められる。	天井部、口縁部に向かってゆるやかに傾斜。中央に中くぼみの扁平な横みが付く。天井部内面に溝巻状の痕跡が認められる。	粘土斑の巻き上げにより或る形状。全体にロクロロナデ。天井部内面中央部は未調整	灰白色	微砂粒を少量含む。	良好	
336	須恵器 杯蓋	口径 (17.6) 器高 1.8	口縁部をわずかに屈曲させ端部を積み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。天井部は平坦である。わずかに凹凸が認められる。天井部中央に中くぼみの扁平な横みが付く。	口縁部をわずかに屈曲させ端部を積み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。天井部は平坦である。わずかに凹凸が認められる。天井部中央に中くぼみの扁平な横みが付く。	全体にロクロロナデ調整はやや粗雑	灰褐色	微砂粒を多く含む。	やや不良	
337	須恵器 杯蓋	口径 (12.7)	天井部平坦で、端部を積み出し、先端部をわずかに上げる。	天井部平坦で、端部を積み出し、先端部をわずかに上げる。	口縁部ロクロロナデ	灰白	微砂粒を含む。	不良	
338	須恵器 杯蓋	口径 (17.8)	天井部やや平坦。口縁部は端部に向かい傾斜している。端部を積み出し、先端部をわずかに上げる。	天井部やや平坦。口縁部は端部に向かい傾斜している。端部を積み出し、先端部をわずかに上げる。	全体にロクロロナデ	灰	微砂粒を含む。	良好	
339	須恵器 杯蓋	口径 (20.6)	底部は平坦で、口縁部ナナメ上に立ち上がり端部は内側に巻き込む。	底部は平坦で、口縁部ナナメ上に立ち上がり端部は内側に巻き込む。	全体にロクロロナデ	灰	微砂粒を含む。	良好	
340	須恵器 杯蓋	口径 (20.3)	口縁部ゆるやかに傾斜し、端部は積み出し、先端部をわずかに上げる。	口縁部ゆるやかに傾斜し、端部は積み出し、先端部をわずかに上げる。	口縁部内側面ロクロロナデか。	灰	微砂粒を含む。	良好	
341	須恵器 杯	口径 (11.5) 器高 4.1	口縁部は直線的にナナメ上方に急激に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。底部平坦で内面わずかに凹凸あり。	口縁部は直線的にナナメ上方に急激に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。底部平坦で内面わずかに凹凸あり。	口縁部内面ナデ 底部外面へう切りののちナデ	灰白色	微砂粒を含む。	やや不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
342	須臾器 高台付杯	口径 (12.5) 器高 3.9 高台径 8.8	口径直線的にナナメ上方に立ち上がり端部をやや尖り気味に仕上げる。底部平坦。断面方形の低い高台が付く。	口径部内外面底部内面高台部ともロクロナデ調整高台貼り付けか。	灰色	微砂粒を多く含む。	良好	
343	須臾器 高台付杯	口径 (13.2) 器高 4.9 高台径 9.4	口径部直線的にナナメ上方に立ち上がり、端部をやや尖り気味に仕上げる。底部平坦。断面方形の低い高台が付く。	口径部内外面ヨコナデ	灰白色	微砂粒を少量含む。	良好	
344	須臾器 高台付杯	口径 (13.2) 器高 4.9 高台径 9.4	口径部わずかに内湾気味に立ち上がったち端部付近でわずかに外反。口径端部は丸く仕上げる。口径端部付近の器内は薄い。底部平坦。断面方形の低い高台が付く。	口径部底部、内面周縁部、高台部ロクロナデ 底部内面中央部ナデか。 底部外面へラ切りの際、未調整 高台貼り付け	灰白色	微砂粒を少量含む。	良好	
345	須臾器 高台付杯	口径 (15.4) 器高 4.8 高台径 11.0	口径わずかに内湾気味に急激に立ち上がる。口径端部肥厚し、丸く仕上げる。底部内面わずかに凹凸あり。底部平坦。断面方形の低い高台が付く。	口径部高台ロクロナデ 底部内面やや粗雑なナデ 底部外面へラ切りの際、高台は貼り付けか。	灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
346	須臾器 高台付杯	口径 (11.0)	底部から体部にかけてやや内湾気味に立ち上がる。底部は上げ底。底面に浅いくぼみのある低い高台を貼り付け。	口径部内外面ヨコナデ 底部内面強いナデ 底部外面へラ切りの際、ナデ	緑灰色	微砂粒を含む。	良好	
347	土俵器 皿	口径 (17.0) 器高 2.3 口径 (13.8)	口径部短く、ナナメ上方に立ち上がる。口径部端部外反し、わずかに巻き込む。底部は平坦。	口径部内外面ともヨコナデ 底部内面平なナデ 底部外面へラ切りの際、ナデ	緑灰色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
348	須恵器 皿	口径 (16.6) 器高 2.0 底径 (14.0)	口径部大きく外反し端部を大きく巻き込む。底部中央部盛り上がるか。	口径部内外面ロクロコナデ 底部内面丁寧なナデか。 底部外面へラ切りののち丁寧なナデ	灰色	微砂粒を多く含む。	良好	
349	須恵器 皿	口径 (20.6) 器高 1.45 底径 (14.0)	底面はほぼ平坦。口径部をナメ上方に引き出す。	全体的にナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
350	須恵器 皿	口径 (18.4)	口径部はほぼ直線的にゆるやかに立ち上がる。端部はやや内側に巻き込む。	不詳	灰白色	微砂粒を含む。	不良	
351	須恵器 平皿か	口径 (9.2)	口径部直線的に立ち上がり、端部はやや外反し尖り気味に仕上げる。	口径部両面ヨコナデ 外面は丁寧	灰白色	微砂粒を多く含む。	良好	
352	須恵器 皿の視か	口径 12.7 器高 1.7 底径 12.3	口径部短く、上方に急激に立ち上がる。口径端部は平坦となる。底部の中央部全体がやや盛り上がり、器内厚目。底部内面直線部に凹みが付く。	口径部底部内面の凹み部ヨコナデ 底部内面ナデ 底部外面へラ切りののち未調整	灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
353	土師器 杯蓋	横み径 (1.8) 横み高 0.6	天井部は平坦であるが、わずかに凹凸があり、中央に中くぼみの扁平な輪みが付く。	全体にロクロコナデ 横みは貼り付け	にぶい黄褐色	微砂粒を多く含む。	やや不良	
354	土師器 杯蓋	口径 (10.4)	天井部平坦。口径部をわずかに屈曲させ、端部を横み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。	口径部ヨコナデ	にぶい黄褐色	砂粒を含む。 (2mm)	良好	
355	土師器 杯蓋	口径 (14.8)	口径部わずかに屈曲させ、端部を横み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。端部平坦。	口径部ヨコナデ	褐色	砂粒を含む。 (1mm)	やや不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	特徴	手法の特徴	特徴	色調	胎土	焼成	備考
356	土師器 杯蓋	口径 (18.5)	口縁部ごくわずかに屈曲させ、 肩部を横み出し先端部を尖り気 味に仕上げ上げる。肩部は平坦。	口縁部ヨコナナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	良好			
357	土師器 杯蓋	口径 (21.4)	口縁部は「ハ」の字状に内渡し 張り出す。肩部は屈曲し、外面に 面を有する。	口縁部ヨコナナデ	淡橙色	微砂粒を少量 含む。	やや不良			
358	土師器 蓋	口径 (15.8)	口縁部ゆるやかに傾斜し、肩部は 横に張り出し下方に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナナデか。	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	良好			
359	土師器 杯蓋か	口径 (17.0)	口縁部「ハ」の字状に開き、端 部は水平方向に引き出したのち、 わずかに下方に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナナデか。	淡黄橙色	微砂粒を含む。	良好			
360	土師器 杯蓋	口径 (22.0)	口縁部はゆるやかに傾斜。肩部は 横に張り出し、下方に巻き込む。	口縁部内面ヨコナナデ 口縁部外面は僅が深く不詳 ナデか。	淡黄色	微砂粒を含む。	良好			
361	土師器 杯	口径 (11.0)	口縁部直線的に立ち上がる。肩部 はやや尖り気味に仕上げ上げる。		淡橙色	微砂粒を含む。	良好			
362	土師器 杯	口径 (12.0)	体部ややナメ上方に直線的に 立ち上がり、肩部は近でわずか に外反する。	口縁部ヨコナナデ 口縁部肩部はロクロナナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好			
363	土師器 杯	口径 (13.0)	口縁部はほぼ直線的に立ち上がり、 肩部は丸く仕上げ上げる。	口縁部内外面ヨコナナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	良好			
364	土師器 杯	口径 (12.6)	口縁部はほぼ直線的に立ちあがる。 肩部はやや尖り気味に仕上げ上げる。	口縁部ヨコナナデ	灰白色	砂粒を多く含 む。(5mm)	やや良好			
365	土師器 杯	口径 (14.0)	口縁部直線的にやや急激に立ち 上がる。肩部はやや尖り気味に 仕上げ上げる。	口縁部内外面ヨコナナデ	淡橙色	砂粒を含む。	良好			
366	土師器 杯	口径 (13.0)	口縁部やや急激に立ちあがる。 肩部は丸く仕上げ上げる。	口縁部外面ヨコナナデ 口縁部内面ナデか。	淡橙色	微砂粒を含む。	良好			

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
367	土師器 杯	口径 (14.6) 器高 3.4 底径 (11.0)	口縁部直線的にナナメ上方に立ち上がったのち肩部付近をわずかに外反させ、肩部を少し巻き込む。底部平坦か。	口縁部内外面ヨコナデ	黄褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
368	土師器 杯	口径 (14.0) 器高 3.5 底径 (10.0)	底部は平坦で口縁部はやや急激に立ち上がり、肩部付近で外反する。肩部はやや内側に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ 底部外面に回転痕が付く。	淡赤褐色	微砂粒を含む。	良好	
369	土師器 杯	口径 (15.0) 器高 (8.5) 底径 (11.0)	口縁部直線的にナナメ上方に立ち上がり、肩部付近で外反する。肩部はやや巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ	にぶい褐色	砂粒を含む。	良好	
370	土師器 杯	口径 (11.2)	口縁部やや内高気味に立ち上がり、肩部付近で外反する。肩部はやや内側に巻き込む。	口縁部ヨコナデ	にぶい褐色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
371	土師器 杯	口径 (11.9) 器高 3.1 底径 (8.0)	口縁部やや内高気味に立ち上がったのち、直線的に肩部にのびる。口縁肩部は尖り気味に仕上げる。	調整不明 底断ヘラ切り	黄褐色 外面一部 黒色	微砂粒を多く含む。	不良	
372	土師器 杯	口径 (12.0)	口縁部ややナナメ上方に直線的に立ち上がる。肩部付近でやや外反する。	口縁部ヨコナデ	にぶい褐色	砂粒を含む。 (1mm)	やや不良	
373	土師器 杯	口径 (13.0)	口縁部ナナメ上方に直線的に立ち上がり、肩部付近でやや外反する。	口縁部ヨコナデ	淡褐色	砂粒を含む。 (1mm)	やや不良	
374	土師器 杯	口径 (13.0)	体部わずかに内高気味に立ち上がる。液付はごくわずかに外反する。肩部の器内は薄い。	口縁部ヨコナデ	にぶい黄褐色	微砂粒を含む。	不良	
375	土師器	口径 (14.6)	口縁部やや急激に直線的に立ち上がり、肩部付近で外反しやや内側に巻き込む。	口縁部内外面丁寧なヨコナデ	褐色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特 徴	手法の特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
376	土師器 杯	口径 (12.4)	口縁部はほぼ直線的に立ち上がり 端部付近でやや外反する。端部 はわずかに内側に巻き込む。	口縁部ヨコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
377	土師器 杯	口径 (15)	口縁部はほぼ直線的に立ち上がり端部 付近でわずかに外反する。端部はわ ずかに巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデナデ。	褐色	微砂粒を少量 含む。	良好	
378	土師器 杯	口径 (16) 器高 3.3 底径 (12.5)	底部平坦。口縁部は直線的にナナ メ上方に立ち上がり、端部付近で 外反する。端部はやや巻き込む。	口縁部内面ヨコナデ 外面磨減により調整不明	明褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
379	土師器 杯	口径 (13.0)	口縁部はほぼ直線的に立ち上がる。 端部は丸く仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ	淡褐色	微砂粒を少量 含む。	良好	
380	土師器 杯	口径 (12.0)	口縁部やや急激に直線的に立ち 上がり、端部は丸く仕上げる。	口縁部外面ヨコナデ。内面 ナデ。	淡褐色	微砂粒を含む。	良好	
381	土師器 杯	口径 (13.0) 器高 (8.0) 底径 (9.0)	底部平坦。口縁部はやや急激に 立ち上がる。端部付近でわずかに 外反し、端部はやや失り気味 に仕上げる。	全体的にナデ	褐色	微砂粒を含む。	良好	
382	土師器 杯	口径 (13.0)	口縁部直線的に立ち上がり、端 部はやや尖り気味に仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	良好	
383	土師器 杯	口径 (12.3)	口縁部直線的に急激に立ち上が る。	口縁部内外面ヨコナデ	にぶい橙 色	砂粒を少量含 む。(3mm)	良好	
384	土師器 杯	口径 (12.0) 器高 (3.2) 底径 (8.0)	底部平坦。ややナメ上方に直 線的に立ち上がり、端部付近で 外反する。	口縁部ヨコナデ 内面のナデがやや丁寧	にぶい橙 色	砂粒を含む。	良好	
385	土師器 杯	口径 (13.7)	口縁部立ち上がったのち、端部 付近でわずかに外反し、端部は 丸く仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ	淡褐色	微砂粒を少量 含む。	不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特 徴	手法の特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
386	土師器 杯	口径 (14.0) 器高 2.5 底径 (11.0)	口縁部直線的にナナメ上方に急 激に立ち上がった後、外反する。 口縁縮部をわずかに巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ 底面内面丁寧なナデ 底部外面ヘラ切りののちナ デ	黄褐色	微砂粒を少量 含む。	やや不良	
387	土師器 杯	口径 (12.4)	口縁部はほぼ直線的に立ち上がり、 肩部付近で外反し、やや内側に 巻き込む。	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を少量 含む。	良好	
388	土師器 杯	口径 (13.6) 器高 3.8 底径 (9.4)	体内内湾しながら立ち上がり端 部は器内が深い。底部は平らに 仕上げる。	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を少量 含む。	良好	
389	土師器 杯	口径 (15) 器高 3 底径 (11)	底部平坦。口縁部直線的に立ち 上がり、肩部付近で外反する。	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	良好	
390	土師器 杯	口径 (15.7) 器高 (3.0) 底径 (12.1)	口縁部短く直線的に立ち上がり、 端部はやや外反のち、巻き込 む。	口縁部ヨコナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
391	土師器 杯	口径 (17.2)	底部平坦で口縁部はやや直線的に立 ち上がる。肩部付近で外反する。端 部はわずかに内側に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ 底面ナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
392	土師器 杯	口径 (17.2)	口縁部はほぼ直線的に急激に立ち上 がり肩部付近で外反し、肩部内側にや や巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	やや不良	
393	土師器 杯	口径 (16.9)	口縁部やや短く、やや直線的に 立ち上がる。肩部付近でやや外 反のち、少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 色	砂粒を少量含 む。(2mm)	やや不良	
394	土師器 杯	口径 (17.4)	口縁部やや内湾気味に立ち上 がり、肩部付近で外反する。底部は わずかに内側に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
395	土師器 杯	口径 (17.2)	口径短くやや直線的にナナメ上に立ち上がる。肩部付近でやや外反のち、少し巻き込む。	口径部ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	やや不良	
396	土師器 杯	口径 (18.3)	口径部やや短く直線的にナナメ上方に立ち上がり、やや外反のち少し巻き込む。底部平坦。底部の器肉は厚い。	口径部ヨコナデ	にぶい橙 色	砂粒を含む。 (2.5mm)	やや不良	
397	土師器 杯	口径 (16.2) 器高 3.0 底径 (11.4)	口径部ほぼ直線的に立ち上がり、肩部付近で外反する。肩部は少し巻き込む。底部は平坦。やや器形がひずむ。	口径部ヨコナデ 底部はナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
398	土師器 杯	口径 (17.4)	口径部やや短く、直線的に立ち上がり、外反のち、少し巻き込む。	口径部ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	良好	
399	土師器 杯	口径 (15.8)	口径部直線的に立ち上がり、肩部付近で外反する。肩部は内面に巻き込む。	口径部ヨコナデ	赤褐色	微砂粒を少量 含む。	良好	
400	土師器 杯	口径 (17.0) 器高 3.3 底径 (12.8)	口径部直線的にナナメ上方に立ち上がったのち、肩部付近で外反し、肩部をわずかに巻き込む。	口径部内外面丁寧なヨコナデ 底部内面丁寧なナデ。底部外面へラ切りのち丁寧なナデ。	赤褐色	微砂粒を少量 含む。	良好	
401	土師器 杯	口径 (17.8)	口径部立ち上がったのち、肩部付近で外反し、やや巻き込む。	口径部内外面ヨコナデか。	灰褐色	微砂粒を含む。	良好	
402	土師器 杯	口径 (17.1)	口径部やや短く直線的にナナメ上に立ち上がり、外反のち、少し巻き込む。	口径部ヨコナデ	赤褐色	微砂粒を含む。	やや不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
403	土師器 高台付杯	口径 (20.0) 器高 (6.0) 底径 (14.0) 高台高 (0.5)	口縁部は直線的にやや急激に立ち上がり、肩部はやや尖り気味に仕上げられる。底部は平坦。断面逆台形の低い高台。	口縁部内外面ヨコナデ	淡黄褐色	灰砂粒を含む。	やや不良	
404	土師器 碗	口径 (8.7)	口縁部やや急激に立ち上がり、肩部は丸く仕上げている。	口縁部内外面ヨコナデか。	淡褐色 一部黒い	灰砂粒を少量含む。	やや不良	
405	土師器 碗	口径 (11.0)	口縁部ゆるやかに立ち上がり、先端部は尖り気味に仕上げる。器内は全体に薄い。	口縁部内外面ヨコナデ	淡褐色	灰砂粒を少量含む。	良好	
406	土師器 碗	口径 (13.1)	口縁部やや急激に立ち上がり、肩部は丸く仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ 口縁部内面丁華なナデ	外灰色 内淡黄褐色	灰砂粒を多く含む。	やや不良	
407	土師器 碗	口径 (14.0)	口縁部ナメメ上方に立ち上がり、肩部をやや尖り気味に仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデか。	濁灰色	灰砂粒を多量に含む。	不良	
408	土師器 碗	口径 (14.5)	口縁部内尚気味に立ち上がる。肩部は内側に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ 口縁部内面下部に斜放射菊文が認められる。	赤褐色	灰砂粒を少量含む。	良好	
409	土師器 碗	口径 (14.2)	口縁部やや急激に立ち上がり、肩部はわずかに外反する。	口縁部内外面ヨコナデ	淡黄褐色	灰砂粒を少量含む。	良好	
410	土師器 碗	口径 (14.8)	口縁部ナメメ上方に立ち上がり、肩部を丸く仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ	淡黄褐色	灰砂粒を多量に含む。	良好	
411	土師器 碗	口径 (15.0)	口縁部はほぼ直線的に立ち上がり、肩部付近でやや内傾する。肩部は、やや尖り気味に仕上げる。	口縁部内外面ナデ	におい褐色	灰砂粒を含む。	良好	
412	土師器	口径 (16.2)	口縁部直線的に急激に立ち上がり、肩部は尖り気味に仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ	淡褐色	灰砂粒を少量含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
413	土師器 高台付瓶	底径 (8.4) 高台高 2.5	高台は貼り付け。断面長方形の 高い高台。	全体丁寧なナデか。	褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
414	土師器 瓶	口径 (13.2)	口縁部内湾気味に立ち上がり、 肩部付近でわずかに外反する。 肩部は、内側に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデか。	淡黄色	微砂粒を含む。	良好	
415	土師器 瓶	口径 (13.8)	口縁部直線的にナメメ上方に立 ち上がり、肩部付近でわずかに 外反する。肩部はごくわずかに 内側に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ	淡赤褐色	微砂粒を含む。	良好	
416	土師器 瓶	口径 (14.8)	口縁部短く立ち上がり、肩部付 近でやや外反する。肩部は内側 に巻き込む。	口縁部内外面ナデか。	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
417	土師器 瓶	口径 (15.0)	口縁部短く立ち上がり、肩部付 近で外反する。肩部はやや巻き 込む。先端はやや尖り気味に仕 上げる。	口縁部内外面ヨコナデ	にぶい緑 色	微砂粒を含む。	良好	
418	土師器 瓶	口径 (15.5)	口縁部短く直線的に立ち上がり、 肩部付近やや外反のち、少し 巻き込む。	口縁部ヨコナデ	淡赤褐色	微砂粒を含む。	良好	
419	土師器 瓶	口径 (12.4)	口縁部直線的に急激に立ち上が り、肩部付近で外反する。肩部は 薄減しているのかわからない。	口縁部内外面ヨコナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
420	土師器 瓶	口径 (14.4)	口縁部短くやや内湾気味に立ち 上がり、肩部付近で外反する。 肩部はやや内側に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ	にぶい緑 色	微砂粒を含む。	良好	
421	土師器 瓶	口径 (14.9)	口縁部短く、やや直線的に立ち 上がり、肩部付近で外反のち 少し巻き込む。	ヨコナデ	にぶい緑 色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
422	土師器 皿	口径 (15.4)	口径短くやや内高気味に立ち上がり、肩部付近で外反し、内側に巻き込む。	口径短く外反し、内側に巻き込む。	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
423	土師器 皿	口径 (15.6) 器高 2.8 底径 (12.2)	口径短く、やや直線的に立ち上がり、肩部付近で外反のち少し巻き込む。体部と底部の間はやや丸くなる。	口径短く、やや直線的に立ち上がり、肩部付近で外反のち少し巻き込む。体部と底部の間はやや丸くなる。	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
424	土師器 皿	口径 (15.0) 器高 (1.55) 底径 (13.0)	口径短く立ち上がり、肩部付近で外反し、肩部はやや巻き込む。底部はやや平坦。	口径短く立ち上がり、肩部付近で外反し、肩部はやや巻き込む。底部はやや平坦。	にぶい褐色	微砂粒を含む。	良好	
425	土師器 皿	口径 (13.0) 器高 2.5 底径 (11.0)	口径短く、オナメ上方に急激に立ち上がったのち、肩部付近でわずかに外反。底部平坦か。	口径短く、オナメ上方に急激に立ち上がったのち、肩部付近でわずかに外反。底部平坦か。	黄褐色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
426	土師器 皿	口径 (15.1)	口径短く、やや直線的に立ち上がり、肩部付近で外反のち、少し巻き込む。	口径短く、やや直線的に立ち上がり、肩部付近で外反のち、少し巻き込む。	にぶい褐色	微砂粒を含む。	良好	
427	土師器 皿	口径 (15.8)	口径短くやや直線的で肩部付近で外反する。肩部はやや内側に巻き込む。	口径短くやや直線的で肩部付近で外反する。肩部はやや内側に巻き込む。	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
428	土師器 皿	口径 (15.0) 器高 (1.9) 底径 (10.4)	口径部大きく外方に開く。口径肩部はわずかに尖り気味に仕上げられる。底部平坦。	口径部内外面ヨコナデ。底部内面丁字なナデ。底部外面へラ切りのち、丁字なナデ。	黄褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
429	土師器 皿	口径 (16.0) 器高 (2.6) 底径 (13.0)	口径短く、ナメ上方に立ち上がり、肩部付近で外反のち少し巻き込む。底部の器内は厚い。	口径短く、ナメ上方に立ち上がり、肩部付近で外反のち少し巻き込む。底部の器内は厚い。	淡黄褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
430	土師器 皿	口径 (16.3)	口径部ほぼ直線的に立ち上がる。肩部はわずかに内側に巻き込む。	口径短くほぼ直線的に立ち上がる。肩部はわずかに内側に巻き込む。	淡黄褐色	微砂粒を含む。	やや不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
431	土師器 皿	口径 (16.0)	口径部短く、ナナメ上方に立ち上がり、肩部付近わずかに外反したのち、少し巻き込む。	口径部ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	良好	
432	土師器 皿	口径 (17.2)	口径部短く、やや直線的にナナメ上方に立ち上がり、肩部付近でやや外反のち、少し巻き込む。	口径部ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	良好	
433	土師器 皿	口径 (17.0)	口径部内湾気味に立ち上がり、外反する。肩部はわずかに内側に巻き込む。	口径部ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を多く含む。	良好	
434	土師器 皿	口径 (17.2)	口径部は、ほぼ直線的に立ち上がり、肩部付近で外反する。肩部はやや内側に巻き込む。	口径部外面ヨコナデか。	明褐色	微砂粒を含む。	良好	
435	土師器 皿	口径 (16.8)	口径部は、やや内湾気味に立ち上がり、肩部付近で外反する。肩部は内側に巻き込む。	口径部内外面ヨコナデ。	にぶい黄 褐色	微砂粒を含む。	良好	
436	土師器 皿	口径 (18.0)	口径部短く、やや直線的にナナメ上方に立ち上がり、肩部付近で外反のち、少し巻き込む。	口径部ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	やや不良	
437	土師器 皿	口径 (18.8)	口径部短く、ややナメ上方に立ち上がり、肩部付近で外反のち、少し巻き込む。	口径部ヨコナデ	外にぶい 褐色 内浅黄褐色	やや砂粒を含む。(2mm)	良好	
438	土師器 皿	口径 (18.2)	口径部内湾気味に立ち上がり、肩部付近で外反する。肩部はやや内側に巻き込む。	口径部内外面ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	良好	
439	土師器 皿	口径 (19.6)	口径部短く、やや直線的に立ち上がり、肩部付近外反のち、やや巻き込む。	口径部ヨコナデ	明赤褐色	砂粒を含む。 (2mm)	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特 徴	手法の特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
440	土師器 皿	口径 (19.0) 器高 3.1 底径 (17.0)	口縁部、ほぼ直線的に立ち上がり、端部付近で外反し、端部はやや内側に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ	にぶい橙 色	砂粒を含む。 (2.5mm)	良好	
441	土師器 皿	口径 (15.8)	口縁部やや短かく立ち上がり、端部付近で外反する。端部はやや巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を少量 含む。	やや不良	
442	土師器 皿	口径 (16.6) 器高 2.0 底径 (13.2)	口縁部短くナナム上方に立ち上がったのち、端部付近でわずかに外反させ、端部を小さく巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ	淡赤褐色	微砂粒を少量 含む。	良好	
443	土師器 皿	口径 (16.8) 器高 1.4 底径 (13.8)	底部やや平坦。口縁部をナナム上方に引き出す。	口縁部内外面ナデか。	褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
444	土師器 皿	口径 (18.0) 器高 2.0 底径 (15.0)	底部やや平坦。口縁部短く立ち上がり、端部はやや外反し、内側に巻き込む。	口縁部内面ナデ 外面は摩滅により調整不明	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	良好	内面端部に少し煤が付着。
445	土師器 皿	口径 (17.0)	口縁部短く立ち上がり端部付近で外反して、わずかに巻き込む。底部は平坦。	口縁部内外面ヨコナデ 底部ナデか。	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	良好	
446	土師器 皿	口径 17.5 器高 2.2 底径 15.2	口縁部短く、ナナム上方に立ち上がり、端部付近わずかに外反。底部平坦。	口縁部内外面ヨコナデ 底部内面ナデ。底部外面へラ切りのちナデ。	灰白色 外面一部 黒灰色	微砂粒を多く 含む。	不良	
447	土師器 皿	口径 (19.0)	口縁部短くやや直線的にナナム上方に立ち上がり端部付近で外反のち、少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	良好	
448	土師器 皿	口径 (19.2) 器高 2.1 底径 (17.3)	口縁部短く直線的にナナム上方に立ち上がり、端部付近で外反する。口縁部わずかに巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデか。	淡褐色	微砂粒を少量 含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
449	土師器 皿	口径 (19.2)	口縁部内湾頸縁に立ち上がったのち、底部付近で外反する。端部は内側に巻き込む。	口縁部ヨコナデ	淡褐色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
450	土師器 皿	口径 (18.5)	口縁部短く、やや直線的に立ち上がり、端部付近でやや外反ののち、少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	にぶい褐色	微砂粒を含む。	良好	
451	土師器 皿	口径 (18.4) 器高 2.2 底径 (12.8)	口縁部短くやや直線的にナナメ上方に立ち上がり、外反ののち少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	にぶい褐色	砂粒を少し含む。(4mm)	やや不良	
452	土師器 皿	口径 (19.2)	底部平坦で口縁部短い。直線的に立ち上がる。口縁部は端部付近でわずかに外反する。端部はわずかに内側に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ 底部外面へう切りののちナデ	褐色	微砂粒を含む。	良好	
453	土師器 皿	口径 (19.6)	口縁部やや直線的に立ち上がり、端部付近で外反する。端部は内側に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデか。	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
454	土師器 皿	口径 (20.1)	口縁部立ち上がったのち、端部付近で外反し、やや巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ	淡褐色	微砂粒を含む。	良好	
455	土師器 皿	口径 (22.4) 器高 1.6 底径 (16.4)	口縁部直線的にナナメ上方に立ち上がり、端部をやや突き気味に仕上げる。	口縁部ヨコナデ	にぶい褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
456	土師器 皿	口径 (24.6)	口縁部短く、ほぼ直線的に立ち上がり、外反ののち、少し巻き込む。器内は端部以外はやや厚い。	口縁部ヨコナデ	灰白色	やや砂粒を含む。(2mm)	良好	
457	土師器 皿	口径 (20.0) 器高 2.4 底径 (16.0)	口縁部短く、ナナメ上方に直線的に立ち上がり、端部付近でわずかに外反ののち、少し巻き込む。底部平坦。	口縁部ヨコナデ	にぶい褐色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
458	土師器 皿	口径 (19.4)	口径部短く、ほぼ直線的に立ち上がり、端部付近で外反する。端部は内側に巻き込む。	口径部短く、ほぼ直線的に立ち上がり、端部付近で外反する。端部は内側に巻き込む。	口径部内外面ヨコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
459	土師器 皿	口径 (21.8)	口径部立ち上がったのち、わずかに外反し、内側に巻き込む。	口径部立ち上がったのち、わずかに外反し、内側に巻き込む。	口径部ヨコナデ	にぶい藍色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
460	土師器 皿	口径 (21.6)	口径部ゆるやかに立ち上がり、端部付近で外反する。端部は、やや内側に巻き込む。	口径部ゆるやかに立ち上がり、端部付近で外反する。端部は、やや内側に巻き込む。	口径部ヨコナデか。	淡黄褐色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
461	土師器 皿	口径 (24.0) 器高 2.25 底径 (20.0)	口径部短く、やや急激に立ち上がり、端部付近で外反する。端部は巻き込む。底部は平坦。中央はやや器内が薄い。	口径部短く、やや急激に立ち上がり、端部付近で外反する。端部は巻き込む。底部は平坦。中央はやや器内が薄い。	口径部内外面ヨコナデ 底部内外面ナデ	にぶい藍色	砂粒をやや含む。	やや不良	
462	土師器 皿	口径 (23.6)	口径部ほぼ直線的に立ち上がり、端部付近で外反する。端部は内側に巻き込む。先端はやや尖り気味に仕上げる。	口径部ほぼ直線的に立ち上がり、端部付近で外反する。端部は内側に巻き込む。先端はやや尖り気味に仕上げる。	口径部ヨコナデ	明褐色	微砂粒を多く含む。	やや不良	
463	土師器 皿	口径 (27.2) 器高 1.5 底径 (25.0)	口径部短く、ややナメ上方に立ち上がり、端部付近で外反の後、少し巻き込む。	口径部短く、ややナメ上方に立ち上がり、端部付近で外反の後、少し巻き込む。	口径部ヨコナデ	にぶい藍色	微砂粒を含む。	やや不良	
464	土師器 高杯	口径 (24.0)	体部は内湾して立ち上がり、口径部との境界部に稜が認められる。	体部は内湾して立ち上がり、口径部との境界部に稜が認められる。	口径部内外面ヨコナデか。	にぶい藍色	微砂粒を含む。	良好	
465	土師器 高杯の坏部	口径 (27.0)	口径部やや内湾気味に立ち上がる。端部は横に張り出し、先端は上方に巻き込む。底部と口径部の境界部に稜が認められる。	口径部やや内湾気味に立ち上がる。端部は横に張り出し、先端は上方に巻き込む。底部と口径部の境界部に稜が認められる。	ナデか。	褐色	砂粒を含む。	良好	
466	土師器 高杯	口径 (27.0)	口径部直線的にナメ上方に立ち上がり、端部をやや尖り気味に仕上げる。底部平坦。器内が厚い。	口径部直線的にナメ上方に立ち上がり、端部をやや尖り気味に仕上げる。底部平坦。器内が厚い。	口径部ヨコナデ	淡褐色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
467	土師器 高杯の杯部	口径 (29.4)	口縁部は直線的にナナメ上方に立ち上がり、やや外反する。肩部やや内側に巻き込む。底部平坦。脚部を貼り付けた直線降らしきものあり。	口縁部、底部ともにナナメ底部外面に沈線か。	にぶい橙 色	微砂粒を多く含む。	やや不良	
468	土師器 高杯の脚部		底部平坦。すそに向いながら下に傾斜し、脚上部は直線的に立ち上がる。断面円筒形。	ヨコナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
469	土師器 高杯の脚部	脚底径 (8.6)	脚部大きく外方に開き、脚端部は水平方向に引き出したのち、わずかに下方に巻き込む。	脚部内外面ヨコナデ	にぶい橙 色	微砂粒を含む。	良好	
470	土師器 罎	口径 (24.4)	口縁部大きく外反する。肩部付近で、ごくわずかに内湾する。肩部平坦。	口縁部ヨコナデ	褐色	砂粒を多く含む。(2mm)	良好	
471	土師器 罎	口径 (31.5)	口縁部大きく外反する。肩部平坦。	口縁部ヨコナデ 体部外面に縦のクシ目	にぶい橙 色	砂粒を含む。 (2mm)	良好	
472	土師器 罎		口縁部大きく外反する。肩部平坦。	口縁部ヨコナデ	にぶい黄 褐色	砂粒を多く含む。(2mm)	不良	
473	土師器 罎		口縁部大きく外反する。肩部平坦。	口縁部ヨコナデ 内面は強いヨコナデ	灰白色	砂粒を多く含む。(2mm)	良好	
474	土師器 罎		口縁部大きく外反する。肩部平坦。	口縁部ヨコナデ 内面は強いヨコナデ	淡黄褐色	砂粒を多く含む。(2mm)	良好	
475	土師器 壺		口縁部大きく外反する。肩部平坦。	口縁部ヨコナデ	にぶい橙 色	砂粒を含む。 (2mm)	やや良好	
476	土師器 壺	底径 (6.7)	底部平坦。ナナメ上方に直線的に急に立ち上がる。	ヨコナデ	褐色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
477	土罽器 壺	底径 (7.0)	底部平坦。ナナメ上方に縦線的に立ち上がる。	底面は粗澁な仕上げ 内面は丁寧なナデ	ヨコナデ 外面は粗澁な仕上げ 内面は丁寧なナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
478	土罽器 壺	口径 (20.4) 器高 (18.2)	口径部大きく外反し体部は内湾しながら立ち上がる。	口径部内外面ヨコナデ	口径部ヨコナデ 体部内外面ヨコナデ	淡褐色	砂粒を含む。 (3mm)	良好	
479	土罽器 壺	口径 (12.6)	口径は大きく外反し、端部をやや横に引き出したのち、上方に巻き込む。	口径部内外面ヨコナデ	口径部内外面ヨコナデ	淡赤褐色	微砂粒を含む。	良好	
480	土罽器 壺	口径 (34.0)	口径部大きく外反。端部は平坦に仕上げる。	口径部ヨコナデ 体部外面はハケ目 口径部内面は横にハケ目がわずかに残る。	口径部ヨコナデ 体部外面はハケ目 口径部内面は横にハケ目がわずかに残る。	淡黄褐色	砂粒を含む。 (3mm)	良好	
481	土罽器 壺	口径 (35.6)	口径部大きく外反し、体部は内湾しながら立ち上がる。端部は平らに仕上げる。	口径部ヨコナデ 内面ハケ目 外面体部横のハケ目	ヨコナデ 内面ハケ目 外面体部横のハケ目	外灰黄褐色 内にぶい 黄褐色	砂粒を多く含む。	良好	
482	土罽器 製埴壺	口径 (11.3)	体部はばらばらにナナメ上方に立ち上がり、端部付近でわずかに内反する。端部平坦。	体部外面上部ユビオサエ	外面ヨコナデ 内面ハケ目 体部外面上部ユビオサエ	赤褐色	微砂粒を含む。	良好	
483	土罽器 製埴壺	口径 (7.5)	体部わずかに内湾しながら立ちあがる。	ヨコナデ 体部外面上部ユビオサエ	ヨコナデ 体部外面上部ユビオサエ	黄褐色	砂粒を含む。 (3mm)	良好	
484	土罽器 製埴壺	口径 (10.4)	体部やや内湾気味に立ち上がる。口径部やや内湾する。端部付近の器内は薄い。体部は器内厚い。	内面は丁寧なナデ 外面はやや丁寧なナデ	内面は丁寧なナデ 外面はやや丁寧なナデ	赤褐色	砂粒を少量含む。 (1mm)	良好	
485	土罽器 製埴壺	口径 (8.2)	体部やや内湾気味に立ち上がる。口径部やや内湾する。端部平坦。器内は厚い。	内面は丁寧なナデ 外面は荒いナデ	内面は丁寧なナデ 外面は荒いナデ	外淡褐色 内褐色	砂粒を含む。 (3mm)	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
486	土師器 製埴蓋	口径 (8.2)	体部やや内湾気味に立ち上がる。口縁部やや内湾する。肩部平坦。器内は厚い。	内面は丁寧なナデ 外面は荒いナデ	外赤褐色 内橙褐色	微粒を多く含む。(1mm)	やや不良	
487	黒色土器 高台付杯	口径 (11.3) 杯部の器高 3.5 杯部の底径 (7.4)	口縁部はびじり線的に立ち上がったのち、わずかに外反する。口縁部は尖り気味に仕上げられる。底部外面に高台割落痕あり。	口縁部内外面ヨコナデ 高台は貼り付け	暗黒色	微粒を少量含む。	やや不良	
488	須恵器 杯蓋	口径 (18.9) 器高 3.3 飲み高 (1.2) 飲み径 (2.7)	天井平坦で、中央部に宝珠形のやや高目の飲みが付く。口縁部わずかに反出し、肩部を下方向に飲み出し、尖り気味に仕上げる。	全体にロクロナデ 飲みは貼り付け	灰白色	微粒を少量含む。	やや不良	
489	須恵器 杯蓋	飲み高 (0.8) 飲み径 (2.7)	天井平坦で、口縁部に向けてゆるやかに傾斜する。天井部中央に扁平で低い飲みが付く。	全体にやや粗いロクロナデ 飲みは貼り付け	灰色	微粒を少量含む。	良好	
490	須恵器 杯蓋	飲み高 (0.8) 飲み径	天井部平坦。中央部に宝珠形の飲みが付く。	全体にロクロナデ 飲みは貼り付け	灰色	微粒を含む。	やや良好	
491	須恵器 杯蓋	飲み高 (0.6) 飲み径 (1.9)	天井平坦。小さな宝珠形の飲み。	全体にロクロナデ 飲みは貼り付け	灰白色	微粒を多く含む。	良好	
492	須恵器 杯蓋	飲み高 (1.4) 飲み径 (1.9)	天井部平坦。中央部に扁平な盤面宝珠形の飲みが付く。	全体にロクロナデ 飲みは貼り付け	灰白色	微粒を含む。	不良	
493	須恵器 杯蓋	飲み高 (0.9) 飲み径 (2.0)	天井部は平坦で、中央に盤面宝珠形の飲みが付く。	ロクロナデ 飲みは貼り付け	灰色	微粒を含む。	良好	
494	須恵器 杯蓋	飲み高 (1.5) 飲み径 (2.0)	天井平坦。天井中央に扁平な飲みが付く。	全体にロクロナデ 飲みは貼り付け	灰白自然 釉跡少し	微粒を含む。	やや不良	
495	須恵器 杯蓋	飲み高 (0.6) 飲み径 (2.2)	天井部中央に扁平な飲みが付く。	全体にロクロナデ	灰色	微粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特 徴	手法の特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
496	須置器 杯蓋	口径 (12.6)	口縁部ごくわずかに屈曲させ、 端部を揃み出し、先端部を尖り 気味に上げる。端部平坦。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。 (1mm)	やや不良	
497	須置器 杯蓋	口径 (12.8)	口縁部をわずかに屈曲させ、端部 を揃み出し、先端部を尖り気味に 上げる。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。 (1mm)	良好	
498	須置器 杯蓋	口径 (15.6)	口縁部なだらかに傾斜させ、端部 を揃み出し、先端部を尖り気味に 仕上げる。端部平坦。	全体にロクロナデ	灰色	微砂粒を含む。	良好	
499	須置器 杯蓋	口径 (16.0)	口縁部わずかに屈曲させ、端部 を揃み出し、先端部を尖り気味 に上げる。端部は平坦。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。 (2mm)	良好	
500	須置器 杯蓋	口径 (15.0) 底径 (12.8)	口縁部短く、ナナメ上方に立ち 上がり、端部でわずかに外反し たのち、少し巻き込む。	全体にロクロナデ	明オリー ブ灰	微砂粒を含む。	良好	
501	須置器 杯蓋	口径 (11.2) 器高 (1.3) 底径 (9.8)	口縁部をわずかに屈曲させ、端 部を揃み出し、先端部を尖り気味 に上げる。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。 (1mm)	良好	
502	須置器 杯蓋	口径 (13.3)	口縁部をわずかに屈曲させ、端 部を揃み出し、先端部を尖り気味 に仕上げる。天井は平坦。	全体にロクロナデ	灰白色	精良。	良好	
503	須置器 杯蓋	口径 (14.0)	口縁部を屈曲させ、端部を揃み 出し、端部は外反したのち、少 し巻き込む。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
504	須置器 杯蓋	口径 (13.6)	口縁部は器向が極めて薄くなり、 ナナメ上方に張り出す。内面の 口縁部と体部の境には回みがわ ぐらされている。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を多く 含む。	やや不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
505	須臾器 杯蓋	口径 (14.4)	口縁部なだらかに傾斜する。端部を揃み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。端部平坦。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を多く含む。	やや不良	
506	須臾器 杯蓋	口径 (14.8)	口縁部をわずかに屈曲させ、端部を揃み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。(1mm)	良好	
507	須臾器 杯蓋	口径 (10.9)	天井部平坦で、ゆるやかに傾斜し、口縁部に続く。口縁端部は屈曲せず、単純に仕上げる。	全体にロクロナデ	明褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
508	須臾器 杯蓋	口径 (12.6)	口縁部をわずかに屈曲させ、端部を揃み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。天井は平坦。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
509	須臾器 杯蓋	口径 (12.8)	口縁部をごくわずかに屈曲させ、端部を揃み出し、先端部を尖り気味に上げ巻き込む。両面とも凹凸あり。	全体にロクロナデ	灰色	砂粒を含む。	良好	
510	須臾器 杯蓋	口径 (14.4)	口縁部をわずかに屈曲させ、端部を揃み出し、先端部を尖り気味に上げ巻き込む。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
511	須臾器 杯蓋	口径 (14.2)	口縁部短く、ナメメ上方に立ち上がり、端部付近わずかに外反したのち、少し巻き込む。	口縁部ロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
512	須臾器 杯蓋	口径 (12.6)	口縁部なだらかに傾斜させ、端部を揃み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。端部平坦。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を多量に含む。(2mm)	不良	
513	須臾器 杯蓋	口径 (15.9)	口縁部をわずかに屈曲させ、端部を揃み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。端部は平坦。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。(1mm)	不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
514	須恵器 杯蓋	口径 (16.0)	口縁部をわずかに屈曲させ、端部を揃み出し、先端部を尖り気味に仕上げ。端部は平坦。	全体にロクロナデ	杯白色	微砂粒を含む。	良好	
515	須恵器 杯蓋	口径 (16.6)	口縁部ゆるやかな直線で見出し、先端部を揃み出し、先端部を尖り気味に上げる。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
516	須恵器 杯蓋	口径 (16.6)	口縁部をわずかに屈曲させ、端部を揃み出し、先端部を尖り気味に上げる。端部は平坦。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
517	須恵器 杯蓋	口径 (18.6)	天井部平坦で、ゆるやかに傾斜し、口縁部に縁く。口縁端部の折りかえしは小さい。先端部は内傾気味に仕上げる。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を少量含む。	良好	
518	須恵器 杯蓋	口径 (20.8)	口縁部をわずかに屈曲させ、端部を揃み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。端部は平坦。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
519	須恵器 杯蓋	口径 (16.0) 器高 (1.4) 口径 (11.0)	口縁部をごくわずかに屈曲させ、端部を揃み出し、端部を尖り気味に仕上げる。器内は厚い。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。 (2mm)	良好	
520	須恵器 杯蓋	口径 (17.8)	口縁部はゆるやかに内湾する。端部を揃み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。 (5mm)	良好	
521	須恵器 杯蓋	口径 (18.0)	口縁部をわずかに屈曲させ、端部を揃み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。天井部は平坦。	全体にロクロナデ	明オリ 灰色	微砂粒を含む。	良好	
522	須恵器 杯蓋	口径 (18.3)	口縁部をわずかに屈曲させ、端部を揃み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
523	須臾器 杯蓋	口径 (17.8)	口縁部わずかに屈曲させ、端部を横み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。底部平坦。	全体にロクロロナデ	灰白色	砂粒を含む。 (1mm)	良好	
524	須臾器 杯蓋	口径 (20.0) 器高 (1.4) 底径 (17.0)	口縁部わずかに屈曲させ、端部を横み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。内面にやや凹凸あり。	全体にロクロロナデ	灰色	砂粒を含む。 (1mm~2mm)	良好	
525	須臾器 杯	口径 (6.8) 器高 (2.3) 底径 (9.8)	口縁部短く、ナナメ上方に立ち上がる。端部付近で、ごくわずかに外反する。	全体にロクロロナデ 底部ヘラ切り	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
526	須臾器 高台付 杯	口径 (11.6) 器高 3.6 高台径 (7.7)	口縁部内高気味にナナメ上方に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。底部平坦とみられ、断面逆舟形上の低い高台がやや上方にふんばる。	全体にロクロロナデ	灰白色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
527	須臾器 高台付 杯	高台高 (0.3) 高台径 (8.2)	体部直線的にナナメ上方へのびる。断面方形の低い高台がふんばっている。底部外面の器内は厚い。	全体にロクロロナデ 高台は貼り付け	灰白色	砂粒を含む。 (4mm)	やや不良	
528	須臾器 高台付 杯	高台高 0.4	本器やや直線的にナナメ上方に立ち上がり、高台は方形でごく高めのものが付く。	全体にロクロロナデ	灰白色	精良。	良好	
529	須臾器 高台付 杯	高台高 (0.3) 高台径 (6.8)	底部平坦。断面方形の高台が付く。体部ナナメ上方に直線的に立ち上がる。	全体にロクロロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
530	須臾器 高台付 杯	高台高 (0.4) 高台径 (8.3)	底部平坦。断面方形の高台が付く。高台端部はごくわずかに外反する。	全体にロクロロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	やや不良	
531	須臾器 杯	口径 (11.7) 器高 3.2 底径 (8.5)	口縁部はほぼ直線的にナナメ上方に急激に立ち上がり、端部をやや尖り気味に仕上げる。底部平坦。	口縁部内外面ロクロロナデ 底部内面ナデか。底部外面へう切りののちナデ。	灰白色	微砂粒を少量含む。	やや不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
532	須臾器 高台付 杯	口径 (13.2) 器高 3.5 高台径 (9.7)	口縁部ほぼ直線的にナナメ上方に立ち上がる。口縁部端部は尖り気味に仕上げる。底平部短く断面方形の低い高台が付く。	口縁部内外面ロクロナデ 底部内面丁字ナデ 底部外面やや粗いナデ	灰色	微砂粒を少量含む。	良纤	
533	土須臾器 高台付 杯	高台高 (0.2) 高台径 (8.4)	体部やや内湾気味にナナメ上方に立ち上がる。断面方形の高台が付く。	全体にロクロナデ 高台貼り付け		砂粒を含む。 (1mm)	やや不良	
534	須臾器 高台付 杯	高台高 0.5 高台径 (9.0)	体部わずかに内湾気味に立ち上がる。断面方形の高台が付く。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良纤	
535	須臾器 高台付 杯	高台高 (0.2) 高台径 (7.0)	底部平坦。断面方形の高台が付く。底部に歪みがある。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	やや良纤	
536	須臾器 杯	口径 (14.8) 器高 2.4 底径 (10.0)	口縁部短くやや上方に直線的に立ち上がる。底部平坦。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	やや不良	
537	須臾器 高台付 杯	口径 (18.5)	口縁部直線的にナナメ上方に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。底平坦で、断面方形の低い高台がやや外方にふんばっている。	全体にロクロナデ 底部外面のナデはやや粗い。	灰褐色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
538	須臾器 高台付 杯	高台高 0.3 高台径 11.6	体部やや内湾しながら直線的に立ち上がり、断面方形の高台が付く。底部高台付近の器内は薄い。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。 (1mm)	良纤	
539	須臾器 高台付 杯	高台高 (0.8) 高台径 (11.2)	体部やや内湾して立ち上がり、底部平坦で断面方形の高台が付く。	全体にロクロナデ 底部内面は丁字ナデ	灰色	砂粒を含む。 (1mm)	良纤	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
540	須恵器 高台付 高台杯	高台高 (0.4) 高台径 (0.5)	底部平坦で断面三角形の小さい高台が付く。	底部平坦で断面三角形の小さい高台が付く。	全体にロクロナデ 外面はナデは十分でない。 内面のナデはやや丁寧	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
541	須恵器 高台付 高台杯	高台高 (0.3)	底部平坦で、断面方形の高台がふんばっている。	底部方形の高台がふんばっている。	全体にロクロナデ 底部内面は丁寧なナデ	灰白色	砂粒を含む。 (2mm)	やや良好	
542	須恵器 高台付 杯	高台高 0.7	底部やや丸く、断面方形の高台が付く。	底部やや丸く、断面方形の高台が付く。	全体にロクロナデ 高台は貼り付け	灰白色 外面底部 自然釉	微砂粒を含む。	良好	
543	須恵器 高台付 杯	高台高 0.3	底部平坦。断面方形の高台が付く。高台端部はごくわずかに内凹する。高台内底面の器内は厚い。	底部平坦。断面方形の高台が付く。高台端部はごくわずかに内凹する。高台内底面の器内は厚い。	全体はロクロナデ	灰白色 (自然釉)	微砂粒を含む。	良好	
544	須恵器 高台付 杯	高台高 0.4	底部平坦。断面方形の高台が付く。	底部平坦。断面方形の高台が付く。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	不良	
545	須恵器 碗	口径 (10.6)	口縁部ナメメ上方に立ち上がり、端部付近でやや大きく外反する。端部は丸める。	口縁部ナメメ上方に立ち上がり、端部付近でやや大きく外反する。端部は丸める。	全体にロクロナデ	灰色 (自然釉)	微砂粒を含む。	良好	
546	須恵器 碗	口径 (12.4)	体部やや内湾気味に立ち上がり、端部付近で外反する。端部の器内は薄い。	体部やや内湾気味に立ち上がり、端部付近で外反する。端部の器内は薄い。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	やや不良	
547	須恵器 碗	口径 (12.6)	口縁部ややナメメ上方に直線的に立ち上がる。	口縁部ややナメメ上方に直線的に立ち上がる。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	やや不良	
548	須恵器 碗	口径 (2.0)	体部内湾気味に立ち上がる。端部付近はやや外反する。	体部内湾気味に立ち上がる。端部付近はやや外反する。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	不良	
549	須恵器 碗	口径 (11.8)	口縁部やや内湾気味に立ち上がり、端部付近でやや外反する。	口縁部やや内湾気味に立ち上がり、端部付近でやや外反する。	全体にロクロナデ 外面は粗雑	灰色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
550	須恵器 椀	口径 (12.4)	口縁部や内湾気味に立ち上がり、肩部付近でやや外反する。肩部は器内は薄い。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
551	須恵器 椀	口径 (10.8)	口縁部やナナメ上方に直線的に立ち上がる。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	やや不良	
552	須恵器 椀	口径 (11.6)	体部内湾気味に立ち上がる。肩部はやや尖り気味に立ち上げる。肩部付近は器内が薄い。	全体にロクロナデ	灰色	微砂粒を含む。	良好	
553	須恵器 椀	口径 (13.1)	口縁部やナナメ上方に内湾しながら立ち上がり、肩部付近やや外反する。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	不良	
554	須恵器 椀	口径 (13.6)	口縁部やナナメ上方に直線的に立ち上がる。	全体にロクロナデ 内面は丁寧なナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
555	須恵器 椀	口径 (13.8)	口縁部やナナメ上方に内湾しながら立ち上がる。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。 (3mm)	やや不良	
556	須恵器 椀	口径 (13.3)	口縁部やナナメ上方に直線的に立ち上がり、肩部付近で、ごくわずかに外反する。器内は全体的に薄い。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	やや不良	
557	須恵器 椀		口縁部ナナメ上方に直線的に立ち上がる。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	やや不良	
558	須恵器 椀	口径 (18.5)	口縁部や短く、やや直線的にナナメ上方に立ち上がる。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。 (2mm)	やや不良	
559	須恵器 椀	口径 (15.0)	口縁部や内湾気味にナナメ上方に立ち上がる。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	やや不良	
560	須恵器 椀	口径 (13.8)	口縁部やナナメ上方に内湾しながら立ち上がる。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。 (2mm)	やや不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特 徴	手法の特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
561	須臾器 輪	口径 (18.8)	体部わずかに内溝気味に立ち上 がる。端部付近でわずかに外反 する。	全体にロクロナデ 内面が丁寧	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
562	須臾器 輪	口径 (16.4)	体部わずかに内溝気味に立ち上 がり。端部付近は、やや外反する。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
563	須臾器 高台付 輪	口径 (11.5) 器高 (3.7) 高台高 (0.4) 高台径 (8.2)	体部内溝気味に立ち上がる。端 部付近で外反し、端部の器肉は 薄い。断面方形の高台が付く。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
564	須臾器 高台付 輪	高台高 (0.1)	体部やや内溝しながら立ち上 がり。断面方形の高台が厚い。 高台付近は器肉が厚い。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
565	須臾器 皿	口径 (13.5) 器高 1.4 底径 (8.5)	口縁部短く大きく外方に開く。口 縁部付近は水平方向にのび、端 部を上方に巻き込む。底部平坦。	口縁部内外面ヨコナデ 器部内面ナデ。底部外面へ ナ切りのちナデ。	明褐色	微砂粒を少量 含む。	不良	
566	須臾器 皿	口径 (14.6)	口縁部短く、ナナメ上方に立ち 上がり。端部付近わずかに外反 したのち、少し巻き込む。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
567	須臾器 皿	口径 (16.8)	口縁部短く、ほぼ直線的にナ メ上方に立ち上がり。端部付近 で外反したのち、わずかに巻き 込む。	全体にロクロナデ	灰黄色	微砂粒を含む。	良好	
568	須臾器 皿		口縁部短く、ナナメ上方に立ち 上がり。端部付近わずかに外反 する。端部の器肉は薄い。	全体にロクロナデ	淡黄色	微砂粒を含む。	不良	
569	須臾器 皿	口径 (17.2)	口縁部短く、ナナメ上方に立ち 上がり。端部付近わずかに外反 したのち、少し巻き込む。	全体にロクロナデ	明オリー ブ灰色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
570	須恵器 甕	口径 (19.4)	口縁部短くナナメ上方に直線的に立ち上がり端部付近で外反する。肩部水平で平坦。	全体にロクロロナデ	灰色	砂粒を含む。 (1mm)	やや不良	
571	須恵器 杯蓋		口縁部をわずかに起曲させ、端部を横み出し、先端部を生り気味に仕上げる。天井部は平坦。口縁部外面凹凸あり。	全体にロクロロナデ 調整はやや粗雑	灰白色	砂粒を含む。 (3mm)	やや不良	
572	須恵器 杯蓋		天井部平坦。口縁部に向けて、砂をやかに傾斜する。口縁端部は、わずかに起曲し、先端部を尖り気味に仕上げる。	全体にロクロロナデ	灰白色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
573	須恵器 蓋	口径 (25.8)	体部はナナメ上方に立ち上がり、端部付近で外反する。肩部は平らに仕上げわずかに巻き込む。	ロクロロナデ	灰白色	砂粒を含む。 (9mm)	やや不良	
574	須恵器 壺		頸部は細くはぼ直立し、口縁部付近で外反する。肩はやや張り気味か。	頸部ロクロロナデ 頸部と口縁部の境界付近に一本の沈線を施す。	灰色 頸部から肩にかけて一部自然釉	砂粒を少量含む。	やや不良	
575	須恵器 蓋	口径 (10.8)	口縁部はナナメ上方に立ち上がったのち、端部を横み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。	全体にロクロロナデ	灰白色釉 はオリー ブ灰色	微砂粒を含む。	良好	
576	須恵器 蓋	口径 (17.0)	口縁部やナナメ上方に立ち上がり、肩部はやや内湾し、やや平らに仕上げる。口縁部外面凹凸あり。	全体にロクロロナデ	灰色	砂粒を多く含む。 (3mm)	良好	
577	須恵器 蓋	口径 (11.6)	口縁部やナナメ上方にわずかに内湾しながら立ち上がる。肩部やや平坦。	全体にロクロロナデ	灰白色	砂粒を含む。 (1mm)	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
578	瓦	厚み (3.3)	体部やや直線的にのびる平瓦。	両面に基盤目を施す。 端部ヘラケズリ	にぶい藍色	砂粒を多く含む。	不良か。	
579	瓦	厚み (3.0)	体部はほぼ直線的にのびる平瓦。	両面に基盤目を施す。	一面黒色 片方面僅色	径約1mm砂粒を多く含む。	不良か。	
580	土師器 羽口		円筒状で表面をヘラで削ってやや角柱に近い。先端部は煙裏。	釉に粘土を巻きつけ円筒状に成形。表面丁寧なナデ。	灰色	砂粒を含む。 (5mm)	やや不良	
581	土師器 杯	口径 (12.2) 器高 (2.7)	口径部ゆるやかに内湾しながら立ち上がる。	口径部はヨコナデ	にぶい黄褐色	砂粒を含む。 (4mm)	良好	
582	土師器 樽		口径部ややナメ上方に直線的に立ち上がる。端部は丸める。	口径部ヨコナデ	にぶい藍色	微砂粒を含む。	良好	
583	土師器 皿	口径 (18.8) 器高 2.6 底径 (13.0)	口径部内湾しながら立ち上がり、端部をわずかに外反させる。口径部端面は、平坦に仕上げる。底部平坦。	口径部内外面ヨコナデ 底部内面ナデ 底部外面ナデ	明黄褐色	微砂粒を多く含む。	やや不良	
584	土師器 高杯脚部	脚底径(10.8)	脚部大きく外方に開き、脚部は水平方向に引き出したのち、わずかに巻き込む。脚部は八角形を呈する。	脚部内外面とも丁寧なヨコナデ。脚部はヘラで面取りを施し、八角形に仕上げる。内面にしぼり目が認められる。	明赤褐色	精良。		
585	土師器 罎	口径 (43.8)	口径部大きく外反する。端部外に平坦。	口径部ヨコナデ 体部内面ナメと横にハケ目	褐色	砂粒を含む。 (3mm)		
586	土師器 甕	口径 (17.5)	口径部大きく外反、端部付近水平方即に張り出したのち、端部を上方にわずかに積み上げる。体部上端わずかに内湾。	口径部内外ヨコナデ 体部内面ヘラケズリ 体部外面細いハケ目	黄褐色	微砂。		

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
587	須恵器 杯蓋	口径 (16.1) 器高 3.3	天井部から口縁部にかけてゆるやかに傾斜し、肩部を屈曲させ、口縁部の先端は、尖り気味に仕上げられる。天井部中央に偏平な横みが付く。	全体にロクロナデ 内面の調整はやや粗雑	青灰色	微砂粒を多く含む。	良好	
588	須恵器 杯蓋	口径 (14.8)	天井部から口縁部にかけてゆるやかに傾斜し、口縁端部をわずかに屈曲。口縁部内面に短い反りが付く。	口縁部外面ロクロナデ、天井部外面ヘラケズリのものらしいナデ 内面粗いナデ	灰色	微砂粒を多く含む。	良好	
589	須恵器 高台付杯	高台高 (0.5) 高台径 (11.5)	断面長方形の高台がやや外方にふんばる。底部平坦。	底部内面丁寧なロクロナデ 底部外面やや粗いナデ	灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
590	須恵器 高台付杯	高台高 (0.4) 高台径 (2.4)	口縁部内高気味にナナメ上方に立ち上がる。底部平坦で断面方形の低い高台が付く。	全体にロクロナデ 底部外面はやや粗雑なナデ	灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
591	須恵器 椀	口径 (15.8)	口縁部ややナナメ上方に直線的に立ち上がる。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
592	須恵器 高台付杯	口径 (16.6) 器高 (3.5) 高台高 (0.4) 高台径 (11.0)	口縁部わずかに内高気味に立ち上がったのち、肩部付近でわずかに外反。口縁端部はわずかに尖り気味に仕上げられる。底部平坦で断面方形の低い高台が付く。	全体にロクロナデ 底部外面はやや粗雑なナデ	灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
593	須恵器 杯	口径 (18.7)	体部ナナメ上方に直線的に立ち上がり、肩部でごくわずかに内湾する。肩部付近の器内は薄い。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	不良	
594	須恵器 高台付壺	高台高 (0.6) 高台径 (10.5)	体部直線的にナナメ上方に立ち上がったのち、内高気味のものとなる。底部平坦で、断面方形のやや高目の高台が付く。	体部内外面高台部ロクロナデ 底部内面丁寧 底部外面ナデ 高台は貼り付けか。	灰色	微砂粒を多く含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
595	土師器 杯蓋		天井部中央ややくぼみ、偏平な高台が付く。	天井部中央ややくぼみ、偏平な高台が付く。	不詳	淡褐色	微砂粒を多く含む。	やや不良	
596	土師器 杯蓋		天井部わずかに口縁部に向けて傾斜。天井部中央に偏平で、わずかに中くぼみの構みが付く。	天井部わずかに口縁部に向かってゆつやかに立ち上がる。口縁部付近で外反する。端部は丸く仕上げる。	全体にヨコナデ	明赤褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
597	土師器 杯蓋	口径 (10.4)	底部は平坦で口縁部に立ち上がり、端部付近で外反する。先端は丸く仕上げる。	底部は平坦で口縁部に立ち上がり、端部付近で外反する。先端は丸く仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ 底部外面ナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
598	土師器 杯蓋	口径 (11.2)	口縁部やや内湾気味に立ち上がり、端部付近で外反する。先端は丸く仕上げる。	口縁部やや内湾気味に立ち上がり、端部付近で外反する。先端は丸く仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
599	土師器 杯蓋	口径 (12.0)	口縁部をわずかに屈曲させ端部を狭み出し先端部を尖り気味に仕上げる。	口縁部をわずかに屈曲させ端部を狭み出し先端部を尖り気味に仕上げる。	口縁部ヨコナデ	にぶい褐色	微砂粒を含む。	良好	
600	土師器 杯蓋	口径 (22.2)	口縁部ごくわずかに屈曲させ端部を狭み出し先端部を尖り気味に仕上げる。	口縁部ごくわずかに屈曲させ端部を狭み出し先端部を尖り気味に仕上げる。	口縁部ヨコナデ	にぶい褐色	微砂粒を含む。	不良	
601	土師器 杯蓋	口径 (13.8)	口縁部をわずかに屈曲させ、端部を狭み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。	口縁部をわずかに屈曲させ、端部を狭み出し、先端部を尖り気味に仕上げる。	口縁部ヨコナデ	明赤褐色	微砂粒を含む。	良好	
602	土師器 杯蓋	口径 (14.2)	口縁部を内側に巻き込み、端部をやや尖り気味に仕上げる。	口縁部を内側に巻き込み、端部をやや尖り気味に仕上げる。	口縁部ヨコナデ	淡黄色	砂粒を多く含む。(3mm)	やや不良	
603	土師器 杯蓋	口径 (16.0)	口縁部強く直線的にナメメ上方に立ち上がったのち、内側に巻き込む。	口縁部強く直線的にナメメ上方に立ち上がったのち、内側に巻き込む。	口縁部ヨコナデ	にぶい褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
604	土師器 杯蓋	口径 (11.0)	天井部は平坦で口縁部に向かって、ゆるやかに傾斜する。端部は内側に巻き込み、先端部は尖り気味に仕上げる。	天井部は平坦で口縁部に向かって、ゆるやかに傾斜する。端部は内側に巻き込み、先端部は尖り気味に仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ	にぶい褐色	砂粒を含む。(3mm)	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
605	土師器 杯	口径 (11.8) 器高 3.3 底径 (7.0)	口縁部はほぼ直線的にナナメ上方に立ち上がったのち、端部付近で外反。口縁部は丸く仕上げられる。	口縁部内外面ヨコナナデ	赭灰色	微砂粒を多量に含む。	やや不良	
606	土師器 杯	口径 (11.2)	口縁部、やや短く、やや直線的に立ち上がり、端部付近でわずかに外反する。	口縁部ヨコナナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
607	土師器 杯	口径 (12.0)	口縁部直線的にやや急激に立ち上がる。端部に近づくにつれて器内は薄くなる。先端部は尖り気味。	口縁部内外面ヨコナナデ	内褐色 外灰白色	微砂粒を含む。	良好	
608	土師器 杯	口径 (11.7)	口縁部はほぼ直線的に立ち上がり、端部ふきんで外反する。端部はややふくらむ。	口縁部ヨコナナデ	赤褐色	微砂粒を含む。	良好	
609	土師器 杯	口径 (12.8)	口縁部短くナナメ上方に立ち上がり、端部付近で外反し、少し巻き込む。	口縁部ヨコナナデ	赤褐色	微砂粒を含む。	やや良好	
610	土師器	口径 (12.8)	口縁部直線的に立ち上がったのち、わずかに外反する。端部は丸い。	口縁部端部付近ヨコナナデ	褐色	微砂粒を含む。	良好	
611	土師器 杯	口径 (12.7) 器高 (2.9) 底径 (9.6)	口縁部直線的にナナメ上方に立ち上がる。端部丸い。	口縁部両面ヨコナナデ	明赤褐色	微砂粒を含む	良好	
612	土師器 杯	口径 (14.2)	口縁部直線的に立ち上がり、端部付近で外反する。端部は丸く仕上げ、内側には浅いくぼみを含む。	口縁部外ヨコナナデか。 口縁部内ナナデ	淡褐色	微砂粒を含む。	良好	
613	土師器	口径 (14.2)	口縁部ゆるやかに立ち上がり、端部付近で外反する。端部は内側に屈曲し、外面に面を有する。	口縁部内外面ヨコナナデ	にぶい褐色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特 徴	手法の特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
614	土師器 杯	口径 (15.7)	口縁直線的に立ち上がり、端部付近で外反する。肩部は内側に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
615	土師器 杯	口径 (10.0)	口縁部やや短くナナメ上方に直線的に立ち上がり、肩部付近で外反のち、少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	外にぶい褐色 内灰白色	砂粒を含む。 (3mm)	良好	
616	土師器 杯	口径 (20.4)	口縁部ややナナメ上方に直線的に立ち上がる。	口縁部ヨコナデ	にぶい褐色	砂粒を含む。	やや不良	
617	土師器 杯	口径 (15.8)	口縁部直線的にナナメ上方に立ち上がり、端部付近で外反する。肩部はやや内側に巻き込み、先端はやや尖り気味に仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
618	土師器 杯	口径 (16.2)	口縁部やや短く、ナナメ上方に立ち上がり、端部付近でわずかに外反したのち、少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	明褐色	微砂粒を含む。	良好	
619	土師器 杯	口径 (16.2)	口縁部直線的に立ち上がったのち、外反し内側に巻き込む。	不詳	黄褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
620	土師器 杯	口径 (16.0)	口縁部急激に立ち上がり、端部付近で外反し、肩部は丸く仕上げる。	口縁部ヨコナデか。	淡黄褐色	砂粒を含む。 (3mm)	やや不良	
621	土師器 杯	口径 (16.8)	口縁部はほぼ直線的に立ち上がり、端部付近で、外反し、肩部は丸く仕上げる。	口縁部ヨコナデか。	にぶい褐色	微砂粒を含む。	良好	
622	土師器 杯	口径 (17.4) 器高 3.7 底径 (13.6)	口縁部直線的に急激に立ち上がったのち、外反し内側に巻き込む。	口縁部内外面ともヨコナデ 口縁部内面は強いヨコナデ	にぶい褐色	微砂粒を多量に含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
623	土師器 高台付 椀	高台径 (9.5)	体部直線的にナナメ上方に立ち上がる。体部外面に縁が付く。底部平坦で断面長方形の面高い高台か。やや外方にふんばる。	体部内外面ヨコナデ 底部内面ナデ 高台は貼り付け	淡赤褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
624	土師器 椀	口径 (9.9) 器高 (3.2) 底径 (1.2)	体部内湾気味にナナメ上方に立ち上がり、端部はごくわずかに外反する。端部分は蓋肉が薄い。	口径部ヨコナデ	にぶい褐色	砂粒を含む。(9mm)	やや不良	
625	土師器 椀	口径 (12.6)	口径部ややナナメ上方に直線的に立ち上がり、端部付近でごくわずかに外反する。	口径部ヨコナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
626	土師器 椀	口径 (11.0)	口径部直線的に立ち上がる。端部は丸く仕上げられる。	口径部内外面ヨコナデ	にぶい赤褐色	微砂粒を含む。	良好	
627	土師器 椀	口径 (12.4)	口径部ややナナメ上方にはほぼ直線的に立ち上がる。	口径部ヨコナデ 内面端部強いヨコナデ	にぶい褐色	微砂粒を含む。	不良	
628	土師器 椀	口径 (11.4)	口径部やや直線的にナナメ上方に立ち上がり、端部付近でごくわずかに外反する。	口径部ヨコナデ	褐色	微砂粒を含む。	良好	
629	黒色土器か 高台付 椀	高台径 (7.3)	体部内湾気味。ナナメ上方に立ち上がる。断面長方形の面身の高台がやや外方にふんばる。	不詳	内面反褐色 外面赤褐色	微砂粒を少量含む。	やや不良	
630	土師器 皿	口径 (9.1) 器高 1.0 底径 (7.0)	口径部極めて短く、わずかに内湾気味に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げられる。底部平坦。	口径部内外面ヨコナデ 底部内面ナデ 底部外面ヘラ切り のちナデ	黄褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
631	土師器 皿	口径 (10.4) 器高 0.7	口径部短くナナメ上方に立ち上がる。端部はやや外反する。	口径部にヨコナデ	褐色	砂粒を含む。(2mm)	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手 法 の 特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
632	土師器 皿	口径 (11.4)	口縁部短く立ち上がったのち端部付近で外反する。端部は丸く仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
633	土師器 皿	口径 (10.4)	底部は平坦で、口縁部に向ってゆるやかに立ち上がる。口縁部付近で外反する。端部は丸く仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ 底部外面ナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
634	土師器 皿	口径 (11.4)	口縁部直線的に立ち上がったのちゆるやかに外反する。端部は丸く仕上げる。	口縁部内外面ヨコナデ	褐色	微砂粒を含む。	良好	
635	土師器 皿	口径 (11.8)	口縁部直線的に立ち上がる。端部付近で外反したのち内側に巻き込む。端部は丸い。	口縁部内外面ヨコナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
636	土師器 皿	口径 (14.6)	口縁部内湾気味に立ち上がり、端部付近で外反する。端部は内側に屈曲し外面に面を有する。	口縁部内外面ヨコナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
637	土師器 皿	口径 13.6	口縁部は短く、オナメ上方に立ち上がり、端部付近わずかに外反したのち、少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	淡黄色	砂粒を含む。 (1mm)	やや不良	
638	土師器 皿	口径 (13.4)	口縁部を屈曲させ、端部付近でわずかに外反したのち、少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	淡褐色	微砂粒を含む。	良好	
639	土師器 皿	口径 (16.4)	口縁部直線的に立ち上がり、端部付近では外反する。端部を内側に巻き込み。先端部は丸く仕上げる。	口縁部ヨコナデ	にぶい微色	微砂粒を含む。	良好	
640	土師器 皿	口径 (15.1)	口縁部ゆるやかに立ち上がったのち、端部を外側に引き出す。	口縁部内外面ヨコナデ	褐色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
641	土師器 皿	口径 (15.5)	口縁部ゆるやかに立ち上がったのち外反し内側に巻き込む。	口縁部内外面ヨコナデ	淡赤褐色	微砂粒を多く含む。	良好	
642	土師器 皿	口径 (17.8)	口縁部短く立ち上がり、端部付近で外反する。端部はやや内側に巻き込む。	口縁部外面ヨコナデ	褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
643	土師器 皿	口径 (17.6)	口縁部短くナメ上方に立ち上がり、端部付近でわずかに外反したのち、少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	にぶい褐色	砂粒を含む。 (1mm~2mm)	良好	
644	土師器 皿	口径 (15.8)	口縁部短く、やや直線的に立ち上がり、端部付近でわずかに外反したのち、少し巻き込む。	口縁部ヨコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
645	土師器 皿	口径 (16.8)	口縁部内湾気味に立ち上がり、端部付近で外反する。端部は丸く内面に浅い溝を施す。	口縁部内外面ヨコナデ	褐色	微砂粒を含む。	良好	
646	土師器 皿	口径 (15.8)	口縁部直線的に立ち上がり、端部付近で外反する。端部はやや内側に巻き込み、先端は丸く仕上げられる。	口縁部内外面ヨコナデ	褐色	微砂粒を含む。	良好	
647	土師器 皿	口径 (17.8)	口縁部なだらかに内湾気味に立ち上がる。	口縁部ヨコナデ	淡褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
648	土師器 皿	口径 (18.4)	口縁部短くナメ上方に立ち上がり、端部付近でわずかに外反したのち、少し巻き込む。器内は厚い。	口縁部ヨコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
649	土師器 皿	口径 (18.5)	口縁部短く直線的にナメ上方に立ち上がり、端部付近で外反する。端部は内側に巻き込み、先端は丸く仕上げられる。	口縁部内外面ヨコナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
650	土師器 皿	口径 (11.2)	口径は短く、ナナメ上方にゆるやかに直線的に立ち上がり、端部は丸く仕上げている。	口径部外面ヨコナデ	にぶ黄褐色	微砂粒を少量に含む。	やや不良	
651	土師器 皿	口径 (22.0)	口径短く、ナナメ上方に直線的に立ち上がり、端部付近で外反のち、少し巻き込む。	口径部ヨコナデ	淡黄褐色	微砂粒を含む。	良好	
652	土師器 皿	口径 (21.4) 器高 2.5 底径 (17.0)	口径短く、やや直線的にナナメ上方に立ち上がり、端部付近でやや巻き込む。器肉がやや厚い。	口径部ヨコナデ	にぶい藍色	砂粒を含む。 (1mm)	良好	
653	土師器 皿	口径 (23.9)	底部平坦。口径部ゆるやかに立ち上がる。端部付近で外反し、端部はやや内側に巻き込む。	口径部内面ヨコナデ 外面不詳	淡褐色	砂粒を含む。 (3mm)	やや不良	
654	土師器 皿	口径 (24.0) 器高 2.1 底径 (20.7)	口径部短く、端部付近でわずかに外反する。端部は丸く仕上げられる。	口径部内外面ヨコナデ 底面内面丁寧ナデ 西外面へう切りのちナデ	褐色	微砂粒を少量含む。	良好	
655	土師器 高杯	口径 (24.6)	口径部直線的にナナメ上方に立ち上がり、端部をやや尖り気味に仕上げる。	口径部ヨコナデ	灰白色	微砂粒を含む。	やや不良	
656	土師器 高杯		口径部直線的にナナメ上方に立ち上がり、端部をやや尖り気味に仕上げる。	口径部ヨコナデ	淡褐色	微砂粒を含む。	良好	
657	土師器 高杯	底径 9.5	口径部に向って、やや急激に傾斜する。端部はやや内側に巻き込み、尖り気味に仕上げる。	口径部外面ヨコナデ	暗部褐色	微砂粒を含む。	良好	
658	黒色土器 碗	口径 (14.4)	口径部直線的で端部は丸く仕上げられる。体部やや内湾気味に立ち上がる。	不詳	内面黒色 外面明褐色	微砂粒を少量含む。	やや不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
659	須臾器 杯蓋	口径 (0.6) 口径 (2.4)	天井平坦で中央部に涙宝珠形の 溝みが付く。	全体にロクロナデ 溝みは貼り付け	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
660	須臾器 杯蓋の溝み	口径 (0.7) 口径 (2.5)	宝珠形の溝み。天井部の器内の 厚さが一定していない。	ロクロナデ	灰白色	微砂粒を少量 に含む。	良好	
661	須臾器 杯蓋	口径 (17.5)	口縁部ごくわずかに屈曲させ、 肩部を揃み出し、先端部尖り気 味に仕上げる。	全体にロクロナデ	灰色	微砂粒を含む。	良好	
662	須臾器 杯蓋		口縁部ごくわずかに屈曲させ、 肩部を揃み出し、先端部尖り気 味に仕上げる。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
663	須臾器 高台付 杯	口径 (12.4) 器高 3.3 高台径 (7.7)	口縁部やや内湾気味に立ち上り、 肩部付近でわずかに外反。口 縁部はわずかに尖り気味に仕 上げる。底部平坦で断面長方形の 低い高台が付く。	口縁部内外面高台部ロクロ ナデ 底部内外面ナデ	灰白色	微砂粒を少量 含む。	良好	
664	須臾器 蓋	底径 (8.8)	体部下部わずかに内湾気味に急 激に立ち上がる。底部は平坦に 仕上げる。底部外面凹凸顯著。	体部内外面底部内面ロクロ ナデ。底部外面糸切りのち ナデにより平滑に仕上げる。	灰色	微砂粒を少量 含む。	良好	
665	須臾器 高台付 杯		体部内湾気味に立ち上がり断面 方形の長い脚が付く。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
666	須臾器 蓋	口径 (18.0)	口縁部大きく外反する。肩部は 平坦。	全体にロクロナデ	灰色 (自然釉)	砂粒を含む。 (2mm)	良好	
667	須臾器 蓋	口径 (48.4)	口縁部大きく外反し、肩部平坦。	全体にロクロナデ	灰白色	砂粒を含む。 (1mm)	やや不良	
668	須臾器 蓋		体部内湾する。上部は急激に高 曲する。	体部叩き目 内面ナデ	青灰色	微砂粒を少量 含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
669	瓦			内面に基ばん目施す。	にぶい藍色	精良。	不良か。	
670	土師器 土罐	長さ 4.4 胴径 1.2 重さ(g) 5	管状土罐。	棒に粘土を巻き付けて成形 外面ナデ調整	黒色	精良。	不良	
671	土師器 土罐	長さ 3.4 胴径 1.1 重さ(g) 3.15	管状土罐。	棒に粘土を巻き付けて成形 外面ナデ調整	赤褐色	精良。	やや不良	
672	土師器 土罐	長さ 3.6 胴径 1.4 重さ(g) 6.1	管状土罐。	棒に粘土を巻き付けて成形 外面ナデ調整	赤色	微砂粒を少量 含む。	良好	
673	土師器 土罐	長さ 3.6 胴径 1.3 重さ(g) 5.6	管状土罐。	棒に粘土を巻き付けて成形 外面ナデ調整	赤褐色	微砂粒を少量 含む。	良好	
674	土師器 土罐	長さ 4.9 胴径 1.4 重さ(g) 6.5	管状土罐。	棒に粘土を巻き付けて成形 外面ナデ調整	赤褐色	微砂粒を多く 含む。	やや不良	
675	土師器 土罐	長さ 3.1 胴径 1.2 重さ(g) 3.95	管状土罐。	棒に粘土を巻き付けて成形 外面ナデ調整	にぶい藍色	精良。	不良	
676	須臾器 円面碗	口径 (19.4)	翻台欠片。膝部平坦で口縁部周囲 縁部に断面三角形の突起状の突起 帯をめぐらせる。脚部に長方形 の透しが入るが。	口縁部全体にロクロナデ 膝部やや粗雑なナデ 透しはへう切りか。	灰色	微砂粒を少量 含む。	良好	
677	土師器 杯	口径 (13.8) 器高 2.4 底径 (9.0)	口縁部直線的にナナメ上方に立 ち上がり、膝部尖り気味に仕上げ る。底部平坦。全体に器肉が薄い。	調整不詳 底部へう切り	明赤褐色	微砂粒を少量 含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特微	手法の特微	色調	胎土	焼成	備考
678	土師器 杯	口径 (15.8) 器高 3.1 底径 (11.0)	底部平坦。口縁部は直線的にナナメ立ち上がり、端部付近で外反する。端部は尖り気味に仕上げる。	底部へう切りののちナデ 口縁部外面丁寧なヨコナデ 口縁部内面ナデか。	にぶい褐色	砂粒を含む。 (3mm)	やや不良	
679	土師器 杯	口径 13.2 器高 3.7 底径 9.7	口縁部はほぼ直線的に急激に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げる。底部平坦。	調整不詳	淡褐色	微砂粒を多く含む。	やや不良	
680	土師器 杯	口径 (10.1)	体部ナメ上方に立ち上がる。底部平坦で断面方形の高台がつく。	全体にヨコナデ 高台は貼り付け	にぶい褐色	砂粒を含む。 (1mm)	やや不良	
681	土師器 高台付杯	口径 (8.7)	底部平坦の長方形をした高めの高台がややふんばる。	高台部外面ヨコナデ 底部へう切りののち丁寧なナデ	にぶい褐色	砂粒を多く含む。 (2.5mm)	良好	
682	土師器 高台付杯	口径 9.05	底部平坦。断面逆台形の低い高台が付く。	口縁部高台部ヨコナデ 底部へう切りののちナデ	褐色	やや砂粒を含む。	良好	
683	土師器 高台付杯	口径 (9.6)	口縁部ゆるやかに立ち上がる。底部平坦で断面方形の低い高台が付く。	口縁部内外面ヨコナデ 底部へう切りののちナデ 高台貼り付け	内面淡赤褐色 外面明赤灰色	やや微砂粒を含む。	やや不良	
684	土師器 高台付杯	口径 (16.6) 器高 3.6 底径 (12.0)	体部やや直線的に立ち上がる。やや短めの断面方形の高台が付く。	口縁部ヨコナデ 高台は貼り付け	淡黄褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
685	土師器 皿	口径 (28.0) 器高 (2.3) 底径 (25.2)	口縁部やや短く、ほぼ直線的に立ち上がる。端部付近でわずかに外反。器内はやや厚い。	口縁部ヨコナデ	褐色	微砂粒を含む。	やや不良	
686	土師器 皿	口径 (25.4)	口縁部短く、やや直線的にナナメ上方に立ち上がる。端部付近で外反。底部平坦。	口縁部ヨコナデ	淡褐色	砂粒を含む。 (2mm)	やや不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
687	土師器 高台付皿	底径 20.2	口縁部、直線的にナナメ上方に立ち上がる。底面はやや丸みをおび、断面方形の低い高台がふんばる。	口縁部内外面ヨコナデ 底面へう切りののちナデ	にぶい橙 色	やや砂粒を含まむ。(2mm)	やや不良	
688	土師器 甕	口径 (14.2)	口縁部大きく外反。輪部付近でこくわずかに内反。輪部は丸くおさめる。	口縁部ヨコナデ	橙色	砂粒を含まむ。	良好	
689	土師器 土埴	高さ 3.7 口径 1.1 重さ(g) 3.15	管状土埴。	埴に粘土を巻きつけて成形 外面ナデ	橙色	微砂粒を含まむ。	良好	
690	土師器 土埴	高さ (4.1) 口径 2.0 重さ 2.70	管状土埴。	埴に粘土を巻きつけて成形 外面ナデ	にぶい橙 色	砂粒を多量に 含まむ。(2mm)	やや不良	
691	須恵器 杯蓋	口径 (16.7)	天井部平坦。口縁部に向ってゆるやかに傾斜する。口縁輪部はわずかに屈曲。	全体にロクロナデ	灰色	砂粒を多く含 む。	やや不良	
692	須恵器 杯蓋		天井部平坦で、口縁部に向ってゆるやかに脱く。天井部中央に扁平な輪みが付く。	全体にロクロナデ	灰白色	微砂粒を多く 含む。	やや不良	
693	須恵器 杯蓋		天井部平坦。天井部中央にやや高めの扁平な輪みが付く。	全体にロクロナデ 輪み貼り付けか。	灰黄色	微砂粒を少量 含む。	やや不良	
694	須恵器 杯		底面は平坦。やや低めの断面方形の高台が付く。	ロクロナデ 高台は貼り付け	灰色	微砂粒。	良好	
695	須恵器 高台付杯	底径 (12.5)	底面やや丸みをおび、底方形の高台がややふんばる。	底面へう切りののちナデ 高台は貼り付けか。	明青灰色	微砂粒を多く 含む。	良好	
696	須恵器 高台付杯		口縁部直線的に急激に立ち上がる。底面平坦で断面方形の低い高台が付く。	口縁部ロクロナデ 底面へう切りののちナデ	青灰色	やや微砂粒を 含む。	良好	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	色 調	胎 土	焼 成	備 考
697	須恵器 高杯		口縁部直線的にナナメ上方に立ち上がったのち、大きく外反し、内面に巻き込む。端部はやや尖り気味。	口縁部内外面ヨコナデか。	灰白色	やや砂粒を含む。(2mm)	不良	
698	須恵器 円面碗脚部		脚部大きく外方に開き、脚部間に断面三角形の突起をめぐらせ、端面を平坦に仕上げる。長方形の透しを入れる。	全体にロクロコナデ 透し部はへら状工具で切り取る。	灰色	微砂粒を少量含む。	良好	
699	須恵器 円面碗脚部		脚部はほぼ直線的にナナメ上方に広がり、端部付近で外反。端部平坦。	全体にロクロコナデ 方形の透孔 外区部は中央に溝をつける。	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
700	須恵器 高台付壺	高台径(14.4) 高台高(2.5)	高台はほぼ直線的にナナメ上方に立ち上がる。断面方形の	全体にロクロコナデ 高台は貼り付けか。	灰白色	微砂粒を含む。	良好	
701	須恵器 すり鉢	口径(28.7)	体部は直線的に外方に伸び、口縁部が直立する。口縁外面に凹凸をもつ。	口縁部と体部はロクロコナデ 内面はナデのもの、条線を撫す。	灰赤色	砂粒を含む。 (3mm)	良好	
702	黒色土器 椀	底径(8.3)	体部内湾気味に立ち上がる。断面方形の高台がふんばる。	底面外面ヨコナデ 底面内面丁寧なナデ 高台は貼り付け	内黒色 外にぶい 褐色	砂粒を含む。 (2mm)	やや不良	
703	黒色土器 椀		体部わずかに内湾気味に立ち上がる。底部はやや丸みをおび、断面方形の高台が付く。高台先端部はやや外反。	側面ナデ 内面に暗文 高台は貼り付け	黒色	微砂粒を含む。	良好	
704	黒色土器 高台付皿	高台径(10.1)	底面やや内湾気味、断面方形の高台が付く。	全体にへら切りナデ 内面に暗文か。	黒色	微砂粒を含む。	良好	
705	緑釉陶器 椀(?)	高台径(6.0)	断面三角形の低い高台が付く。	全体にロクロコナデか。	黄褐色 褐色	精良。	不良	

番号	器種・器形	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	色調	胎土	焼成	備考
706	縁輪陶器 碗(7)	高台径 (7.2)	体部やや内湾気味にナナメ上方に立ち上がる。断面三角形状で、内面に段をもつ高台が付く。	全体に丁寧なロクロナデ	素地淡緑色	精良。	やや不良	
707	縁輪陶器 皿	高台径 (7.3)	口縁部(体部か)やや内湾気味にナナメ外方に立ち上がる。底部平坦。断面方形の高台が付き、やや外方にふんばる。	全体に丁寧なロクロナデ 底部回転糸切りか。 高台は貼り付け	素地灰色	精良。	良籽	
708	区輪陶器 高台付杯	高台径 (7.2)	体部下面、内湾気味に立ち上がる。底部平坦で、やや変形した断面台形状の高台が付く。	全体にロクロナデ	灰白色	精良。	良籽	

版 圖



免播調査地遠景



免播調査地遠景



発掘調査地近景



盛土堆積状況



旧地表水田面



旧地表水田面



旧水田面



旧水田面



第1調査区建物遺構



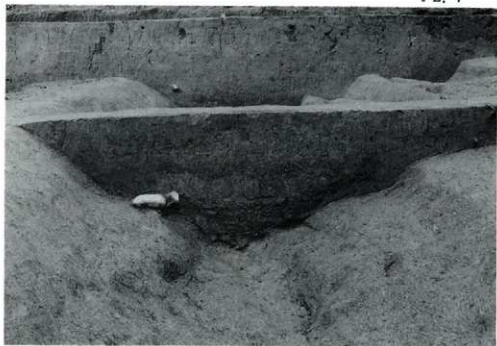
土器出土状況



第1调查区清检出状况



第1调查区淤堆状况



第1調査区溝堆積状況



第1調査区流路堆積状況



第1調査区第2遺構面ビット5



第1調査区第2遺構面ビット5



第1調査区第2遺構面ビット7



第1調査区第2遺構面ビット11



第1調査区第2遺構面ビット32



第1調査区第2遺構面ビット42



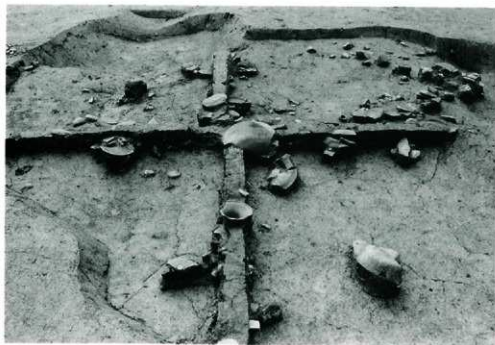
第2调查区沟堆横状况



第2调查区沟堆横状况



土器だまり（検出前）



土器だまり検出状況



第2調査区ピット1



第2調査区ピット2



第2調査区ビット3



第2調査区ビット6



第2調査区ビット7



第2調査区ビット10

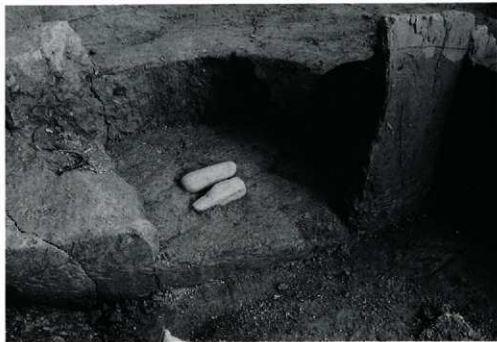
PL. 16



第2調査区ピット11



第2調査区ピット12



第2調査区ビット13



第2調査区ビット14



第2調査区ビット14(完掘)



第2調査区ビット15



第2調査区ビット15・16



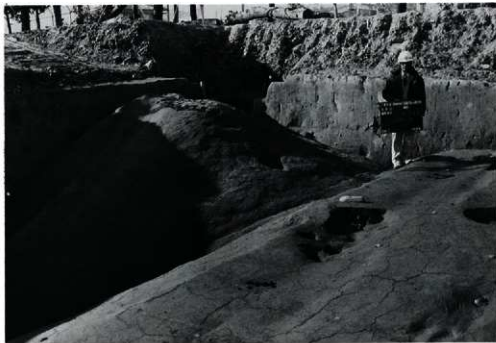
第2調査区ビット16



現地説明会風景 1



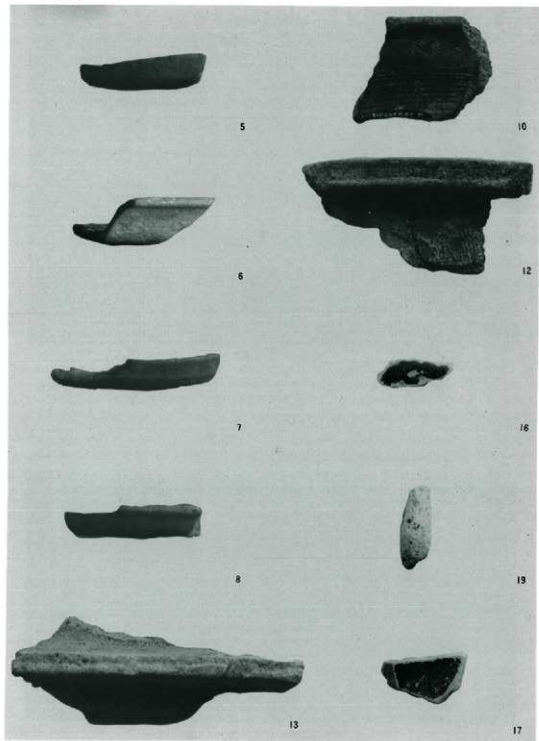
現地説明会風景 2



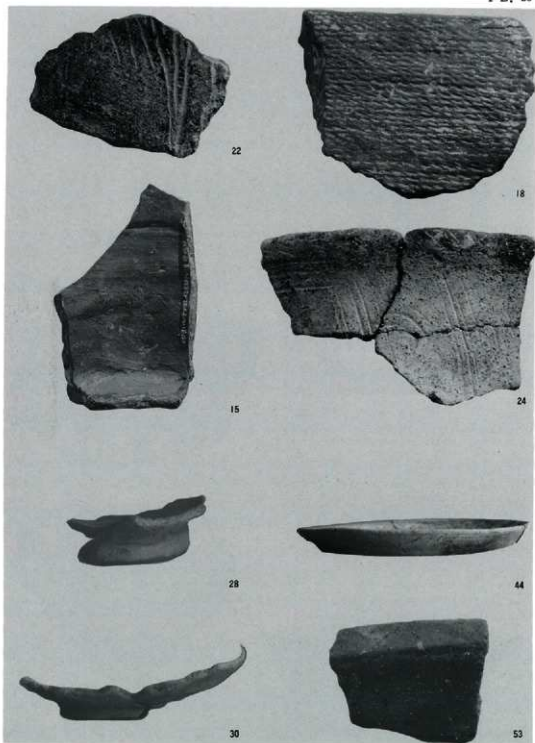
遺構保存作業状況 1



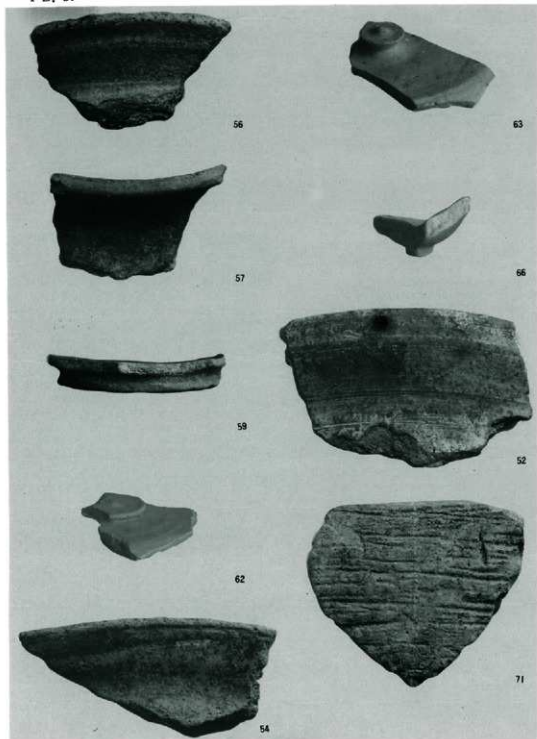
遺構保存作業状況 2



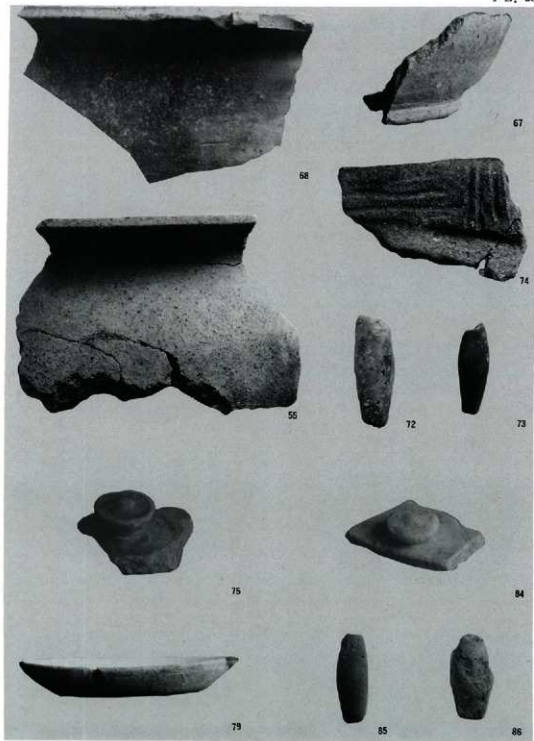
第1调查区 清A



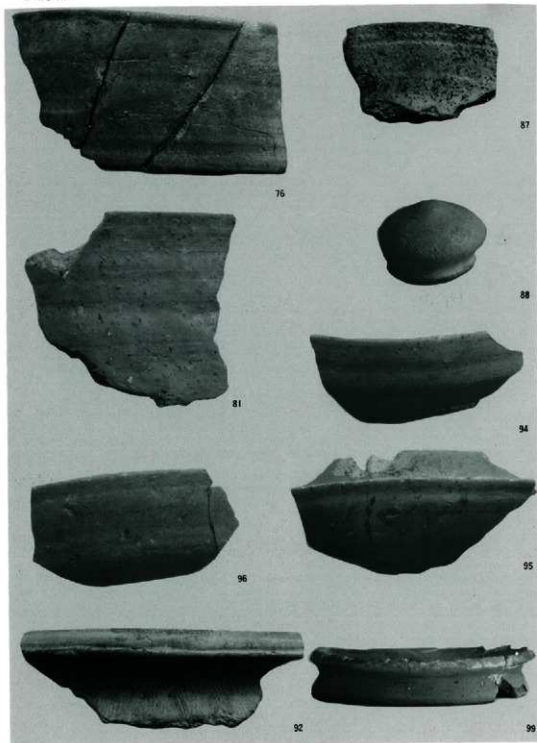
上 第1調査区 溝A
下 第1調査区 溝C



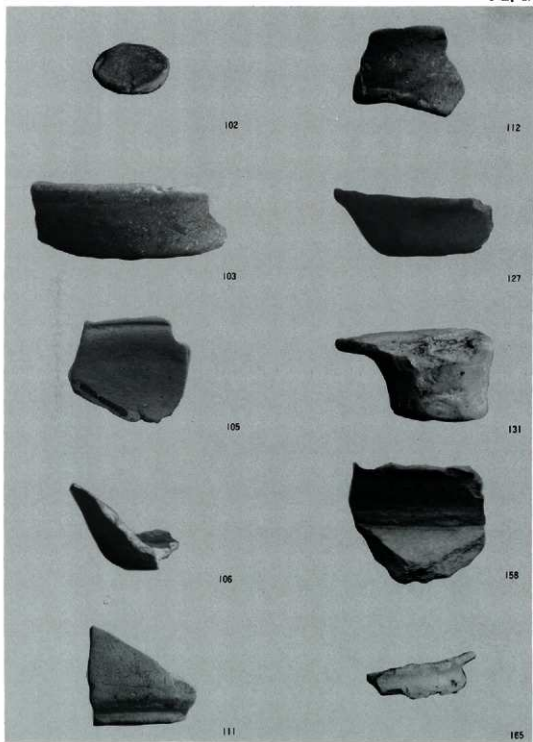
第1調査区 溝C



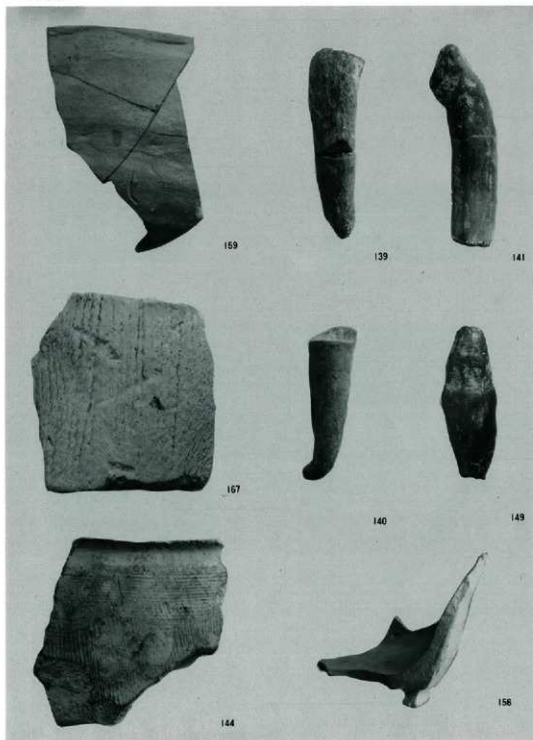
上 第1調査区 溝C
下 第1調査区 溝B



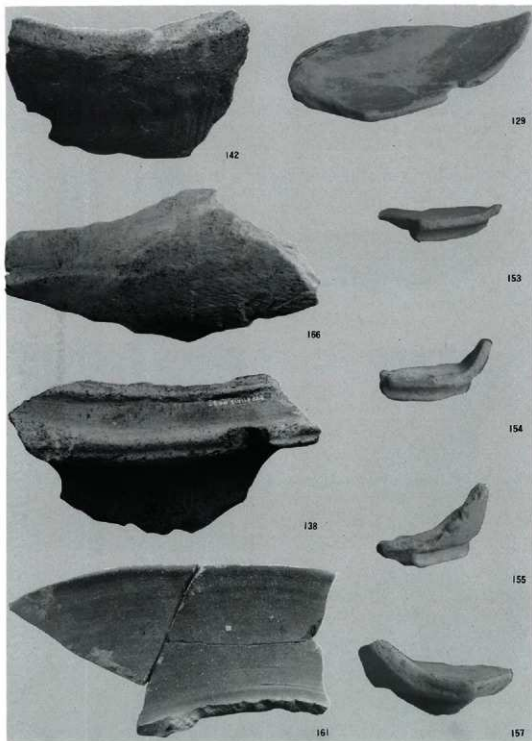
上 第1調査区 溝B
右中 第1調査区 流路
下 第1調査区 ビット



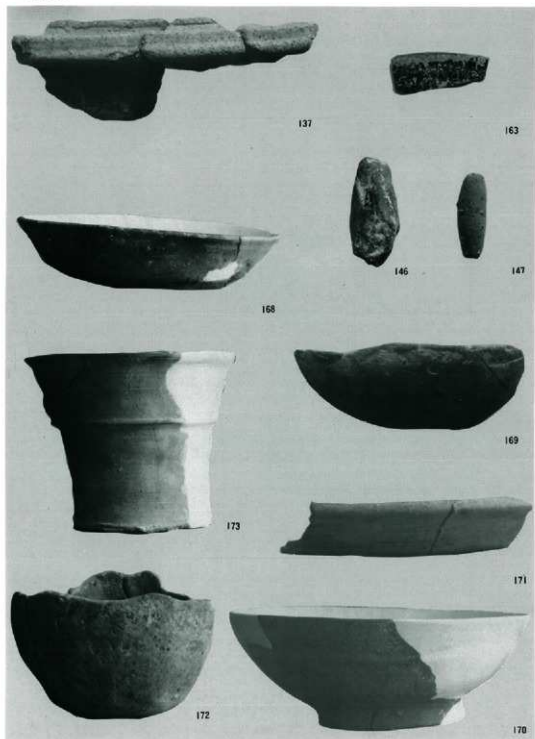
第1調査区 包含層



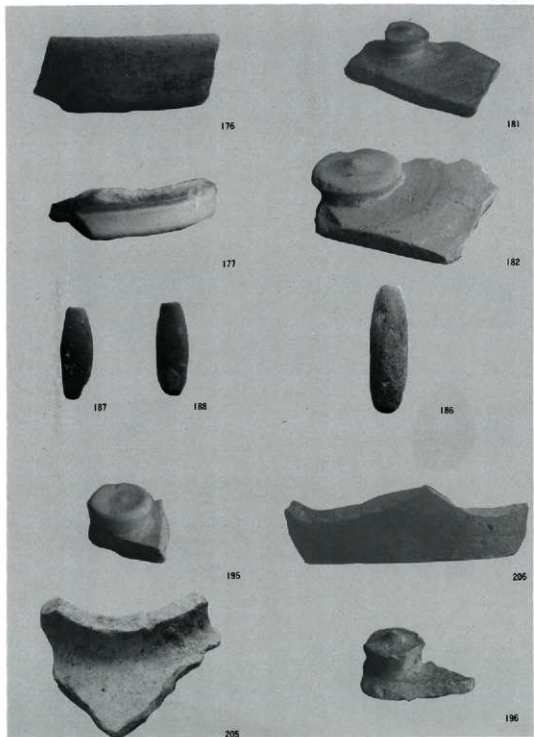
第1調査区 包含層



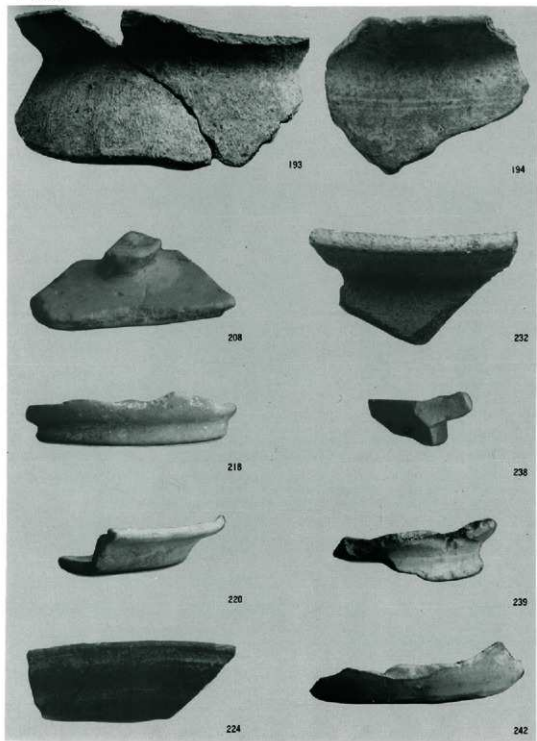
第1調査区 包含層



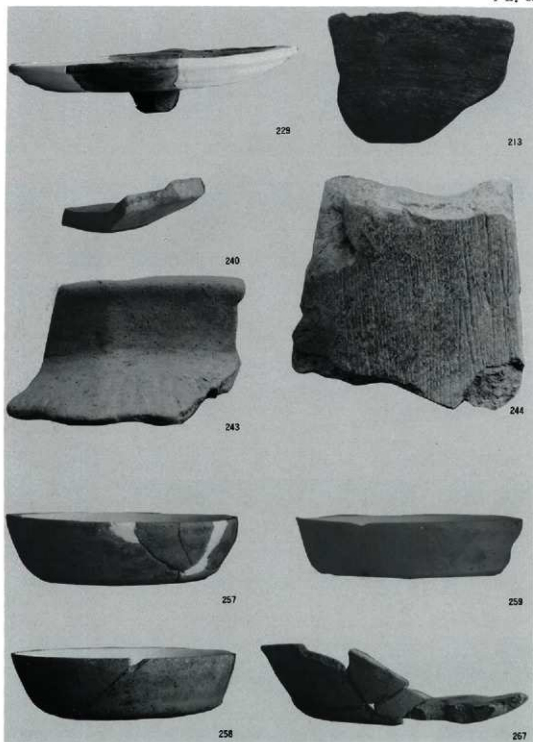
上 第1調査区 包含層
下 第1調査区 第2遺構面 ビット



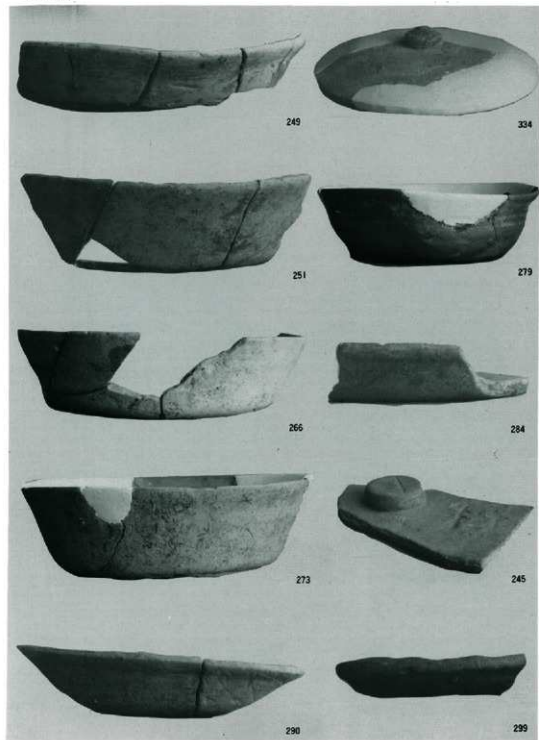
上 第1調査区 第2遺構面 包含層
 下 第2調査区 溝D



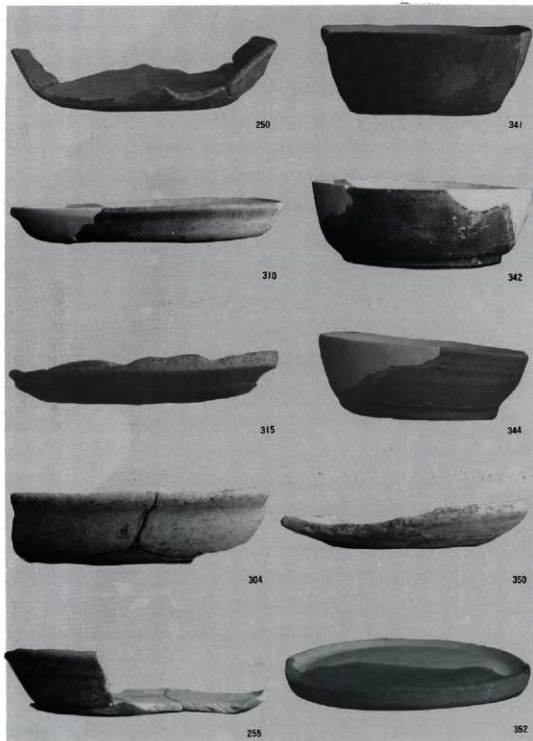
上 第2調査区 溝D
下 第2調査区 包含層



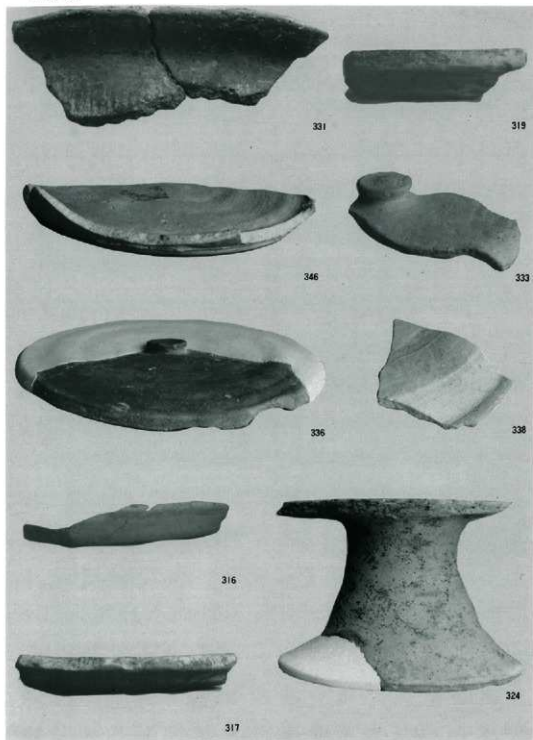
上 第2調査区 包含層
 下 第2調査区 土器だまり



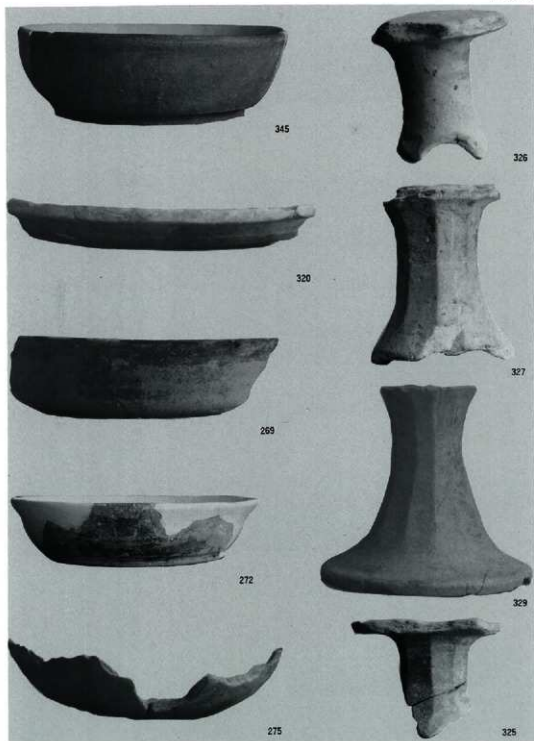
第2調査区 土器だまり



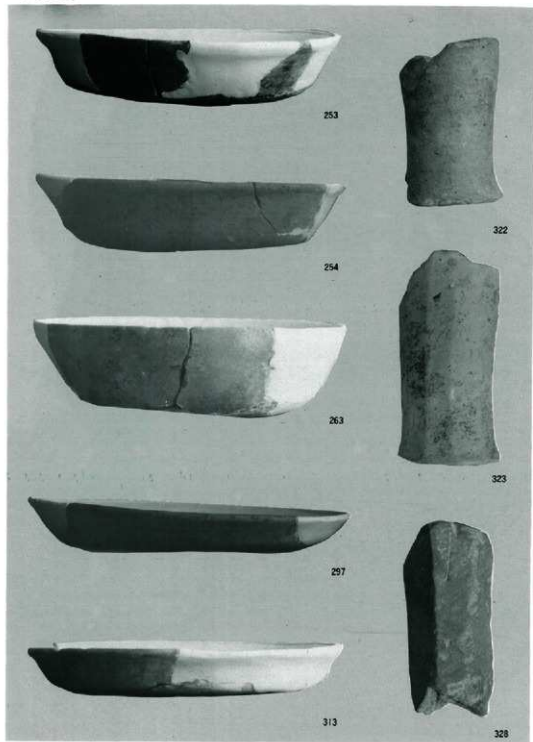
第2調査区 土器だまり



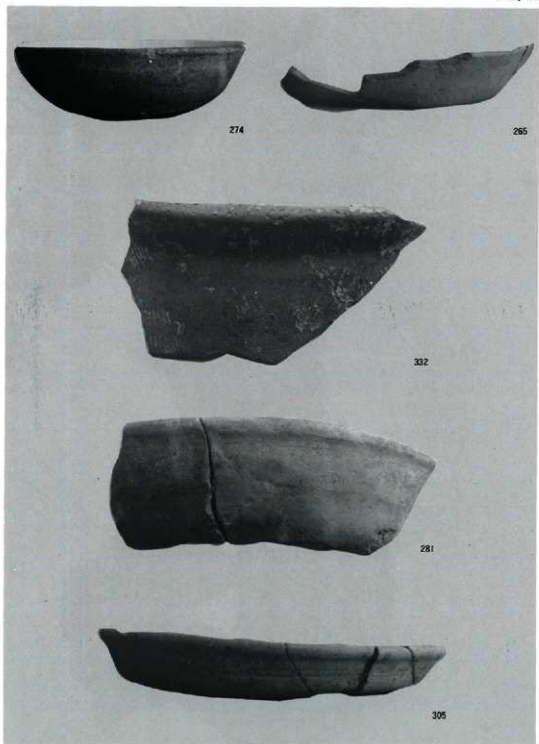
第2調査区 土器だまり



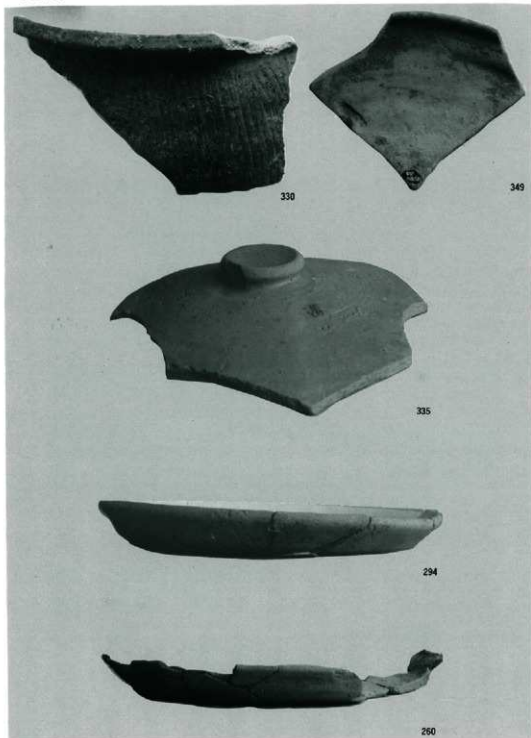
第2調査区 土器だまり



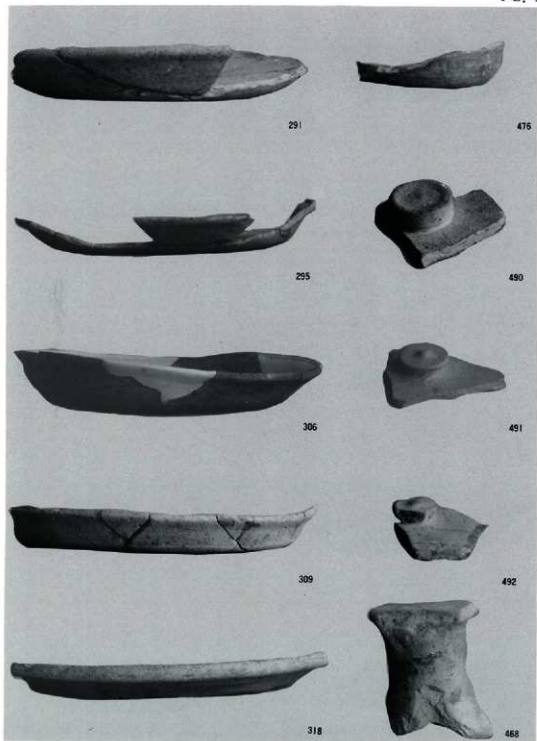
第2調査区 土器だまり



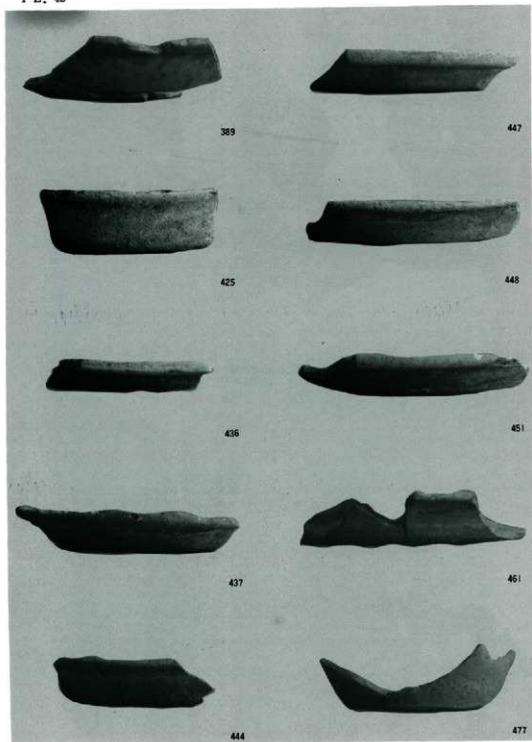
第2調査区 土器だまり

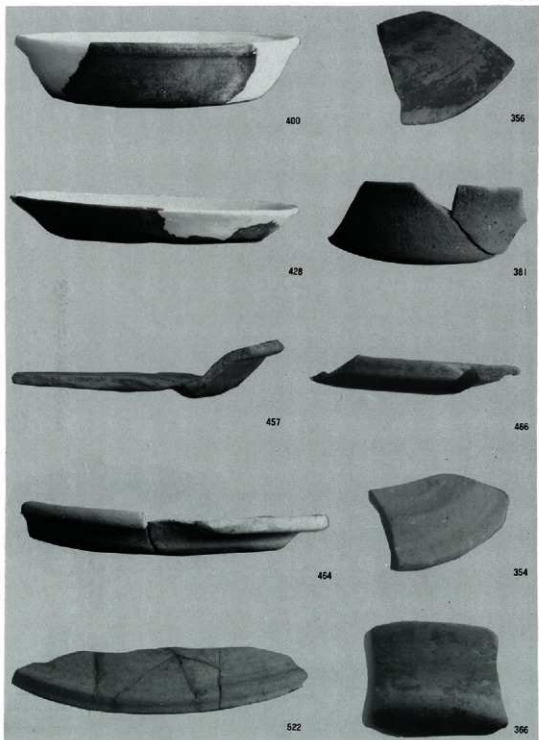


第2調査区 土器だまり

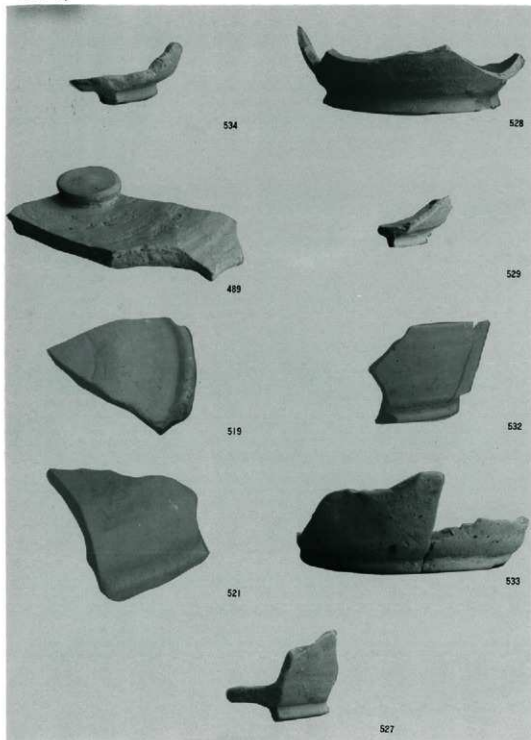


左 第2調査区 土器だまり
 右 第2調査区 溝E

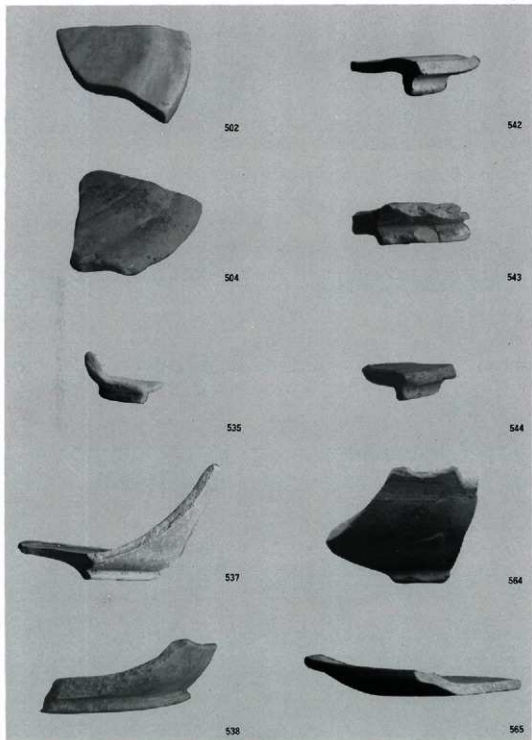




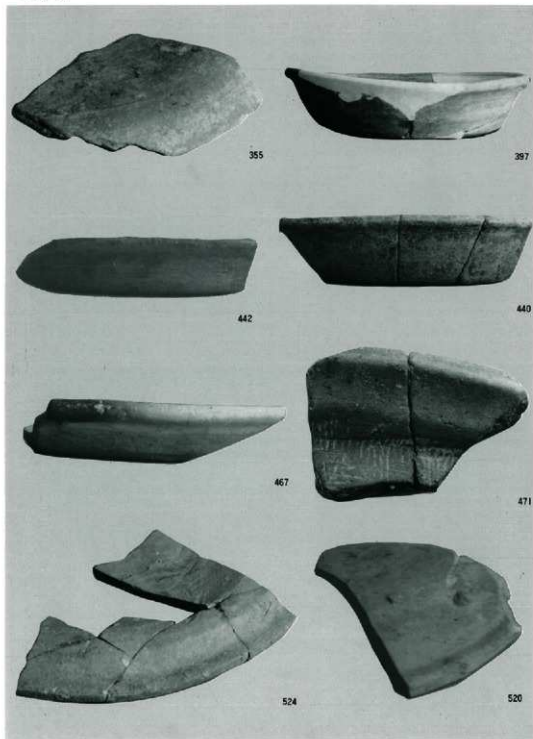
第2調査区 溝E

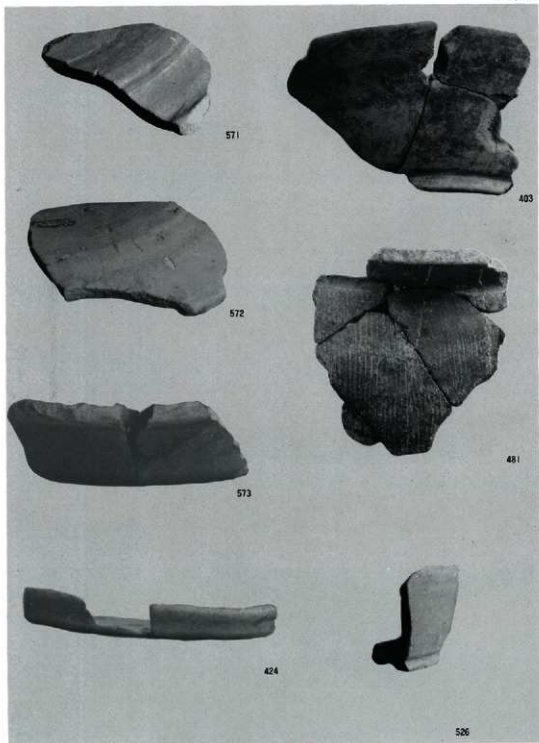


第2調査区 溝E

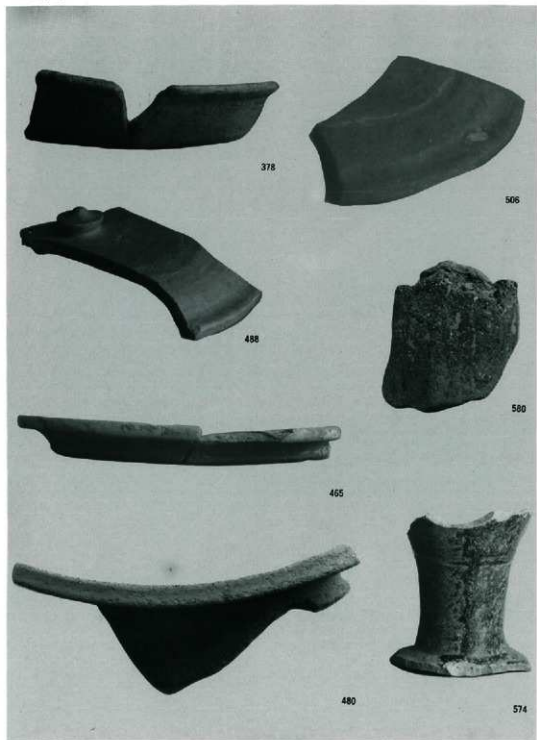


第2調査区 溝E

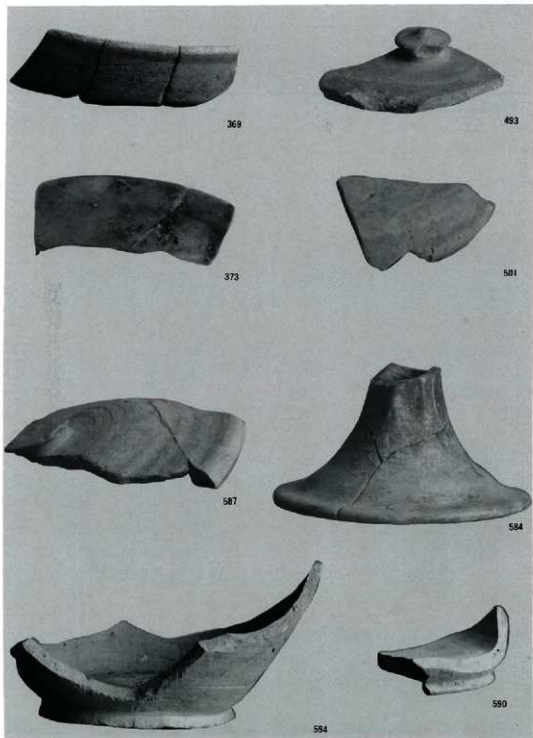




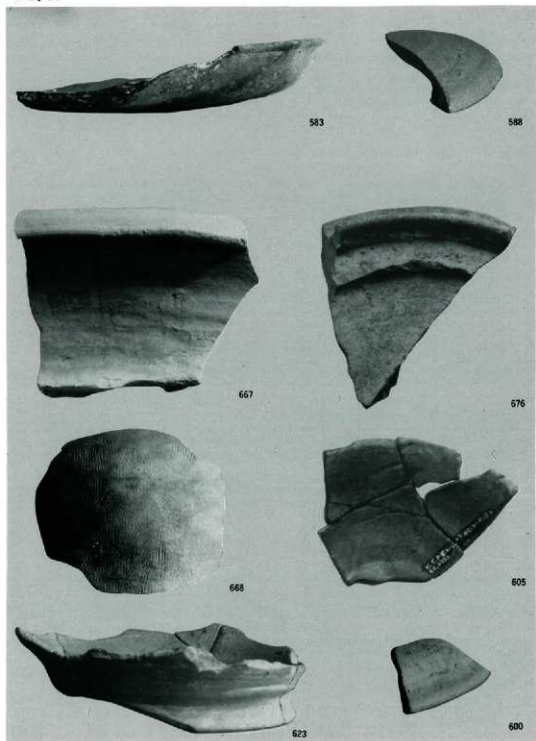
第2調査区 溝E



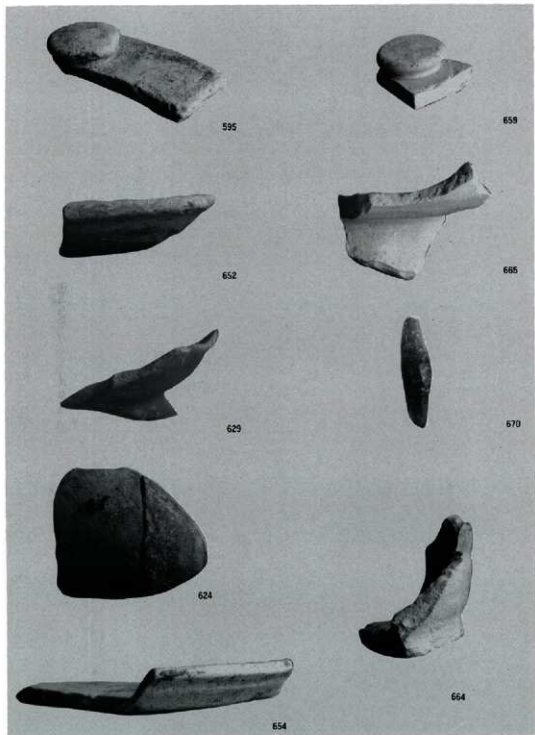
第2調査区 溝E



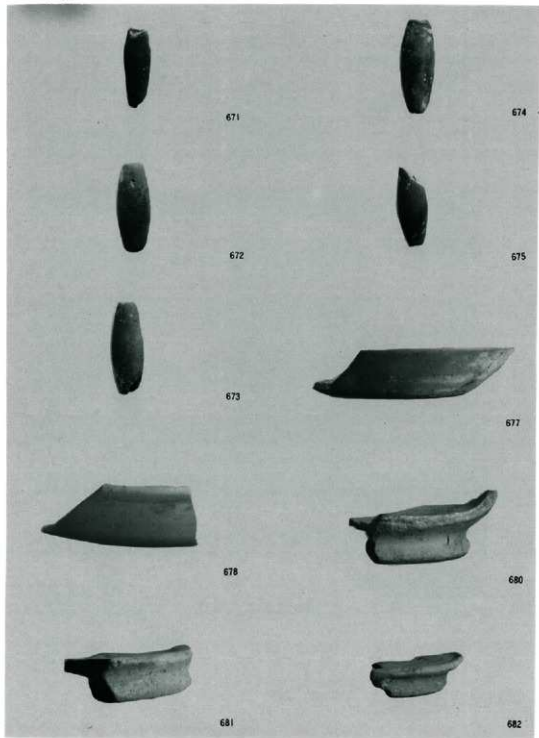
上 第2調査区 溝E
下 第2調査区 ビット



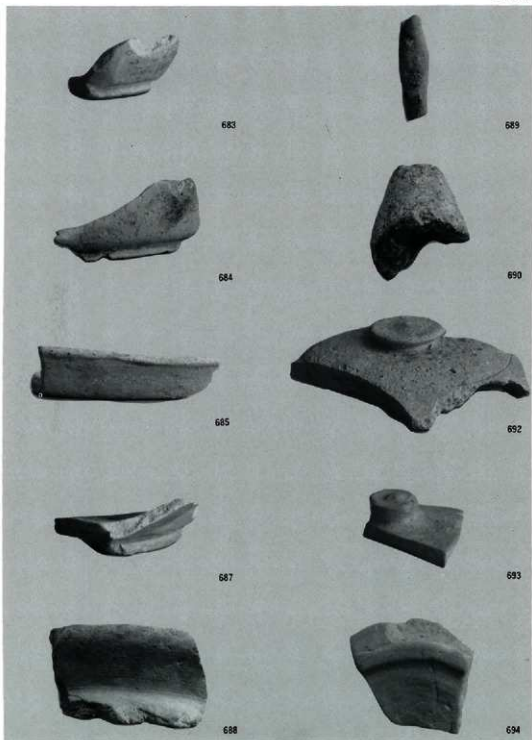
上 第2調査区 ビット
下 第2調査区 包含層



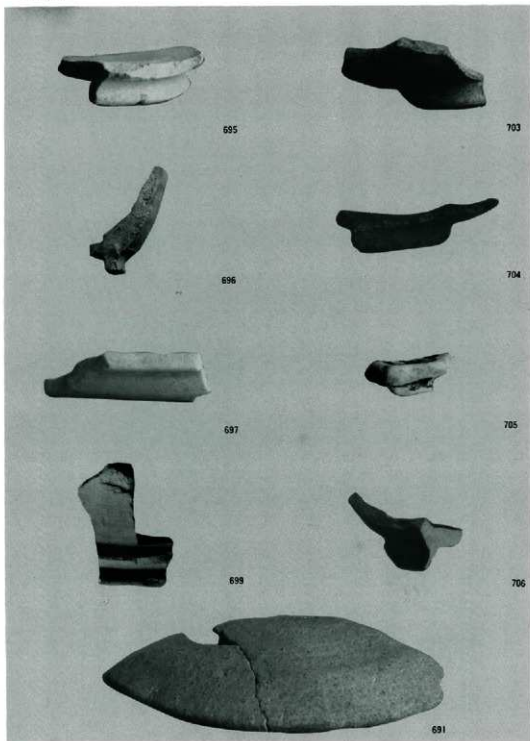
第2調査区 包含層



上 第2調査区 包含層
下 出土地点 不明



出土地点 不明



出土地点 不明

**徳島県立国府養護学校プール建設工事
に伴う高畑遺跡発掘調査概要報告書**

発行年月日 平成2年3月
編集・発行 徳島県教育委員会
徳島市万代町1丁目1
印刷 徳島教育出版センター
徳島市川内町平石流通団地